

初夏

世界の山旅 境界の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

名峰をひとりでハイキングをコンパクトな日程でリーズナブルに 絶景の展望台に建つ山上ホテルに宿泊する、ハイライトコース ヨーロッパでもっとも美しい村、3300m以上の標高に広がる

スイスアルプス2大名峰 展望ハイキング 7・8日間 <small>大阪</small> ●6/23発(8日間).....¥338,000 ●7/8発(7日間).....¥358,000 ●7/21発(8日間).....¥368,000	スイス・ハイキング・ハイライトと 絶景の山上ホテル 9日間 <small>東京</small> ●6/7発.....¥408,000 ●6/14発.....¥518,000 ●6/21発.....¥546,000	チロル・ハイキング・ハイライトと 美しい村ゆったり滞在 9日間 <small>東京</small> ●6/25発.....¥520,000 ●7/2発.....¥540,000 ●7/9●7/16発.....¥554,000
--	---	---

花々が開花しはじめるさわやかな初夏のロッキーへ！ ロッキー座席の人気ロッジで深い感動を味わう わずか4時間のフライトで秘境カムチャッカへ

初夏のカナディアン・ロッキー・ 満喫ハイキング 8日間 <small>大阪・東京</small> ●6/7●6/14発.....¥388,000 ●6/21●6/28●6/28発.....¥392,000	アシニボイン・ロッジと レイクルイズ 8・9日間 <small>大阪・東京</small> ●6/15発(8日間).....¥516,000 ●6/26発(9日間).....¥542,000 ●6/29●7/8発(8日間).....¥518,000	カムチャッカ半島 アバチャ山登山 5日間 <small>大阪</small> ●7/17発.....¥268,000 ●7/24●7/31発.....¥280,000 ●8/7発.....¥282,000
--	---	---

アンデスを代表する華やかな山岳群を歩く内山トレッキング 華やかな山岳群を満喫、全ホテル泊、島路標高なし、 お花畑天国と5,000m峰登山

アンデス・ブランカ山群 トレッキング 11日間 <small>東京</small> ●5/30●6/20●7/4発.....¥420,000 ●8/29●9/16発.....¥428,000	ブランカ山群ハイライト 大パノラマ・ハイキング 9日間 <small>東京</small> ●5/31●6/21●7/5発.....¥384,000 ●6/30発.....¥390,000 ●9/17発.....¥398,000	四姑娘山トレッキングと 大姑娘山登山 10日間 <small>大阪・名古屋・福岡・東京</small> ●7/5●7/11●7/14●7/18●7/25発.....¥318,000 ●8/1●8/8●8/15発.....¥338,000
---	---	--

77,000,000m級の雄大な山岳群とパノラマ、エキゾチックな5000m峰登山 世界遺産・韓国最高峰登山と済州島を満喫 南海に望める名峰を登るスタンダードコース

北アフリカ最高峰Mt.ツバル登山と サハラ砂漠と世界遺産の街モロッコ周遊 12日間 <small>大阪・名古屋</small> ●5/18●6/15発.....¥498,000	韓国最高峰・漢拏山登山と 済州島満喫 4日間 <small>大阪・名古屋・東京</small> ●5/21●5/28●6/4●6/11発.....¥146,000 ●10/22●10/29●11/5発.....¥144,000	マレーシア最高峰 Mt.キナバル登山 6日間 <small>大阪・東京</small> ●5/17●6/7発.....¥204,000 ●7/24発.....¥256,000 ●9/20発.....¥236,000
---	---	--

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

日本アルパインツアー協会 499号 / 日本山岳旅行協会 加盟 日本山岳連盟
アルパインツアーサービス株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
 東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
 名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
 札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4511(転送)
 (樹りんゆう観光) 広島/☎082(542)1660(転送)
 e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間でおリジョアルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
キングを企画したい、いつもの山仲間と海外の山歩き
をしてみたい、というような場合には、アルパインツアーか
らツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プ
ランについては、経験豊富なスタッフがご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します

指月谷（カツラ谷）は桂が多い谷である。蛇谷ヶ峰登山道沿いに数本が林立している



登山道が沢を渡るところの見事な桂の大木



桂の大木を下流からおおき見ると、樹齡の深さが伝わってくる

近江の山 樹木の四季 —初夏—

山本 武人

朽木の山・指月谷の「桂」(高島市朽木柏)

私は、この谷間が現在のような登山道が無い時に上柏から林道を進み、谷を登った。この時は谷名を指月谷と呼んでいた。名前も指月というすばらしい名で気に入っていた。現在、桂が林立する場所ももうすこし薄暗かったように思える。

「いきものふれあいの里」から登山道ができ、多くの人達が訪れるようになり、そこは休憩場所になっている。案内板もあり桂を眺めるポイントでもある。名前をカツラ谷と呼んでも不思議でない。

桂のあるこの風景はこれからも末永く愛されるのに違いない。



鯉幟（尾道）

瀬戸内海 きらめく海の回廊
 銀色に輝き悠久の歴史を紡ぐ
 大坂に上がる船も九州へ下る船も
 潮待ちの港として栄えた瀬の浦
 大伴旅人・朝鮮通信使・坂本龍馬
 光と陰とが音もなく戯れる水平線
 陽光が島々を艶やかに装わせる
 おだやかな海を行き交う大小の船
 船先が分ける波と泡立つ航跡の白
 空と海の澄んだ青にきらめかす
 宮城道雄がイメージした「春の海」
 絵巻物のように美しい瀬戸の景色
 海と空が接する辺りから陽は昇る
 青と黄と赤 何ともいえない青
 潮の香を含んだ風が頬をなでる

後楽園（旭川）



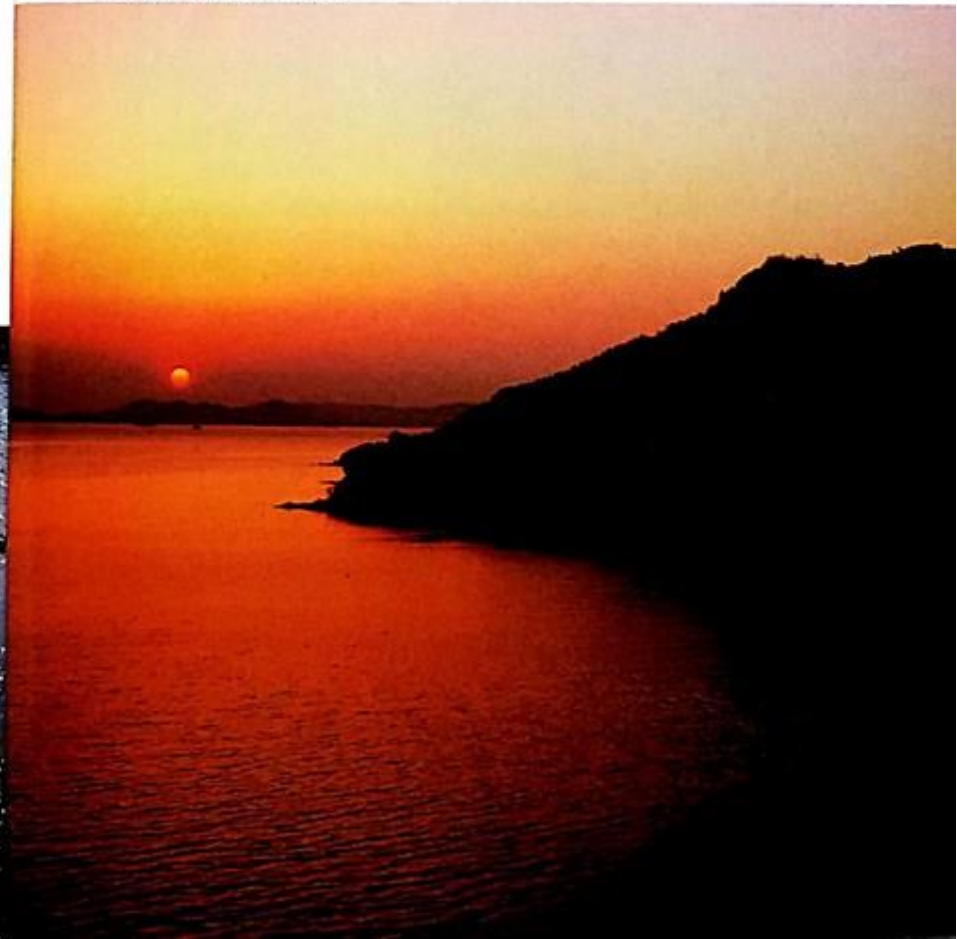
Photo essay

瀬の浦



題字 中田 闔 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

瀬の浦（宮城道雄「春の海」）





コウホネ咲く

アユ漁解禁

山荘

季節の



実景

南山城村 (京都府南部)

初夏

撮影 武市通治

初夏の茶畑

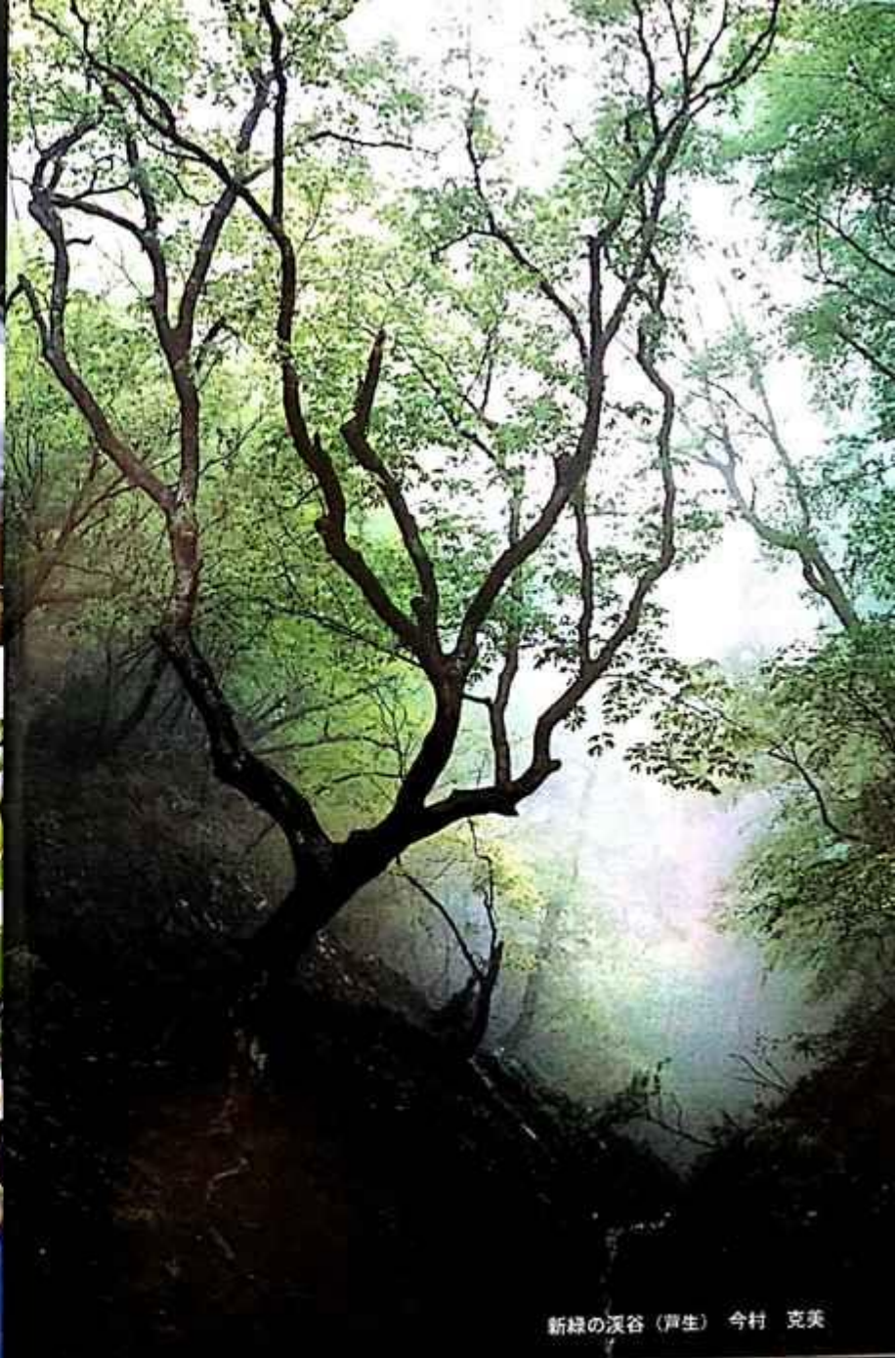
笹百合可憐





陽光の渓谷（阿寺山地・田立ノ滝夕森天然公園） 武田 誠司

雪解けの水辺に咲く水芭蕉（尾瀬ヶ原） 中川 光郎



新緑の渓谷（芦生） 今村 克美

●表紙 春の中田代と至仏山(尾瀬)..... 松田敏男
●口絵 近江の山・樹木の四季..... 山本武人
Photo essay「納の浦」..... 松永恵一
季節の実景-兩山城村-..... 武市通治
・今村克美・武田誠司・中川光郎
新緑の季節に-奥吉野探訪-..... 奥田英一郎



笹ヶ峰牧場 (西村文男)

新緑の季節に -奥吉野探訪 (本文20ページ参照)-

奥田 英一郎



わび住まいにも春



「とくとくと……の苔清水」



ライトグリーンに映えて

巻頭紀行

随想

紀行

情報

安土山から嵯峨山

貴船の由来

随想

奥吉野に西行庵を訪ねる

御池岳
標高による山の紹介シリーズ40 △△00mの山

三方ヶ岳・釈迦ヶ岳・岩岳・仙千代ヶ峰

サカ谷南方尾根から小女郎谷北方尾根

山本山から稜ヶ岳へ

紅葉の名所、内蔵山

文学歴史ハイイク⑨ 奈良町に元興寺を訪ねて

情報

北海道登山

山のレポート

山のレポート

コースガイド

① 細葉落とガリバー旅行村

② 福高山と東福寺

③ 愛宕参詣道 (北合峠道・出雲峠道)

④ 于石山

せせらぎ

サービステーション

山行計画・報告

木村 太郎

綱本 逸雄

奥田英一郎

長谷川雅俊

松田 敏男

小山 誠次

磯部 純

吉見 英樹

松永 恵一

金谷 昭

内田 嘉弘

西尾 寿一

長宗 清司

森木 伸人

柴田 昭彦

磯部 純

入会案内・新入会員紹介

原簿募集・編集後記

広告案内

巻頭言

関東を中心に活動する「新ハイキング」誌の関西版として「関西の山」を創刊したのは、平成3年の秋。以来17年目に入り、マンネリの誹りはあろうが、100号を刊行するに到った。

これまでの定期購読者(会員)の総数は延べ5300人余。多くの例会を企画実施し、関西エリアの山を中心に登り、たくさんのお客さんなコースを歩いてきた。そして山の原稿・写真も多くの方に寄せていただいた。

これらの山行は係(リーダー・サブリーダー)の方の、誌面を飾る写真・文章は寄稿の方の、まさに山への情熱と意欲によって支えられてきた。関西の岳人に心より御礼申し上げたい。

この間、仕事の合間をぬっての編集・山行は、忙しい毎日であったが、充実感と喜びはそのぶん多かった。「山」は飽きないだろう。次は200号を目指してがんばろうと思う。

新ハイキング関西(代巻) 村田 智俊

夢想の山を歩く

安土山から織山

湖東

木村 太郎

電車に乗って山歩きに出かける時、連れがいなければ、車内で読む嵩張らない文庫本を携行する。この日、光文社刊の『現代詩殺人事件・ポエジーの誘惑』をザックに、東近江の安土山から織山へ歩きに来た。

幻想小説選集をひろげ、濹澤龍彦や塚本邦雄などの短編を電車内で読んでいるうちに、JR安土駅に着く。ある意味で山歩きはファンタジー小説のように、現実からドロップアウトして、夢想のなかに身をゆだねる気分にはさせるものがある。

安土駅を出て安土セミナリオ跡を通り、安土城直轄の菩提寺、摺見寺跡へ通じる百々橋に向かう。



道を抜け石段を登って行けば、古びた二王門と三重塔に出会う。

中世西欧の悪魔学の翻訳などで知られる濹澤龍彦(1928~87)は、書斎派の印象がある。1977年の初夏に書斎から飛び出し、出版社の編集者とカメラマンを伴い、彦根城や安土城跡を訪ねている。

その時取材した安土城跡や彦根城の紀行文は、ヨーロッパ各地の古城、スフィンクスやピラミッド等、濹澤が城砦愛好趣味を披瀝した文章と共に、白水社刊『城・夢想と現実のミニメン』にまとめてある。

下豊浦の百々橋でタクシーから降りた濹澤は、徳富蘇峰筆の「安土城跡」の石碑を見て石段を登る。「この石段は、たしかに信長自身が足で踏んだにちがいない石段、フロイスやオルガンティノーのものだった石段だ。」と素直に感動している。

日本の城に寄せる印象は、会津の白虎隊が自刃した飯盛山から眺めた城と



安土山天守閣跡

ところが百々橋口は通行止めの柵を立ててあり、大手門口に廻り道させられた。平成18年秋から入山料を取るようになり、大手門口からしか出入りできなくなっている。

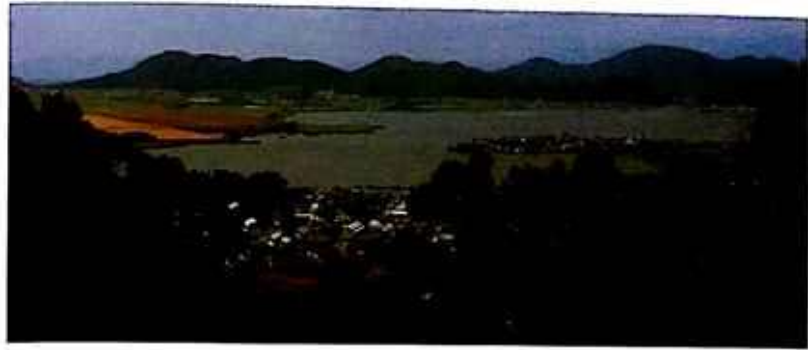
若い受付嬢にガイドマップを貰い、大手道避け、伝羽柴秀吉邸跡から摺見寺跡へ迂回する。木立のなかの水平

か、歌曲「荒城の月」の古城にあると濹澤は言う。元来、「悲壮美や廃墟美を担わせられた日本の城のイメージには、心をそえられることはなかった。」とも打ち明けている。

日本の城に目もくれなかった濹澤は、宣教師フロイスの『日本史』を読み、安土城に特別の興味を抱く。「信長は、山の頂に宮殿と城を築いた。財宝と華麗さにおいて、ヨーロッパの最も壮大な城に比肩し得るもの」と言う、外国人の文章に触発されたのだ。現存しない城に想像力をかきたてられて、彼は東近江の旅に出かけたのである。

「そして(城の)真中には、彼らが天守と呼ぶ塔があり、我ら(ヨーロッパ)の塔よりもはるかに気品があり、壮大な別種の建築である。」とフロイスが激賞した、その城の残影を求めて安土城を訪れたのである。

一大堂塔伽藍を構えていた摺見寺は、安土落城にも焼け残ったが、幕末に本堂が焼失した後、いまは古色蒼然とした所在ない姿の三重塔と楼門を残すだ



徳見寺跡からの眺め

けである。本堂跡の高台にたたずんだ
 濹澤は、水郷の風景と水田地帯、後ろ
 に広がる長命寺山や八幡山を眺めて、
 過ぎ去った時に思いを馳せている。

5月の陽光をあびて汗ばんだ肌を風
 に吹かれつつ、黒金門跡、信長墓廟を
 まつる二の丸跡、本丸跡そばの台所曲
 輪跡、そして天守閣跡に登り、城跡を
 隈なく探訪している。かつて信長が築
 いた道を濹澤は追いかけて歩く。

濹澤は無邪気に、「天守閣跡の石垣
 の上によじのぼって、目路はるか西に
 ひろがる平野を眺めわたしてみた。」
 という。信長が安土城の天守閣から天
 下を俯瞰したように、時代をさかのぼ
 り大地を遠望していた。

濹澤龍彦が安土城跡に興味を持った
 のは、「織田信長という人物がたいそ
 う好き」だという理由もある。「暴力
 と天才とダンディズム」によって近世
 を切り開いた、破天荒なる信長のイメ
 ージこそ、悪魔学や黒魔術を著した作家
 が魅かれる姿なのである。
 イエズス会東インド巡察師のヴァリ

ニャーノが帰国するため、信長に暇乞
 いにいく逸話を濹澤は語る。信長は理
 由を告げずに、出発をのばすように巡
 察師に伝えたという。

7月15日の玉蘭盆会の日、信長は安
 土城を色とりどりの提灯で飾り立てる。
 闇のなかに天守閣を浮かび上がらせ、
 巡察師を仰天させる。その明かりは
 「琵琶湖の水面に反映して、この世な
 らざる美しさであった。」と、濹澤は
 祭りの光の輪に加わり、酔いしれた観
 客のように興奮をかくさない。

宣教師オルガンティニーノに地球儀を
 見せられ、正しい世界観を身につけ先
 鋭的な思想を有していた信長。中世西
 欧の悪魔学を世に出して、有罪の作家
 となった濹澤龍彦。不確かな現実の世
 界に夢想の城を築き上げた2人に共通
 点があるがゆえに、作家が信長に好意
 を寄せる気持ちもわかるのである。

濹澤龍彦が昔に歩いた足跡どおりに、
 安土山（198頁）頂に登り、大手道
 の石段405段を下りる。安土城お堀

めぐりの船乗り場の旗が立つ朝鮮人街
 道に出て、近江風土記の丘の道標で曲
 がり、勸請西国三十三所の石碑から北
 腰越の山道に取り付いた。

子授け地藏をまつる石鳥居、石仏が
 並ぶ巡礼道の織山西尾根をたどる。天
 智天皇ゆかりの桑実寺の分岐を見送り、
 佐々木氏の観音寺城が築かれたと「太
 平記」に記された、観音寺山の別名が
 ある織山へ向かう。

織山（432・5頁）二等三角点を
 後に、「佐々木城址」の石碑に廻る。
 濹澤龍彦の短編集『わむり姫』に、東
 近江の山城を話にした小説「夢ちがえ」
 がある。織山の山中に点在する石垣や
 岩窟を目にして、時代を隔てて歩く佐々
 木城跡が、小説「夢ちがえ」の舞台に
 思えてしまう。

耳が不自由な万奈子姫は、山城に幽
 閉されていた或る日、臣下の小五郎の
 舞い姿を矢狭間から見つける。その夜
 に、姫と小五郎は不思議な夢を共有す
 る。姫の夢の中に小五郎の夢が吸い込

まれていった。

万奈子姫の耳は聞こえるはずがない
 のに、小五郎の歌声を聞き、ふたりは
 恋心を抱き合う。男の愛人である或る
 女の悪計で男は殺され、万奈子姫も死
 んでしまう。小説は一種の残酷童話と
 いえるものである。

濹澤龍彦の「夢ちがえ」で注目した
 いのは、夢想的な筋書きではない。東
 近江に築かれた山城の位置関係を示す、
 まわりの山々のリアルな描写にある。
 まるで山岳紀行文であり、短い文章で
 的確に表現している。

小説の冒頭での、「琵琶湖の周辺に
 わずかに平野をのこすのみで、近江の
 地はほとんどすべて山に占められてい
 る。」の書き出しに続いて、まわりの
 山地の名を列記することで、小説に真
 実味を加えている。幻想小説に山の描
 写の現れることに、意外な思いで読書
 したことを忘れられない。

織山からの下山は、北の地獄越から
 能登川駅、南の石寺から安土駅への道

があるが、この日は、私淑する歌人塚
 本邦雄（1922（2005）ゆかりの
 地への寄り道を思い立つ。北東麓の結
 神社登山口を下り、近江鉄道五箇荘駅
 へ出る道を選ぶ。

西園観音霊場札所観音正寺から、裏
 山の観音寺城本丸跡をビストンした。
 駐車場の横に出て結神社へ山道をくだ
 る。景清道を北に歩き、近江商人博物
 館に立ち寄った。幸運にも日展画家三
 輪良平の特別展が開かれており、砥圖
 の京舞妓や大原女の美しい絵画を鑑賞
 した。

城跡の天渡る鳥のこゑ聴きぬ
 秋日はふかし湖底の如く

東近江市五箇荘は塚本邦雄の生まれ
 故郷である。若き日に安土城跡に遊ん
 で詠んだ歌が歌集『初學歴然』に所収
 されている。歌人が若き日とはいえ、
 安土山に登っていることが嬉しい。塚
 本邦雄の命日（6月9日）神變忌は、
 11日後である。



織山山頂と二等三角点

物語」で華々しく登場、第3歌集『日本人蓋歌』で現代歌人協会賞を受賞した。後年は近畿大学教授となり、歌誌『玲瓏』を創刊している。著書数およそ三百余冊、90年に紫綬褒章を受章し、現代の歌聖という声価さえあがる。

塚本は故郷五個荘について、「到る處に泉があり、それを源として泉川が網の目のやうに流れてゐたことが、何よりも戀しい。」と語った。故郷の自然景観には深い愛着があったが、氣質風習になじめずに近江商人の町を捨てている。

伊吹嶺の紫に耀るあかときは
 ころもにほふわが故里や

塚本が生まれた町、歌人が育った商人屋敷を保存する通りから、歩いて来た織山を見つめ直した。歌人の故郷の山は、新緑の歡喜の歌声を発しているようだ。時が過ぎて、秋冷の悲哀に包まれるのは運命なのかもしれない。

歌は残り歌人ほろびてまたの世の
 秋冷銀砂敷きたることし

塚本邦雄が歌集『不変律』に所収した歌である。永遠に山が存在し、名歌が遺されている限り、この世には「生きる楽しみあり」と信じられるのである。(平成19年5月29日歩く)

△コースタイム▽

JR安土駅(30分) 大手門口(40分)
 安土城本丸跡(20分) 大手門口(20分)
 北腰越(1時間) 織山(30分) 観音正寺(10分) 観音寺城本丸跡(50分) 結神社登山口(20分) 近江商人博物館(30分) 近江鉄道五個荘駅
 △地形図▽2万5千1八日市

塚本の第15歌集『詩歌變』の「詩歌文學館賞」受賞を記念し、「塚本邦雄の變を嘉する会」が開かれた時の話。歌人は百歳まで生きて「神變」と題する歌集を上梓したいと挨拶した。歌集は出ず、神變忘が出来た。

東大阪市鴻池に居住、歌集『水葬

前衛短歌の旗手として頭角を現し、難解歌の多い塚本に故郷の歌は少ない。稀少な故郷を詠んだ歌である。伊吹山や安土山や織山など、まわりを取り囲む山々の風景が、故郷の印象なのだろう。

随想 山のエッセイ

貴船の由来

綱本 逸雄

鴨川の水源である貴船川の川上に位置する式内社貴船神社(左京区鞍馬貴船町)は、古来、山谷の雨水を司る水神として崇敬された。本社の祭神は高瀧神(山上の竜神)である。『諸社根元記』(二十社註式)などでは岡家女神(水の神)、閼龍神(谷に住む竜神)とするが、いずれも水を司る神である。

本社の北に奥宮(古代の本社)と貴船山山中に雨乞

の滝(龍王瀧)がある。近世の『山州名跡志』に「龍王瀧、木舟神は雨を乞うに其の驗あり。其の時この瀧に來て祈ること旧例なり」とある。『新古今集』に「社司ども貴布禰に參りに雨乞し侍りける序によめる、大み田のうるほふはかりせきかけて 井関に落とせ川上の神」(實茂幸平)と詠まれ、雨乞い神事で唱える神歌だった。現在、禁足地であるが、毎年3月9日に雨乞祭が行われている。

『貴船』の史料上の初見は『日本紀略』の弘仁九年(818)五月八日条に「山

城國愛宕郡貴布禰神社と為す」とみえる。社名は、氣生嶺、木船、貴船なども記されたが、明治以後貴船と定めた。

奈良期は大和国の式内社丹生川上社(現、丹生川上神社中社)が雨乞いの神として公的な祈雨・止雨儀礼の中心であったが、平安遷都後は、貴布禰社が加えられ、丹貴二社(統日本後紀承和六年(839)六月朔条など)と称された。農業を中心とする日本では雨乞いは古代から重要な儀礼のひとつであり、『延喜式』卷三臨時祭には、「祈雨神祭八十五座」が載る。とりわけ「丹生川上社、貴布禰社に各黒毛馬一疋を加う。自余(その他)……其の霖雨(長雨)止まずは、祭新た

に亦同じ。但し、馬は白毛を用いる」と請雨止雨を祈るには二社への奉幣があった。神靈の乗りものとされた神馬を献上し、神の降臨を願った。雨を祈る場合は黒馬、晴れを祈る場合は白馬が習わしだった。後には板立馬(給馬)が奉納された。給馬のはしりといわれる。

丹生川上社の「丹生」はニフとも書くが、池田末則『地名伝承学論補訂』(クレス出版)「丹生・壬生」によると、「水生」の転訛・改字という。壬生(ミヅノ)のようにミとニが音通(五十音図の同行または同段の音の転換)である。中京区壬生は、もと低湿地で湧泉が多く水生と称した(京都府地誌)。吉田東伍

『大日本地名辞書』は「壬生」に「ミブ、ニブ」のルビを付し、「(平安京の)左京壬生通は宮城美福(壬生の意)門に当る」と記す。

『和名抄』筑前国上座郡安房国長狭郡、遠江国磐田郡の郷名「壬生」はすべて「爾布」(ニフ)の訓注。愛媛県西条市壬生川は「ニウガワ」と称している。

『伊予温故録』に「もと丹生川と書いたが、文和元年(1352)に壬生川に改めた」とある。つまり丹生、壬生、水生は異字同義で、川上の水源地や湧水を意味する。鎌倉期の国語辞書『名語記』にも「ミフ(壬生) ミはミツノエ(壬)のミ、フはウマル(生)のウをフといひ」とある。

また、各地の水源地には、

古来、雨乞いの神である水分神が祭られていることが多く、流水の分配を司った。水分とは水配(みくばり)の意で、山から流れ出た水が分岐する所、分水嶺をいう。「古事記」に天之水分神・国之水分神二神がみえ、『続日本紀』文武天皇二年(698)四月条に「馬を芳野(大和国吉野)水分峯神に奉りて、雨を祈ふ」とある。水分もミクマリもミブと訓め、水生の意である。

さて、貴布祢の由来は、従来、玉依姫が黄船に乗って賀茂川から貴船川畔の当地に上陸し、一字を創建したからという説や、また気生嶺(木生嶺)の神だったので、樹木の生い茂る山の神だったという説がある。

だが、『式内社調査報告』第一巻によると「黄船」または「気生嶺」は、宝暦以降成立の『黄船社秘書』、『木船』は戦国期の吉田兼右撰『二十二社註式』、『山州名跡志』など中世末期以降の著書に登場する社名なので、これらの社名に基づく由来説は後世に創作されたものである。

従って、奥社にある玉依姫が乗ったという黄船にちなんだ舟形石もその成立は古代に遡れない。

もともと平安・鎌倉期の国史史料・日記・文学などでは、「貴布祢(祢)」「貴船(舟)」などで表記され、木舟、黄船は見当たらない。訓みは古来より「キフ(ツネ)」である。

ところで、奈良県高市郡

明日香村上に式内社、氣津和既神社(祭神・氣津別命)がある。「大和志」に「上村に在り、傍らに瀑布有り高さ三丈(九段)ばかり」とし、近隣三村ともに祭祀に預かるとある。池田末則氏によると気津和既は「ミツワキ(水分)」の転訛で、飛鳥川上流の水分神社である。水(ミ) ↓ キの転訛については、『伊呂波字類抄』「幾」辞字に「水キヨシ」とある。佐藤喜代治『色葉字類抄略注』(明治書院)も、「(辞字) 浄キヨシ又キヨム」で同じ訓みに「水」をあげ、典拠に『礼記』典礼の「水、清濂と曰う」を引用する。したがって水はキヨシと訓むが、約音(音節の脱落)でキとも訓んだ。

これからいえるのは貴布祢(キブネ)は水分嶺(ミブネ)の転訛であり、水源地の山、分水嶺を意味し、先述の『続日本紀』にいう「水分峯」である。水分峯神の社(旧地背根ヶ峯山頂)は現、吉野水分神社だが、ミクマリ ↓ ミコモリ(水龍身龍) ↓ ミコモリ(御子守)と転訛し、子守明神となった。『枕草子』二一八七段(三巻本)に「みこもりの神又をかし」と記している。和歌ではこの水分山(水分峯)を平安期以後ミツワケヤマと訓んでいる。

なお、貴船川と鞍馬川の合流点、貴船口南の旧字地掘取に掘取社(貴船社末社)がある。玉依姫が乗ってきた船の掘を取り外して貴船へ向かったという伝承があ

り、掘師を祭っている。掘は、約音で、カと訓む例が『万葉集』巻二一・三二一「八十掘」にみえる。取も約音で、掘取はカ(音)ト(渡)の転訛が考えられる。つまり、カトはゴウトで河の渡渉地点や通航した舟の係留場をいう(谷川健一編『民俗地名語彙辞典』三二書房)。二ノ瀬もニミと転訛してミノセ(水生) ↓ 水分(ミクマリ)の意であろう。

川上の水源地や湧水地、あるいは祈雨止雨の験がある霊地を意味する「水生」は丹生、壬生、水分以外に低湿地や水害常習地、水の潤沢な地などに関連する地名がある。

幾つかあるが、ひとつは水無瀬(大阪府島本町の大字で古代からみえる地名である。『日本後紀』延暦一六年(797)正月一六日条に「遊獵於水生野」とあり、淀川を前面にした山水の景勝に富む低湿地(沖積低地)だった。一帯は奈良・平安期の水無瀬荘で、水成瀬、水生、水生瀬、水成、水瀬、水無などとも書いた(清水正健編『荘園史料』角川書店ほか)。「新古今集」に「見渡せば山もとかすむ水無瀬川」(後鳥羽上皇)と詠まれ歌枕で知られる。

もうひとつ挙げると、箕面の滝で知られる大阪府箕面市(旧摂津国豊島郡箕面)である。箕面は平安期にみえる地名である。『扶桑略記』応和二年(962)四

月日条に「摂州箕尾山」とも書く。平安中期以降、東側の勝尾寺とともに「箕面山」として修験道の霊場であった。同書永観二年(984)八月一七日条に、早天が続き、箕面の聖・千観が勅命で、箕面の滝で祈雨に成功した。「元享釈書」『古昔物語集』にもみえる。『兵範記』嘉応二年(1170)四月五日条に平信範が参詣し「是竜樹は菩薩垂迹之霊地、徳に莫大之験所也」と称した。箕面、箕尾は、助詞ノを加えた水生(ミノオ)の義訓、すなわち語の意義に合わせて漢字を当てたものである。

「西行と大峰の歌」についてのメモランダム

奥吉野に西行庵を訪ねる

吉野

奥田 英一郎

吉野山去年の枝折の道かへて
まだ見ぬかたの花を尋ねん

吉野山やがていでじと思ふ身を
花散りなばと人やまつらん

西行が吉野の花を詠んだ歌はざっと60首あるという。いかに吉野の花(桜)に執着していたかということだろう。この2首も西行がどんなにか花を愛していたのだという歌で、昔、学んだのだが、私はこの2首から西行は心ひそかに、大峰に入ることを窺っていたのではないかと思っ

「枝折」というのは山の帰り道、目印に木の枝を折ることで、われわれも時々やっていた。

そんなことを考えていると、急に西行庵のあるあたりが懐かしくなると、花が終わるのを待って奥吉野へ出かけることにした。

訪ねたが、いつも新緑の季節だった。

らための儀式を拝観したあと、暗闇の中に騎馬の群れが扉に突進して鍵を開けるのを待って、自分も白装束の人達に混じって堂内に入る。燈明が揺れる堂内で朗々と唱える真經の姿は摩訶不思議な靈気の漂う雰囲気だった。

花の吉野というくらいだから、三万本もの桜の咲く頃はさぞかし見事だと思っただが、人込みが苦手で、それに樹々の明えいずる季節が好きなので、やはり5月の中頃になって出かけた。

吉野葛や漬物を売る店、旅館・食堂が立ち並ぶ町筋を抜けると、正面に仁王門が、続いて堂々たる蔵王堂が現れる。さすがに修験道の根本道場は迫力があり圧倒される。花も終わり人影は少なかった。そのまますすく奥へ。吉野は日本史にしばしば登場する地だけに由緒ある所が多いのだが、どこへも立ち寄らずに先を急ぐ。急な坂をくねくね上る途中で振り返ると、馬の背のような町筋の中程に蔵王堂

がくっきりと浮かび上がって見えた。周りはすっかり葉桜だったが、はるか遠くには吉野と飛鳥を結ぶ龍門山塊が望まれた。

山が次第に深まり谷側に杉林が続くと、道端に白いシヤガの花が可愛かった。と思う間もなく鳥居が現れ金峯神社に着いた。社殿はすっかり縁に覆われている。

休庵小屋の床几に坐ってひと息ついていると、初老の男性が山から下りて来て、話しかけられた。「横浜から来て大峰山に登るつもりだ」と言う。「今夜は天川の川合に泊まり、明日から弥山、八経に登り、山上ヶ岳と縦走したいのだが、ガイド・マップで破線になっている弥山川は1日で登れるか」と尋ねられた。「今は日が長いので川合を早い目に発てば大丈夫でしょう。立派な滝があって変化に富み、以前は水の中を渡渉したが、最近足跡もすっかりして水に濡れることもないでしょう。それに河原小屋も狼平の小屋も新しくなっているから」と答えて別



西行庵への道



新緑のなかの草庵

神社右手の坂を上ると、すぐ「左大峰 右圓閣寺」という石標があり、右に入ると左に急な山道がくだっている。谷を隔てた山肌がまばゆく輝いているのを眺めながら行くと、小さな台地に着いた。緑の山を背に簡素な小屋があった。庵の前の一本のツツジが満開だった。中を覗くと一体の座像が置かれている。西行の座像だが、いつ頃、だれ

が彫ったものかわからない。草庵もいつのものか、それすらわからなかった。トウヒかモミか、枝を空いっぱい広げている疎林のなかに大きな切株があったので、ちょうど庵に対峙する恰好で腰を下ろしてくつろいだ。5月の明るい空のもと新緑が柔らかな陽に映えて美しい世界でガラの仲間だろうかしきりに囁っている。時々、2人か3人ぐらゐのグループがやって来て、しばらく徘徊しては立ち去った。

気がつくと、1人の青年が傍らの切株に陣取って、袋から煤けたコップフェルを取り出したかと思うと、手馴れた手付で湯を沸かし始めた。そして手早くコーヒーを紙コップに注いで、「どうですか?」と勧めてくれた。2人でかぐわしいコーヒーをいただくと、青年は間わず語りに話し始めた。「嫁さんがいるのですが、仕事がなくてブラブラしている日、一度自分を見つめるために1人旅にでも出て行けば!」と言われて、あちこち訪ね歩いたすえ、今は屋久島のある禅寺に世話

になつてゐる」と言う。寺男でもやっているのだろう。続けて「この間、飼っている犬が小鹿をくわえて帰ってきて、思わぬご馳走にありついた」と、ここにこしながら語ってくれた。「この春、吉野の旅館でアルバイトを募集しているというので、今はそこで働いている」ということだった。自分独りが喋るといふ感じで、私がついていた文庫版の『山家集』を見て、「西行の勉強ですか」と言つたあと「そう言えばこの西行庵は北向きなのですね」と言う。そうか

な?と疑問をさしはさむと、「でも西行は北面の武士だったのでしょう」とんでもないことを言う。始め冗談かと思つたのだが、真顔だった。嫁さんから三行半を突きつけられてるんだ」と言いかけて言葉をつらねた。「1人旅にでも出て行けば!」と嫁さんの言葉の意味をよくわかつていなかったのかも知れないと思つた。別れ際に甘夏を差し出すと「これでビタミンが補えます」と言つて仕事に帰つて行った。渡りの季節になつていたのか、オオ

ルリの澄んだ鳴き声が谷間に響いていた。独りになつてあらためて西行について考えた。彼は二度大峰に入っている。その間に18首の歌を詠んでいる。あれほど執着した「花」は1首も無い。代りに「月」を詠んだ歌が10首もある。他は露と紅葉と修行に関わるものである。「花」が詠まれていないのは単に花の季節ではなかったからである。それはともかく、深仙の宿で詠んだ「月」は3首もある。よほど印象が強かつたのだろう。

深き山にすみける月を見ざりせば
思ひ出もなきわが身ならまし

峰の上も月こそ照らすめ
ところがらなるあはれるなるべし

月澄めば谷にぞ雲はしづめる
峯吹きはらふ風に吹かれて



深仙の宿は大峰北部にある小笹の宿と同じように、瀧頂を施す修験の聖地だけに、どこか靈気が漂っているような所で、修行する身にとって強烈なインパクトを受けたのだろうか。しかし、私は、小池の宿でさりげなく詠んでいる歌が好きである。

いかにしてこずゑの隙を求め得て
小池に今宵月の澄むらん

かつて、厳しい池郷川を遡って谷中で露営したあと、たどり着いた最源流の憩いの場が小池の宿だった。思いだすと懐かしく、あの雑木の梢の間から洩れてくる月の光がどんなにか美しかったのだろうかと思うと、作者の気持ちも偲ばれるのである。

西行の大峰の歌は詞書と共に、歌の中にも地名が詠み込まれていて、どこでの歌かがわかり、それだけに親しみを感じる。北部では蟻の門渡り、小笹、をばすて（伯母峰）、笹の宿、行者還、稚児泊など。南部では平治ノ

てられていたが、彫られている文字は読めなかった。たぶん、どちらかには芭蕉の句が刻まれているのだろう。

最近読んだ小説「宿神」（夢枕漢作）に、西行の晩年に触れて「杖に支えられ、歌に支えられて……歩いてきた。……」とあった。23歳で出家して、大和葛城山西麓にある弘川寺で「く」なつたのが73歳であった。ざっと50年間に及ぶ、杖にすがり歌にすがりながらの人生であった。その間に詠んだ歌の数は五千百余首。まさに歌そのものが彼の人生であった。そう思った時、ふとあの膨大な歌の中から、わずか18首で人間西行を見出だそうなどと考えることは愚かなことだと思ひながら、暗い杉木立のなかを喜佐谷へとくだった。ところが、明るい開けた川沿いの道歩いでいて急に別のことを思いだした。晩年の西行が明恵上人に語った、「一首を詠むのは仏を一刻刻むような気持ちだ」という言葉のあたりに人間西行、信仰の人西行を理解する鍵があ

宿、東屋ノ宿、古屋ノ宿、千種岳、転法輪岳などと、大峰縦走を果たした者にとっては懐かしいに違いない。

しかし、西行の大峰回峰については、わからないこともいくつかある。二回の入峰も、熊野から吉野への順峰だったのか、反対に吉野から熊野へ抜けた逆峰なのかわかっている。歌を詠んだ場所を調べてみると、小笹ノ宿周辺と南部の笠捨山前後に集中している。「山家集」にはその歌が入峰順には詠まれてはいない。「月」を詠んだのも、われわれだったら大峰の観月なら先ず、弥山か八経ヶ岳が一番だと思うのだが1首も詠まれていないのである。それに西行が入峰したのは何歳の時だったのかということも全くわかっていない。

そんな事象について不明なのはともかく、それよりも西行にとって大峰回峰はどんな意味があったのか。世捨て人として、歌詠み人として、大峰で詠んだ歌とどんな関わりがあったのか？ そんなことを考えると、結局、奥吉野

のような気がしてきたのである。

西行が大峰前鬼川の三重滝で詠んだ歌がある。

三重滝を拝みけるに、殊にた
ふとおぼゑて、三業の罪も
酒がる心地しければ
身に積る言葉の罪も洗われて
心澄みぬるみかさねの滝

三業とは身と心と口のことである。西行にとって口とは言葉のことでは歌を詠むことにはほかならない。西行は三重滝に打たれて、三つの業、殊に言葉による罪が洗われて心が澄んでいったというのである。漂泊の歌人と言われた人間西行の姿を感じるし、信仰の人としての西行が浮かび上がってくるような気がしたのである。

宿題の一端が解けたような気持ちになつて、万葉人が愛した喜佐谷を宮滝に向かって歩いて行った。

（平成19年5月中旬歩く）

探訪は自分に大きな課題を背負う山行となったのか……。思ったところで腰をあげた。

苔清水はすぐ近くだった。小さな谷の岩間からわずかな水が流れ落ちていく。細い竹を割った小さな笕で水を引いてある。

とくとく落つる岩間の苔清水
汲みはずほどもなき住居かな

西行の作と伝えられてはいるが、「山家集」には載っていない。しかし、西行がこのあたりで草庵を結んだとしたら生命の水であったことは考えられる。小さな流れが西行らしい侘しさを誘う。

芭蕉は二度吉野を訪れている。

露とくとく心みに浮世すがばや
（野ざらし紀行）

清水が落ちる傍らに二基の石碑が建

（註）

後、吉野町役場に電話で問い合わせたところ、以前西行庵の中にあつた「天明五年江戸の大井八右衛門氏が奉納された西行像」は、現在は吉野水分神社に収蔵されていて、現在庵に置かれている座像は、昭和の末に京都市在住の某氏から寄進されたものである。さらに庵の屋根は二、三年前に葺き直されたということでした。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



・小型 (20人・24人)
・中型 (28人乗り)
・中2階 (45人乗り)
・大型 (55人・60人)
いずれもサロンカー
からデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0071 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

紀行

わが師、近藤郁夫と

御池岳

長谷川 雅 俊

鈴 鹿

奥ノ平からの夜景



今年(07年)は暖冬で、いまいちテンションが高まらなかつたが、別の意味で体力の無い小生には助かった面もある。

ここ3ヶ月余、ハード山行をしなかったのには暖冬のほかに、もう一つ理由がある。花の季節だからである。鈴鹿の花の種類多さは皆さんご存知だと思う。たまに岐阜のやぶ山を覗くこともあるのだが、あまりの種類少なさにガッカリすると共に、鈴鹿のすばらしさに改めて感心する。

当然、花の山旅をネットの掲示板に書き込んだり、新ハイ誌に紀行文を書いてみたいのだが、花の情報が出ると、すぐに盗掘されるようである。

情報源となりかねない……。と言うわけで、春は新ハイに投稿したくともできない悶悶とした状況が続くのである。

で、今回は久しぶりに、「ハードに行こう!」と、コグルミ谷出合を、2時58分出発。ミソレ混じりの雨と強風のなか、普段ならメグルところだが、今回は凍凍しく旅立つ。

数年前の土石流で登山道の入り口は、左岸から右岸へ変更された。この時の荒れようはかなりひどいもので、タテ谷分岐まで20分余のところを、ナクで倒木の枝を刈り払い、崩れた斜面を迂回するなどして、2時間あまりもかかってしまった。また、近藤岩から天ガ平への尾根のトラバース途中の酒沢では、ゴーゴーと

流れる土石流に渡渉できず、流れの左岸を県境稜線まで直登したのであった。しかしこれほどの流れも、1000m程下の長命水までに伏流となっていたのはビックリした。

これだけ荒れてしまったコグルミ谷を、半月余りで修復された方がおられる。以前、員弁警察の署長をしておられた、新海さんである。新海さんはほとんど毎日、御池・藤原周辺に入れば、愛犬といっしょに町をパトロールしておられ、全く頭の下がる方である。小生も余生はこうありたいと思っている。

本題に戻る。今回は、このコグルミ谷の左岸尾根で行くことにする。この取付斜面はかなり急でザレているので、三步登って、二歩滑り落ちるという感じである。ヘッドライトを消すと、曇り空以外は漆黒であった。数えきれないほどの休憩を繰り返して、3時24分、尾根芯にのる。高度は652mであった。地形図でコンパスを148度に合





ゴロ谷第一左俣谷源頭のヤマシクヤク

わけて登り始める。しかしすぐにおかしいと気づき、再度チェックすると、やはり間違っていた。アホらし…。

265度に合わせ直して進むが、このあたりは登るといふより時間の稼線散歩という感じである。3時41分、709歳にて赤く目を光らせた動物と遭遇する。最初はお互い睨み合っていたが、しばらくして、左の方へ無言で走り去っていった。たぶん、野ウサギであろう。

3時45分、709歳にて、「まどろみの木」にたどり着く。枯れた大木が横たわっているのだが、腰を下ろすのにピッタリで、命名された、「山想山歩の集い」の加藤規四夫氏には感心する。ちょうどこの場所がコグルミ谷からタテ谷へ抜ける登山道となっている。左手コグルミ谷、右手タテ谷で、鞍掛林道からこのあたりまでのタテ谷は落石・浮石が多く、また、確実な三点確保が必要なこともあって、一般の登山者には入らないほうがよい。

今年はいけいソウの花芽が多く、

当たり年かな?と思いつながら登って行く。ここからの尾根斜面は傾斜がきつくと、広くなるのでコンパスでチェックしながら、灌木をつかま攀じ登って行く。3時55分、高度753歳にて、見覚えのあるガレ谷が左手に現れたのでそれを横切る。3時58分、空が明るくなり始め、鳥の第一声が聞こえた。4時15分、896歳にてまだ暗いのだが、ライトを消す。周囲が薄っすらとわかるようになってきたのと、消したほうが、動物と遭遇する確率が高くなるからだ。

4時30分、896歳からは、鬱蒼とした樹林帯のなかに、苔むした石灰岩の岩塊が累々と続くようになる。苔の深い緑と若葉の黄緑との対比がとてすばらしい、これを見られるだけでも今日来た価値がある。

4時50分、940歳では岩塊が無くなり、雰囲気の良い疎林のなかを歩くようになる。ここでは赤茶色の堆積した落ち葉と黄緑の若葉の対比がステキだ、う〜ん満足!

池に似てはいるのだが……早速コンパスをチェックしてビックリ! 方向が180度狂っている! リングワンディングだ〜! う〜ん、参った、またやっってしまった。気を抜くとすぐにこうだもんね、わたくしの場合、勝手知ったる場所、ちゃんと北西に向かって瞑想尾根を歩いていると思っていたら、知らないうちに、奥境尾根を南東に歩いていて、霧池を新発見の池だと思ってしまった。ああ、恥ずかしい……このこと

1017歳からはまた、苔むした岩塊が現れる。鹿が鳴いているが、姿は見えない。

5時35分、ようやく奥境稜線のアツキナシの大木(1140歳+)に到着。高度計は1131歳だったのでまあ正確である。そのまま稜線に乗っ越し、瞑想の谷に入る。この瞑想の谷も加藤規四夫氏の命名である。近くを通過している登山道よりも歩きやすく、まさしく瞑想しながら歩くにふさわしい谷である。途中、二頭のメス鹿のシヤレコウベが転がっていた。たぶん、密猟者の仕業であろう、ナムアミダブツ……。右手奥境稜線、左手瞑想尾根の間をまさしく瞑想しながら、無の境地で歩いていたのだが、そろそろ北池の方へ行こうと瞑想尾根へ上がって進む。ここでも鹿がしきりに鳴いていたのだが、姿は見えなかった。と、突然、大きなヌタバが右手に現れた! 15〜8歳位の大ききで、池になっている部分もある。こんな所にこんな大きなヌタバ(池)があったっけ?……何となく霧

は誰にも話さず、心の片隅にしまっておこう。

で、6時18分、北池に到着、そのまま、真ノ池、南池、サワグルミの池、ウリハダカエテの池と通り過ぎ、6時51分、丸池に到着。ここでオニギリを一つ食べる。小休止の後、そのままゴロ谷側急崖をくだる。滑り落ちそうになるのをこらえながら、灌木につかまわりながら下りて行く。途中、ヒトリシズカやルイヨウボタンがひっそりと咲いていた。8時2分、高度973歳で東に向かってトラバースする。8時4分、高度943歳にて、ゴロ谷第一左俣谷源頭部に到着。地形図を見てもよくわかるが、すごい崩壊である。以前このガレ谷の中をトラバースしたことがあり、落石に怯えながらヒヤヒヤもので渡ったのだが、もう二度とごめん

だ。このゴロ谷の支流の名前は、西尾寿一氏の『鈴鹿の山と谷』には載っていないのだが、最近発表された地元の良い資料では、ゴロ谷第一左俣谷をワサ



ゴロ谷側急崖に咲くヒトリシズカ

ピ谷、第二左俣谷を大ショペン谷、第三左俣谷を小ショペン谷と書かれている。このショペンというのは、たぶん小便の意だと思うのは小生だけであるか？ 実際、谷に入ると、潮流ではあるが、ひとたび雨が降れば、小便のように水が滴り落ちるような感じである、尾籠でスミマセン。

この源頭部の左側末端に、すでに花

おられるが、御池岳だけで七冊も出版するなんて常人のすることではない。しかもやたらこむずかしい表現が見受けられる山の本が多い中において、文章も格調高くなく(？)、小生でも理解できるのがよい。

近藤氏と初めてお会いしたのは、御池岳のボタンブチであった。当時のテールランドはササやぶが高さ2層以上もあって、ボタンブチにたどり着くのも大変であった。今まで山の中で登山者と出会っても、簡単な挨拶くらいで、長々と話をするとはなかったのだが、近藤氏は、御池のこと、花のことなど延々と1時間近く話された。それまでの小生はただ闇雲に登っているだけで、写真を撮ったこともなく、ましてや、花のことなど眼中になかった。イチリンソウとニリンソウの違いもわからなかったのである。

お別れする時に、住所と名前を聞かれ、2、3日したら御池の写真の絵葉書が届いた。こんなことは初めての経験であった。それから、ちよくちよ

期を過ぎたヤマシヤクヤクがひっそりと咲いていた。しばらくトラバースすると、またもや谷源頭部にたどり着く。ここは、ゴローかゴロ二のどの源頭部かはわからないが、いつも巒脊としていて薄暗いやさしい所である。右手崩壊した源頭部、左手垂直の岩壁の間の細い隙間に行く。獣の足跡があるので何とかなるであろうと進むが、すぐにニッチもサッチも行かなくなる。あと1層登れば何とかなるのだが、落ちれば下まで戻さざるを得ない。結局、いつものように引き返して、岩壁の上をトラバースすることに。ヤマブキ・ヒメレンゲ・ミヤマキケマン・ムラサキケマン、当然ながらニリンソウも美しく咲いている。9時13分、ゴロ谷第二左俣谷(大ショペン谷)の崩壊した源頭部を過ぎ、9時31分、9時20分にて、ゴロ谷第三左俣谷(小ショペン谷)に到着。

実は先週ここで長年使用してきた高度計付の腕時計を落としてしまったのである。高度表示は5層単位だったが、

くお便りをいただくようになり、鈴鹿の絵地図で有名な奥村光信氏、鈴鹿のターミネーターと呼ばれている神原計國氏等と4人で、山は山でも名古屋市内の金山で、酒杯を傾けながらの楽しい山談義となったのである。

この山談義は小生に新しい扉を開かせてくれた。パソコンのインターネットで鈴鹿関連のいろいろな情報が得られることを知り、また小生のような者に、ヘタクソな紀行文を書かせて、新ハイ誌に投稿させるなどというばかりのことを思いつき、そのかしたのも近藤郁夫氏である。まさにわが師、わが仲間である。

この近藤氏が癌になってしまった。手術されて元気に御池を登られるようになったのだが、再発、何と申してよいのやら。入院中は柚人氏もさぞ退屈で暇をもとあましておられるだろうと、週に一度は顔を出すことにした。当然手ぶらでは行けないので、せせせと御池に通っては、簡単な紀行文や写真を携えて行く。

新しく買求めたのは1層単位なので時代の差を感じる。予備にと思って探しに来たが、やはり無理であった。

このままT字尾根までトラバースするつもりであったが、体が無性にしんどいので、ハード山行は中止して帰ることにする(翌日医院へ行ったら、38度も熱があった)。ゴロ谷第三左俣谷左岸尾根にのると、ギンリョウソウがひっそりと咲いていた。適当に歩きやすい所を選んで進む途中で、オドリコソウにも出会え、通行手形(鹿の角)も二本拝受できて申し分のない日となった。意志薄弱なために無限の休憩を繰り返して、10時58分、ようやくテールランドの風池に到着、とりあえずホッとす。

この風池の発見と命名者はわが師、近藤郁夫である。鈴鹿の山を歩かれています方で、近藤郁夫(御池柚人)と聞いてわかる人は、それなりに真摯に鈴鹿の山の本を書いている人はたくさん

2月の下旬、「青のドリーネはどんなかなあ」と、おっしゃるので、早速次の日曜日(2月25日)に行くこととした。昼までに名古屋に帰らなければならぬ用事があったので、暖冬とはいえ、(小生は脚が遅いので)前夜23時28分、ゲートを出発。西方に半月が輝いており、美しい星空であった。鞍掛林道には信じられないことに雪が全く無かったが、風が強く結構寒かった。コグルミ谷出合に0時43分到着。

谷にも全く積雪が無いのに驚きながら、暗闇の中を黙々と歩く。1時18分、タテ谷分岐(6500)を過ぎて、7600位でようやく谷芯が雪で埋まるようになるが、登山道は無し。長命水を過ぎて、右岸から左岸へ渡るあたりで雪がアイスバーンになって危ないのでアイゼンを履く。近藤岩に1時48分到着。柚人氏の回復を祈願する。近藤岩のことは、本誌84号にも、御池柚人氏お気に入りの岩で、「僕が死んだら、この大岩をお墓として参って欲しい」と、言われた岩で、3年前の土石流で

大岩の基部が一部欠けてしまつて、柚人氏が入滅されるまでもつのかどうか心配だと書いたのだが、うーん、冗談じゃあない！ そんな殺生なことせんといつて、と、鈴鹿の山神様にお願ひする。

そのまま谷に沿って直登して奥境稜線のドリーネに2時17分、八合目、真ノ谷出合に2時42分。丸山、奥ノ平の間の谷の右岸1070m付近でガス欠。暗闇の中、腰を下ろして、スニッカーズ、レリーズを黙々と食べる、実に静かである。すぐに歩き出して、3時43分、星空のきれいな奥ノ平(1241m)に到着。高度計は1260mほどであった。夜明けにはまだ時間があったので、名古屋、桑名方面の夜景の写真を撮るが、なかなか難しい。青のドリーネに暗闇の中、たどり着けるかどうか自信はなかったのだが、とりあえずコンパスを142度に合わせて、胸の位置に置いて歩き出す。常にチェックしていないと必ずリングワンデリングを起すので気を引き締める。最初のピーク

れなら凍死することはありえないな。小生は結構寒さには強いほうである。二千m位の冬山で、寝袋無しでも問題なかったこともあるし、仲間が寒さで一晩中眠れない時でも、ぐっすり眠りあきらめられたこともある。と、偉そうなことを言っても、足元がやはり痛くなってきた。仕方なく、アイゼンを履いたままツェルトの中に入れる。まあ、ツェルトに穴があいてもしょうがないか。

5時58分、目が覚めると、薄明るくなっていたので、ツェルトから顔を出す。すぐに仕度をしてくだつて行くと、何と目の前に青のドリーネが横たわっている。しかし、その青のドリーネは、雪に覆われた真っ白なドリーネではなく、ササやぶがそこかしこに顔を出して、先程までの星空がウソのような灰色の雲に覆われた、夢も希望もない哀れな光景であった。それでもとりあえず、種々な角度から写真を撮って、1時間半程過ぎて引き返す。幸助ノ池7時57分、幻ノ池8時29分、近藤岩

を通り過ぎてくたると、次の小ピークにたどり着いたが、そろそろこの辺りとは思うのだが、暗くて全くわからない。やむをえず、少しくだつて、樹林帯のなかの木と岩の間に潜り込んでツェルトを被って寝ることにする。時間は4時48分。

まず、クッションをお尻に敷き、ツェルトを被り、NASAブランケットを体に巻きつける。アイゼンを付けた靴は短いたままでツェルトから出す。ザックは当然背中と岩の間。これで、夜明けまで待つ。今夜は2月とは思えないほど暖かい何とかなるであろう。来る途中で道路標示に「現在温度マイナス3度」と表示されていた。ということは、この奥ノ平では、せいぜいマイナス13度位かな？ こ

8時47分、長命水8時52分、ゲートに10時42分、これで昼までに名古屋へ帰れる。(平成19年2月25日歩く)

で、元に戻るのだが、風池からは、久し振りに丸山(1247m)へ寄つて、高度を修正してから、帰るところにする。

ところで、頂上プレートが付けてある丸山ピークと、地形図の丸山ピーク1247mとは違っているのを皆さんご存知でしょうか？ プレートピーク(1247mより少し低いと思う)は地形図の1247mの北北東(17度、水平距離で約50m)にある。たぶん、誰かが勘違いして、丸山ピークのプレートを取り付けて、それがそのまま頂上となつてしまったようである。この近くでは、荷ヶ岳のピークのプレートも明らかに間違っている。

こういう間違いは結構あるので、たとえば、ヤマケイのAGガイドに載っている三国岳への登山道のアンザ谷の地図の破線は、明らかに現在の登山道

近藤都夫氏が発見した風池



ではなく、昔の柚道のワサビ谷を通っている。改訂版が出た時に修正を期待したのだが、そのままであった。このAGガイドの地図の破線をきちんとチェックして登る登山者はほとんどいないから、どうでもよいのだろうか。

丸山からは、コグルミ谷出合までオーソドックスに下山、14時20分であった。さあ、早く帰って、柚人氏に電話しよう……。(平成19年5月20日歩く)

▲参考タイム▼(平成19年5月20日)
コグルミ谷出合2・58 | まどろみの木
3・45 | 奥境稜線のアツキナシの大木
5・35 | 北池6・18 | 丸池6・51 | ゴ
ロ谷第一左俣谷源頭部8・04 | ゴロ谷
第三左俣谷源頭部9・44 | 風池10・58
丸山11・26 | 天ガ平12・11 | コグル
ミ谷出合14・20
△地形図V2万5千II篠立

新ハイ関西100号
標高△△00mの山

三方ヶ岳 (600m 湖北)
 釈迦ヶ岳 (1800m 大峰山脈)
 岩岳 (1000m 奥美濃)
 仙千代ヶ峰 (1100m 台高山脈)

三方ヶ岳

三方ヶ岳は福井県敦賀市と滋賀県西浅井町の境界にある山だ。

私たち会のメンバー8人で敦賀市奥麻生から登った。奥麻生川沿いの道を上流に向かって歩き、三方ヶ岳北尾根を廻り込んだ谷の入口が登山口だった。急な谷をつめるように登り始めたが滝に阻まれ、右岸(東側)の尾根を登ることにした。広葉樹林のなかで気持ちがいい。いったん元の谷の上部へ下りて左岸の尾根を登って行くと、林道

に出してしまった。尾根上はゆるやかな起伏の、いたってのんびりとした所だった。林道から三方ヶ岳を往復し、林道を東方へくだって行けば奥麻生川の登山口よりはるか上流の地点に下り立った。

林道沿いには大輪のササユリがそこに咲き乱れ、私にとっての三方ヶ岳は華やかな印象の山となった。

▲コースタイム (平成9年6月22日歩く)
奥麻生(7時間) 三方ヶ岳の北の谷を登り山頂往復後、林道を下山 奥麻生

▲地形図 2万5千 中河内・木之本

釈迦ヶ岳

入山の旭ノ川の林道は、V字に深く切れ込んだ旭ノ川のはるか上を、山腹に沿ってうねりながら登って行く。本流から分かれて不動木屋谷沿いの林道を登り、標高1150m地点の登山口に着き、労少なくして高山的な展望の尾根へワンピッチでのれた。古田ノ森から千丈平を経て釈迦ヶ岳へと続く尾根は新緑がまぶしい清涼しい所だった。

右手には大日岳の岩峰、左手にも七面山方面の岩壁が望まれ、行く手には優しい姿の尖峰の釈迦ヶ岳がそびえ、足元にはバイケイソウの群落。千丈平でテントを張って、軽身で釈迦ヶ岳を往復した。山頂に立てば、北方の孔雀岳までの東斜面が見下ろせた。無数の柱状の岩壁が立ち並び、新緑とシャクナゲ・アケボノツツジの紅色の綾との対比が見事だった。

▲コースタイム (平成7年5月27日歩く)
旭ノ川不動小屋谷林道標高1150m

▲地形図 2万5千 中河内・木之本



地点(3時間30分) 千丈平 (1時間10分) 釈迦ヶ岳(往復)
▲地図 昭文社 『大峰山脈』

岩岳

淡墨坂で有名な旧根尾村の本巢市を流れる根尾川は、淡墨坂のある付近で根尾東谷川と西谷川に分かれている。その二つの川に挟まれて急峻な角度でそびえ立つ山が岩岳だ。

時高さんと2人で根尾東谷川沿いの東板屋から踏跡をたどって登った。標高800mより上は降ったばかりの雪が山を真っ白にしている、それより下の晩秋の赤茶色の山髪との対比が美しかった。山頂からは大白山やドウの天井・雷倉などの奥美濃の山並が見渡せて充足感いっぱいになれる山だった。

▲コースタイム (平成6年12月4日歩く)
東板屋(3時間) 岩岳(2時間) 東板屋

▲地形図 2万5千 樽見・谷合

仙千代ヶ峰

仙千代ヶ峰は大台ヶ原山の有名な大杉谷下流の宮川を挟んで東にある山だ。岩井さんと2人で久豆の大杉谷橋より登った。西上谷沿いの踏跡をたどったが、私の苦手な丸木橋が次々と現れた。あいにく雨が降った後で、丸木橋はことのほか滑りやすくなっていた。

谷から離れてはっとしながら、ジグザグの急な道を登る。天候はみるみる回復し、雨上がりの展望で遠くまでくっきりと見渡せた。宮川を隔てて対峙する、高の堂々たる風格ある姿が特に目を引いた。

下りは宮川貯水池の倉元橋を目指して急な尾根道をくだった。新大杉橋を渡って宮川貯水池の対岸の道を少し上流へ向かって行くと、仙千代ヶ峰の地味な山容が眺められた。

▲コースタイム (平成9年11月30日歩く)
大杉谷橋(3時間) 仙千代ヶ峰(1時間30分) 倉元橋(2時間) 大杉谷橋



千丈平への登山道より釈迦ヶ岳

北海道登山

山小屋事情

①

金谷 昭

夏季の日本アルプスの喧噪を避け、専ら北海道への登山に方向替えしてか
らかなり経つ。その間に北海道の山小
屋をほとんど利用した。これらの山小
屋事情について、今後北海道登山をさ
れる方の参考にとまとめてみた。

日本アルプスの山小屋はほとんど無く、食
事と寝具付の山小屋はほとんど無く、無
人（管理人不在）で寝具・食料持参を
強いられる避難小屋が多い。小屋利用
によってテントを置く負担が無く、リュ
ック重量と体力消耗の軽減となる。北
海道の山小屋は風雪の厳しい山域だけ
に頑丈で、また維持管理が行き届いて

て居心地がよい。夏の最盛期でも登山
者の殺到もなく、ゆっくりとした寛ぎ
と静寂が得られる。

共通しているのは、山頂あるいは尾
根稜線近くにある山小屋は、大雪山・
十勝連峰・利尻山、ほか一部の山に限
られ、ほとんどの小屋は山麓に置かれ
ている。したがって一般に開設されて
いる登山道との関係から、主として縦
走登山より山頂往復の登山が多いよう
である。

山小屋利用の縦走は大雪山と十勝連
峰のみに限られ、それ以外の縦走はテ
ント持参となる。縦走できなくても、
山麓には温泉とすばらしいキャンプ場
も多く、それらをベースに日帰り往復
登山すればよく、北海道の山が十分楽
しめる。

北海道の山小屋はほとんどが公設で、
利用は無料であるが、寄付金箱が設置
されている山小屋では、維持管理およ
び清掃料金の一部として応分の料金を
投函すべきである。これら山小屋の利
用は、筆者のごときリタイア年金組に

とっては旅費も極めて安価におさえら
れ、北海道登山が満喫できる一因となっ
ている。

北海道登山は一般に登山口までのア
プローチが長く、車を利用せざるを得
ない。林道走行に際しては、原則とし
て所轄の森林管理事務所（旧営林署）
で入山許可を得なければならぬ。申
請すれば（場合によっては電話でも可）
登山目的ならばたいはいは許可が得ら
れ、その際に施錠されている林道ゲ
ートの鍵貸与もしくは鍵番号を覚えてく
れる。

(1)道北地方

・利尻山（17211）（地形図「鷺泊」）

①利尻山小屋（通称長官山避難小屋）

最も利用される鷺泊コースの八合
目（長官山）にある。収容人員20名程
のしっかりした木造平屋建の山小屋で
ある。本コースの登山口には快適なキ
ャンプ場があり、最近では宿泊より御来光
登山の休憩兼避難用として利用されて
いる。無人で無料開放。水場は頂上に

向かい左手の踏跡をたどると残雪から
の流水が得られるが、過去転落事故が
あり注意を要する。避難用のため他に
一切の設備は無い。なお利尻山の一等
三角点は利尻山頂上に無く、この小屋
のある長官山に置かれている。

*東利尻町役場

☎01638(2)1111



ウエンシリ岳のロッジ

②沓形コース避難小屋
沓形コース七合目にあるブロック造
の収容人員10名程の小さな避難小屋で
ある。少し陰気な水場は無い。本コ
ースは鷺泊コースより厳しく、途中の三
眺山からは険しい尾根とトラバースと
なり、慎重な登高が求められ一般向き
ではない。

*利尻町役場

☎01638(4)2345

・ウエンシリ岳（1142・3）

（地形図「上瓦久留・名寄川上流・西興部・
一の橋」）

天塩岳道立自然公園にある「水のト
ンネル」で有名な道北の一等三角点の
名山。

登山口の水のトンネル・キャンプ場
に丸太造りの平家建ロッジがある。少
し古いが頑丈で快適な収容人員10名程
の小さな山小屋。無人無料、寝具無く、
水場は近くにあるがトイレは小屋から
少し離れたキャンプ場にある。

*西興部村役場

☎01588(7)2111

・ピヤシリ山（986・6）

（地形図「ピヤシリ山・見晴山・サンル」）

北見山地の北部のなだらかな一等三
角点峰で無雪期よりスキー登山で有名
な名寄市より観光道路（途中にゲートあり）
が山頂近くまで伸び、その終点に木造
平家建、収容人員20名程の冬期使用可
能のストープ付の山小屋がある。近く
に水場無く、無人開放されている。

なお、本山の西方向の日本海寄りに、
同じく一等三角点峰の山名が混同され
やすいピツシリ山（1032）があ
り、隠れた花の名山である。

*下川町役場

☎01655(4)2511

・天塩岳（1557・6）

（地形図「天塩岳・宇佐内山」）

北見山地の最高峰利尻山を除けば、
道北の最高峰でもちろん一等三角点。
登山道は四本あるが、最も便利でよく
利用される朝日町からのコースの林道

終点、新道登山口のキャンプ場に避難小屋の天塩岳ヒュッテとプレハブの森林管理事務所の小屋がある。ヒュッテは三角形屋根の木造二階建、寝具・炊事用具は無い。避難小屋とはいえ、道内では最も立派な山小屋の一つと言えよう。収容人員40名程で、床は畳敷きの上にカーペットが敷かれている。キャンプ場だけに外部に立派なトイレと炊事場が完備している。

山中の新道コース上、円山と天塩岳との間に収容人員15名程の三角屋根の避難小屋がある。別棟のドラックスなトイレが併設され、山中での宿泊や避難時に心強い。水場は無い。なお共に無人無料開放されている。

*朝日町役場

☎016552(8) 2121

・三頭山(1009・11)

(地形図Ⅱ政和・三頭山)

名の通り三つの頂を持つ、低山の多い道北で1000mを超す一等三角点峰。山中に山小屋は無いが、登山口の

*先の林道終点の実際の登山口に山小屋清岳荘がある。平成10年までは収容人員70人程の頑強清潔なログハウスであったが火災で焼失し、現在はプレハブで再建されたと聞いている。

夏期管理人が常駐し有料。貸毛布以外の食料・寝具は持参となっている。百名山ブームで利用者が多く宿泊予約しておけば安心。一般コースとしては下二股から旧道(沢治い)を行き、登頂後は、熊見峠経由の新道にて迂回下山するコースが利用されている。

*清里町役場観光協会

☎01522(5) 2131

・武佐岳(1005・7)

(地形図Ⅱ武佐岳・武佐)

標高は高くなく地味な山だが、知床連山、斜里岳、阿寒岳、根釧原野、それに国後島を望む展望に優れた山である。中標津市街からクテクン林道終点に、小さいトイレと駐車場のあある登山口(一合目)からゆるやかな登りを約2・6km行くと、木造二階建の武

政和温泉近くの幌加内湖の湖畔キャンプ場にある小さな六角形のログハウスに登山前夜に宿泊を申し込んだところ、建物用途はパークユー用で宿泊に向いていないが、宿泊利用なら無料だと言う。建物内部を見ると中央にはパークユー用のテーブルがあり、内部の周囲外壁側に腰掛けが回してある。そこに寝袋を敷けば、ゆったり睡眠をとることが可能。早速利用して、翌朝、利用料として寸志を差し出したところ、公営で規則上から受け取りを拒否され、結局無料だった。都会人の我々にすれば商売の無い話であるが、道内ではこれとよく似た場面にしばしば遭遇した。

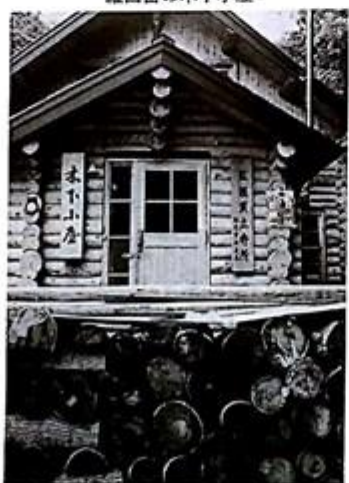
幌加内町はわが国の最低気温マイナス41・5度を観測している極低温地である。北海道唯一の蕎麦の名産地で、下山後政和温泉で入浴してから食べたが、さすが美味しかった。

(2)道東地方

・羅臼岳(1660・2)

佐岳清荘が出てくる。地元青年会により建築されかなり古く、収容人員20人程の避難小屋で、無人開放されている。周囲は原生林に囲まれて少し陰うつな雰囲気の小屋だ。夏季でも寒冷なオホーツク海気候の地域だけにストーブが使われている。

羅臼岳の木下小屋



武佐岳は一般に山頂を十合目とする通常の山と異なり、四合目を頂上としている。小屋まで四駆車なら走行可能。小屋前の嬉しい沢から送水管が引かれ、冷たい水が得られる。

*武佐岳登山同好会

☎01537(4) 2217

・西別岳(799・8)

(地形図Ⅱ摩周湖南部)

摩周湖外輪山の摩周岳に連なり、すばらしいお花畑と摩周湖の展望で朝に人気の出てきた山。西別岳の南麓に地元標茶町により建築された北海道の中

武佐岳の隠清荘



(地形図Ⅱ羅臼・硫黄山・知床五湖) 北海道名山中の名山。夏季最盛期には多くの登山者で賑わう。硫黄山へのテント持参の知床縦走を除けば山麓に宿泊しての往復登山が多い。知床半島の羅臼側からは羅臼温泉、ウトロ(斜里)側からは岩尾別温泉のいずれかとなるが、斜里側の岩尾別コースの登山口には、羅臼岳登山ルートの開拓に尽力された故木下弥三吉氏の木下小屋がある。

小屋といっても露天温泉付きの快適なログハウス、夏期は管理人常駐の有料、収容人員30人程。寝具・食料は持参となっている。最近の百名山ブームで満員が多く、早からの予約が必要である。管理人は知床半島の山の事情に詳しく、いろいろと教えてくれる。

*木下小屋(現地)

☎01522(4) 2824

・斜里岳(1547)

(地形図Ⅱ斜里岳) 独立峰の死火山でもちろん百名山。清里からバス停「登山口」、さらに8

2008年度カタログ発送中

見ごたえたっぷり国内・海外の山旅と自然観察の旅、計500コース以上を掲載した総合カタログ。ハイキングから海外の高峰登頂ツアーまで幅広い商品を揃えています。見るだけで楽しいオールカラーで154ページのボリュームです。そして、これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のための、山歩き教室カタログもあります。無料でお届けしますのでお気軽にご請求ください。



総合カタログ

山歩き教室

お電話
おはがき
FAX・HP
にて!

**送料・本体無料
ご請求ください!**

おかげさまで本年も満席ツアー続出中!
トムラウシ山・幌尻岳・飯豊山・朝日連峰
劔岳・鷲羽岳・水晶岳・聖岳・光岳など
難易度の高いツアーもお任せ下さい!

**大好きな山の中で働いてみませんか!
社員・添乗員・ガイドを募集中**

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.anuse-travel.co.jp>
E-mail: amtosa@anuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

で最も頑強でデラックスな二階建のログハウスがある。収容人員50人程の大きな山小屋で、無人開放されている。ストーブと薪はもちろん、篤志家寄贈の寝具が数組備えられている。トイレと倉庫が別棟となっており、前には大型バスが数台停められる程の駐車場がある。唯一の難点は水場が近くに無いことである。



西別岳のログハウス

筆者が利用した時には、ホールで地元茶屋の写真愛好者の山岳や花の写真展が開催されていたが、当日の宿泊者は私1人で静寂そのもの、まことに勿体ないの極みであった。この山小屋をベースにして道東の山を登られるのを勧めます。

* 中標津森林管理事務所

☎ 01537 (2) 2470

・藻琴山 (1000.0㍎)

(地形図「藻琴山」)

火口湖の屈斜路湖外輪山の最高峰で容易に登れ、展望とお花畑に恵まれた山で一等三角点峰である。弟子屈から走から東藻琴行きのバスで終点に至り、さらに林道をたどった藻琴峠第二展望台が登山口となっている。東尾根の高度868㍎に山小屋があるが、登山道は程の簡素な避難目的の小屋で、水場も無く、かなり老朽化していて宿泊用には少し不適である。

* 大空町東藻琴総合支所

☎ 0152 (66) 2131

・北穂岳 (1254㍎)

(地形図「喜登牛山」)

阿寒岳西方の陸別町よりさらに西方にある山。高度が1200㍎のため山頂は樹林に囲まれていて東方の阿寒方面以外、残念ながら眺望は得られない。地元陸別町により町民の山として登山道が開発され、林道終点の登山口に北穂山小屋が設けられた。木造平家建の洒落た小屋で収容人員30人程、無人開放されている。ストーブ・薪は完備され、年中使用可能。床は利用時のみ畳を敷くようになっている。

* 陸別町役場

☎ 01562 (7) 2141

* その他の北海道の山小屋は次号に掲載する。

新道足尾谷橋バス停から蓬萊駅まで

サカ谷南方尾根から小女郎谷北方尾根

比良

小山 誠次

安曇川側から直接小女郎ヶ池に到達するには、一般ルートとしてのサカ谷道しか知られていない。そこで、本日は全く別ルートとして、サカ谷南方尾根をたどって小女郎ヶ池に到達し、下山はこれもまた一般ルートから外れて、小女郎谷北方尾根を踏んでJR蓬萊駅に帰着することとした。

平成19年7月28日の前日の天気予報では、滋賀県北部と京都府北部の降水確率は午前20%・午後30%、滋賀県南部は午前0%・午後40%、京都府南部では午前10%・午後40%だった。特に、

滋賀県北部では晴れのち一時雨とのことなので、厄介な場所でも雨に遭いたくないなあと願わざるを得なかった。また、滋賀県北部の最高気温は31度とこのことなので、小女郎ヶ池付近では25度

雲となつて漂っている。

8時35分、新道足尾谷橋で下車した。このバス停は、皆十山の足尾谷ルートをとる登山客のために設けられているため、反対方向の出町柳行きバスはここでは停車しない。

準備を整えて、6分後に目の行者山トンネル(写真)右手の急斜面を登って、トンネルの南口・北口の直上をグルッと回旋している近畿自然歩道に達した。

ここからはさらに30分程直上の尾根まで、木々を持ち

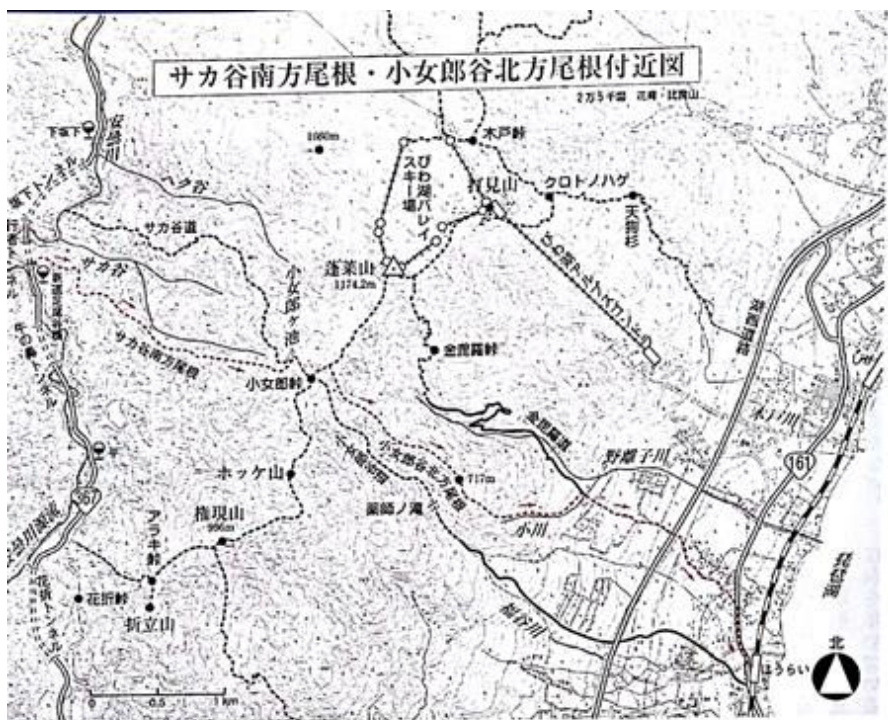
(写真1) 行者山トンネル南口



替えながら急斜面を登る。1000以上西側に歩けば、この尾根へのなだらかな道があるのは知っているが……。

なお、近畿自然歩道は平バス停の400m北から安曇川右岸をたどり、先程の行者山トンネル直上を捲いて、サカ谷道起点の葛川橋に繋がっている。トンネル直上の尾根には踏跡があり、ここで改めて準備を整え、8時58分、遠くの小女郎ヶ池を目指して出発した。11分後に進路を直角に南にとり、9時13分標高580mの小ピークに達した。ここからは東に向けていったん鞍部にくだるのだが、鞍部までの急斜面がわかりづらく、ちょっと手間どってしまった。9時20分鞍部着。

鞍部には南北に細い溝が設けられていて、昔の境界であろうか。現在このあたりは一面杉の植林帯である。ちょっと休憩するが、風も全く無く、熱気と湿度が高そう、長居するにあまり適していないと判断し、早々に出発する。しかし、ここからの百数十mは本日の登りの最も厳しい箇所である。杉の



山良川源流 芦生原生林生物誌

渡辺弘之著 A5判並製 二一〇〇円
 京都の秘境・芦生の森に成育する動物・昆虫・植物などを、四十有余年にわたり観察・調査・研究してきた著者が、貴重な写真をまじえ現況を紹介、原生林の保全と保護を訴える。芦生研究林元林長による待望のガイドブック。

三訂 奥美濃

高木泰夫著 四六判並製 一八九〇円
 樹林の山旅が楽しめる奥美濃七〇山のガイド。写真と地図を多数掲載。春は尾根の残雪を踏んで頂上へ。新緑で萌える頃は花咲く道を、夏は魚影を追って渓谷をつめ、秋は燃える樹林の中の古い峠道を辿る。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

<http://www.nakanishiya.co.jp/>

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
 tel 075-723-0111 〒606-8161

植林帯のなかをジグザグに登高している途中、木立の間より左上方に蓬萊山の山影を認めた。お蔭で気分がすこし明るくなった。

9時53分、標高700㍎でちょっとした平に到着した。風は無いが、先程の鞍部ほど湿度は高くなさそう。本日のコースは部分的に踏跡が残っている。しかし、必ずしも踏跡をたどらなくても、コース上あまり問題はなさそうだ。

10時11分、標高780㍎に達した。ここからの踏跡は杉の植林帯を外れ、明るいやぶのなかに続いている。見れば、「北船路共有林」との札があり、そのすぐ横には赤テープのマーキング

が外されたままで残っている。サカ谷右岸の尾根が木立の間からよく見えるようになった。ここから直線距離で200㍎程である。

そのまましばらく行くと、目前にやや薄暗いこんもりとした高所が迫ってきた。10時35分、その手前の標高890㍎地点では、注意して見ると、木の枝に「北船路共有林」と「視察道」との札が掛かっている。空模様は高層雲のままだが、雲層の厚みが一定していないようで、日が弱ることがある。

5分後に出発したが、薄暗い場所はすぐ抜け出て、今までよりも日当りのいい尾根となった。植林と自然林とのなかを歩いていると、背の低いクマザ

サが疎らに生えているのに気がついた。頂上近くになっている証拠だ。問題はこれからのササやぶの密度と丈だ。

10時58分標高1030㍎で、いよいよクマザサが密集してきた。今まで半袖一枚でいたが、これからのササやぶを考慮して薄手の長袖シャツを着た。方向はほぼ真東に向かうのだが、ここか

ら赤テープのマーキングが充実するようになつた。今まではマーキングが無くて、何となく尾根と踏跡はわかったが、これからは踏跡自体が見えないことが多いので、コンパスを使用しなくても、マーキングがあったので助かった(写真2)。

11時13分、東向きに尾根をたどって

いて、左手に木々の切戸から北方を眺めると、正面遠方に蓬萊山を、その手前に小女郎ヶ池を認めた(写真3)ので、ここから小女郎ヶ池まで直行し、11時15分池の水際に到着した。池の立看板の所まで来て、少々早いが昼食タイムとする。今までたどって来た尾根を眺めると、木々の切戸が窪みになっているのがよくわかる(写真4)。

なお、先程の赤テープのマーキングをそのまま追求すると、徐々にクマザサの丈も高くなり、最後は小女郎峠から200㍎程南の、縦走路がちょうど左に屈曲する地点に到達することになっている。

昼食はいつも通り、お握りとカップラーメン。上空は青天の中に高積雲が浮かんでいる。今の雲脚からは本日予報の一時雨は心配しなくてもいいようだ。食後のホットコーヒーを飲み終えた頃、小女郎峠より人がやって来た。見覚えがある人だ。そう、平で下車した人だ。二言、三言声をかけた後、12時ちょうどに小女郎峠に向けて、午後



(写真3) 蓬萊山と小女郎ヶ池遠景



(写真4) 小女郎ヶ池から最後の尾根を望む

(写真2) 頂上近くのササやぶとマーキング





(写真5) 小女郎谷北方尾根の急斜面

の部開始とした。

4分後、小女郎峠に到着し、その2分後には峠すぐ北の可愛いお地蔵さんの前までやって来た。本日の下山路は、目前の南東に向かう小女郎谷北方尾根である。

縦走路から分岐すぐの所はササやぶ

郎谷道ではもうとつくにアスファルト道を歩いているのになぁと思いつながら改めて143度の下向を自指した。このあたりになると、マーキングも踏跡も定かでない。

ここで再び長袖シャツを着た後、倒木を乗り越えたり枯枝を折ったり、木を避けながら60分程くだると、小川の左岸に下り立った。標高3000分である。ちょうど、地形図上でも堰堤が直列に描かれているので、すぐわかった。13時32分である。

後は小川の左岸に沿ってくだり、堰堤を乗り越えてなお進むと、明らかに道に出合った。そのままもう少ししたると、無事にアスファルト道に合流した。このあたりを歩くのは全く初めてのなので、アスファルト道の方向さえ間違わなければ、よく知った道に出合おうはずだと確信しながら歩いている。13時54分、金毘羅道に合流した。その2分後のリッチランドへの道との分岐点で路面に坐って飲水休憩した。安堵感が強い。

が刈り取られていて、一見したところ、正規のルートのように見える。12時13分下山開始である。以前に人から聞いたところでは、途中から小女郎谷道に下りてしまったとのことなので、この点だけは注意しておこう。

さて、ササやぶが刈り取られた箇所を過ぎると、クマザサが道を覆うようになるが、それもすぐ抜け出る。後は尾根上を赤テープのマーキングが親切に導いてくれる。小女郎谷をくだっているが、いつも左手の尾根が間近に迫っているが、今その尾根上を中実にとどまっているのだと意識する。

しばらくくだると、右手下方より福谷川上流の溪声が聞こえてきた。このあたりで、小女郎谷道が福谷川本流を最初に渡るのであろうと推測した。一方、今の下山路は間違えようがないくらいにマーキングと踏跡が充実していて、主に杉の植林帯のなかを小女郎谷に平行して進んでいる。

出発から30分後、12時43分にピーク717に到達した。ここまでは全く間

ここから、今の下山路を逆にたどって元の山道まで行けるかどうか？恐らく簡単ではないだろう。どうしても、とにかく下山してしまえばいいという感覚で歩いた道は、正確にルートを感じていないことが多いようだ。

14時2分、気分よくアスファルト道をたどり、20分後にはJR蓬萊駅に到着した。自動販売機で買った冷えたペットボトル飲料の美味なることよ。14時28分発の普通電車で京都に戻った。

本日、正規ルートを歩いたのは小女郎峠付近のみで、安曇川側からの登高も、小女郎峠すぐ北からの下山も非正規ルートだった。が、存外踏跡またはマーキングが各所に見られた。

実は本日の登高ルートは、本誌92号「権現山北方尾根登高」時、サカサマ谷とサカ谷との間の尾根で、直接下からたどりうる尾根ならば、全て小女郎峠に到達しうると考えていたので、まず一本実行に移したのである。

下山路は、ずっと以前から、縦走路との分岐付近でササやぶが刈り取ら

題がなく、なぜ本コースが赤の実線コースになっただけなのかと不思議に思ったが、その理由はもうすぐわかる。

6分後に出発してさらに道をたどっている。ここでも急斜面を下山路にするのかと思ひ、コンパスを143度に定める。基本的に小女郎谷と平行する方向である。

ここからの下山路は傾度40〜50度で、木々を持ち替えたり、支持のない場所では慎重にストックを使いながら歩を進めた。よく見れば、途中から踏跡があったので、それを利用しながらなおも注意深く下山した。百数十分の急斜面だったが、なるほどこれでは、赤の実線コースにはなり得ない。

その後はしばらく緩斜面をたどるが、再び急斜面に遭遇した。先程の植林帯とは違って自然林のなか、支持する木々があつたので、それを利用しながらなおも注意深く下山した。百数十分の急斜面だったが、なるほどこれでは、赤の実線コースにはなり得ない。

13時18分、標高3600分これからこの高度ならば、小女

れているので、いつか下山してみよう
と機会を狙っていたものである。
(平成19年7月28日歩く)

▲コースタイム▼

新道足尾谷橋バス停(8分) 行者山トンネル直上の尾根(15分) 標高580分 小ピーク(7分) 鞍部(13分) 蓬萊山展望地(15分) 標高700分(13分) 標高780分(18分) 「視察道」の札(18分) クマザサ密集地(9分) 小女郎ヶ池(4分) 小女郎峠(2分) 小女郎谷北方尾根取付点(30分) ピーク717(29分) 標高3600分(10分) 小川左岸(22分) 金毘羅道合(2分) リッチランドへの道分岐点(20分) JR蓬萊駅
△地形図・地図▼
2万5千「花背・比良山
昭文社「比良山系」

連載

三角点を訪ねてシリーズ ⑤②

山本山から賤ヶ岳へ

湖北

磯部 純

山本山は古くは朝日山・白山とも呼ばれていたが、山本山城が築かれてから山本山と呼ばれるようになったと言う。

前九年の役(1056〜1062)に、平定に功のあった源義家の弟新羅三郎義光は近江を賜り、その子孫がこの地に居住し山本姓を名乗って近江源氏となり、源義定、山本義経がこの山頂に城を築いた。義経は頼朝の挙兵に応じ、治承四年(1180)、湖東で平氏と戦い攻められて落城。その後阿閉貞征が城主になったが、天正十年(1582)にその子貞大が、本能寺の変で明智方についたために秀吉に攻められて逃走したが捕まって殺され、それ以来、廃城となってしまった。城跡の石垣だけが今に残っている。

山本山山頂、城跡広場



この日登る山本山へは、前月の高島さんの「奥山」例会の後、カメラも持たずに空身で三角点を見に登ったのが初めて。一方の賤ヶ岳は、平成5年の7月、呉枯ノ峰に登った帰りに、三角点標石の写真を撮るだけの目的で、リフトで上がったことがある。山本山と賤ヶ岳間の尾根は縦走したことがなく

今回初めて高島さんの例会で歩いた。JR京都駅発6時39分の列車で野洲駅へ。駅前待っていた守山の彼の車に、京都方面から高島さんの例会「山本山から賤ヶ岳」へ参加する6名が乗り込み、湖岸道路を走り、一路集合地の奥琵琶湖ドライブインへ向かう。曲がりくねった道を快調に走ると、富士山のような形をした山本山が、車窓の右や左に次第に姿が大きくなってくる。ドライブインへ着いたのは8時45分。この日の例会参加者は、我々以外は若野さんの例会でよく会う3人で、合計

11名。何れも見知った顔ばかり。二台の車に乗り、南の山本山登山口へと移動する。案内書の山本山への登り口は、バス停の関係から山本集落の常楽寺参道から取り付くように紹介されているが、この日は山本山の西南にある津里の宇賀神社から登る。休日を幸いに、神社近くにあるどこかの会社の駐車場へ断りなしに入れ、9時20分に出発した。

と咲くコナスピヤニガナの花を見ながら、30分も登って行くと、山本山城の二の丸・本丸跡の広い山頂へ着いた。ここからの展望はすばらしく、目の前に竹生島の浮かぶ琵琶湖が広がり、尾上、津里の集落がすぐ下に見える。この南斜面にはワラビが残っていて、山へ登ったら何か持って帰らないと気がすまない人達が、風景そっちのけでワラビ採りに忙しい。

公園化した本丸跡の東南の高みに三角点埋められている。点名は「山本山」、標高324.4円で、二等三角



山本山・賤ヶ岳付近図

点である。標石は北向きで、10度東へ振っている。

10時5分、北方の賤ヶ岳へ向けて縦走の第一歩を踏み出す。この縦走路は八幡国民休暇村から近江舞子へ至る、行程140kmの「湖北・湖の辺の道」の一部になっている。

一段下りるとあまり幅のない平坦な尾根道で、「馬場跡」の看板が立てられている。尾根に付けられた道をゆるくくだって行く。両側はマツタケでも出そうな松林で、道脇には花の終わったオオイワカガミの群生をアチコチに見る。松の落ち葉道に散らばる白い花はエゴ。上には時折ネジキの花も見る。道はよく整備されていて、道標・案内板が点々と置かれている。この山本山から賤ヶ岳へ至る尾根には、一二八基とも、「三二基」ともいわれる古墳が点在し、古保利古墳群と呼ばれている。その中でも、前方後円墳八基と前方後方墳八基が顕著で、古代の豪族伊香連氏のものだと言われ、最大のもものは全長80mにも及ぶとあるが、古墳のそば

を歩いていても周りには木や灌木が生い茂り、これまで歩いている尾根の状況と何ら変わることもなく、古墳の形すら特定できなかった。

西野へくだる道分岐を過ぎると、それまで尾根の西にあった道が東側へ変わり、遠くに賤ヶ岳が見えてくる。道脇に咲いているノアザミの赤紫色が、日に映えて実に美しい。標高点199mを越えて、地形図に無い林道を横切ると、道は急勾配の斜面をジグザグに登っていく。その途中で、スイカズラの白と黄色の花を初めて見た。やがて杉林に入り、何の意味か「阿曾律十軒」と書かれた標識を過ぎて、方向を東へ振り登って行くと、平坦な広い杉林。そこからわずかに登ると、尾根の分岐するコンター(約)320mのピークだった。まだ12時にはなっていないが、ここで昼食となった。

何本も立つ杉の木の下に坐り込み食べ始める。鈴鹿なら、こんな杉林に坐り込んでしまうと、たちまち主様(ヤマビル)の襲撃を受けるが、ここなら

安心して坐っていられる。あたりの状況

を地形図で確認すると、ここから東南へのびる尾根上200m程先に三角点があるではないか。リーダーはひたすら食べて飲んで、ダベって、三角点には関心ない様子。せめてここまで来たら三角点に会わずに通過するのは悔いが残ると、急いで食べ、飲む物は飲んでから行ってみることにした。

このピークは展望が利かず、一段低くなった尾根の方向がもう一つ不確かだったが、何とか尾根の方向を特定。皆が昼食に興じているのを見て三角点へと向かった。のった尾根には踏跡があり、倒木があったにせよ10分もかからずに三角点へ到達した。標高299・6m、点名「赤尾」で四等三角点だった。すぐ引き返してみると、出発時間には十分に間があり、冥は同じように続いていてひと安心。その後も皆で騒いで唄を歌っている間、20名もの「琵琶湖を巡る会」の団体、3人連れの登山者が我々の横を通り過ぎ、この縦走路の人気の高さを見せつけていた。

13時5分、予定時間を5分遅れて出発となる。ゆるくくだって登り返すと、道の両脇にはオオタツナミソウの花が途切れることなく続いている。その花を見ながら登り、平坦なピークまで来ると、道の真中に三角点立っている。標高360・4mで、点名「西山」、四等三角点であった。この山は右近山と呼ばれていると聞か、分県登山ガイド「滋賀県の山」には「丸山」と載っている。山名は、点名からすれば「西山」が妥当で、ガイドに「丸山三角点」となっているのは、間違いに思える。

尾根をくだって送電線が頭上を越えると、送電線の鉄塔。ササユリの蕾をいくつも見た。前年、守山の彼のグループが来た時には、数多くのササユリの花を見たと言っているが、今年は花が遅いのか消えてしまったのか、蕾は数えるほどしかなかった。

賤ヶ岳陸道を越える鞍部から最後の登りにかかり、小ピークを越えたりフトの降り場がある。そこから広くなった道を登って行くと、途中に石仏や地

イモック山道行くらぶ

春夏秋冬、季節を気にせず、里山・名山・名山を訪ねます。お気軽に御参加下さい。

詳細はお問合せ下さい。



IMOCK.

KOBE
〒653-0000 神戸市東灘区日吉町3丁目1番10号
カサノビル2F

TEL (078) 621-5851

FAX (078) 621-3528

営業時間/10:00~20:00 ■日曜日本店休

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac



クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのNEザックです。

☆26L☆

・カラー ブルー×ネイビー・レッド×ネイビー
・ライニング ワイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー

・重量 800g
・素材 ナイロン・リップ
・価格 ¥18,500

蔵堂があった。賤ヶ岳の合戦で亡くなったおびたらしい数の兵を、地元の人達が手厚く葬って石塔を立てたが、時代と共に埋もれてしまい。昭和57年に、残っているものを集めて供養したものと聞いている。

14時20分、賤ヶ岳山頂へ着く。山頂は平坦で公園になっていて、三角点は公園の東端に立っている。賤ヶ岳三等三角点、点名も「賤ヶ岳」で、標高は421・1mである。標石はシッカリと磁石の南を向いている。

三角点から北方を見ると、眼下に余呉湖があり、その向こうに柴田勝家の本陣のあった行市山や横山岳も見えた。展望台からの南の光景は圧巻で、出发点となった山本山が遠くに霞み、そこから続く尾根がここまで敵っている。

賤ヶ岳の山名の由来は、全国行脚した行基がこの地に舎を建てようとした時、この山の賤、すなわち民が現れ、「我、精舎の守護神とならん」と言ったことで、大音大明神として祀り、そ



賤ヶ岳三等三角点

れ以来この山を賤ヶ岳と呼ぶようになったといわれている。一方、行基が伊香具神前で美女に会い、何人と尋ねると、「西方に高き山あり。これ賤の住む所」と答えたことから、賤ヶ岳と名付けたという説もある。

賤ヶ岳は歴史上でも良く知られている山で、本能寺で倒れた信長の跡目争いで、秀吉と柴田勝家が戦った古戦場

でもある。戦いの主力は北斜面と山麓だったが、山頂付近では福島正則をはじめとする七本槍の面々が奮戦し、秀吉軍が勝利を収めた。勝家は越前北の庄(福井)へ逃れ、館に火をかけ信長の妹であったお市の方と自害した。ちなみに七本槍とは、福島正則・加藤清正・片桐且元・脇坂安治・加藤嘉明・平野長泰・榑屋武則の7人である。この古戦場は今では観光地として訪れる人の絶えることはない。この日も多くの人が山頂を訪れていた。

山頂西にある木のテーブルを囲んでリーダーが皆にバラシテしまった私の誕生日の前日祝いと称して、ザックの中の食料品の整理を行った。昼食時にほとんど食べてしまったと思っていたのに、草餅・福寿司・鯖寿司ばかり一杯に出てくる。それを整理するのに予定時間を大幅にオーバー、下山開始は15時35分となってしまった。

山頂から北西への道をたどり、標高点269㍎の手前の鞍部から南へくだ

る。この鞍部が余呉湖から飯浦へ越える飯浦越で、この坂道を「あちら坂」と呼ぶそうだが、その名の由来はわからない。道はシツカリと刻まれているが、人があまり歩いていないのか、石がゴロゴロ転がっていて歩きにくい。注意しながら谷間の道を30分もくだると、車を置いた飯浦の駐車場へ戻った。16時15分、ここで一応の解散となった。(平成18年6月10日歩く)

▲コースタイム▼

宇賀神社(30分) 山本山(1時間35分) コンタ1320㍎(10分) 点名「赤尾」(10分) コンタ1320㍎(30分) 点名「西山」(50分) 賤ヶ岳(40分) 飯浦・奥琵琶湖ドライブイン

△地形図▽2万5千㍎木之本・竹生島

韓国登山シリーズ ③

古刹巡りと全州ヒビンバ

連載

紅葉の名所、内蔵山

韓国

ヨシミスポーツ

吉見英樹

内蔵山国立公園を代表する山である。朝鮮半島南部に位置する全羅南道ジョンウ市郊外にある。

韓国人に紅葉の名所は? と問うと、枕詞のようにネジャン山と応えてくれる。10〜11月にかけて、紅葉狩りの観光客はもちろん、ハイカー・登山者が韓国中から訪れる(押し寄せる)ので、私の知人のネジャン山観光案内所に勤めている片平女子が、「秋にはネジャン山へ来ないほうがよい」と忠告するぐらいの、賑わいである。

紅葉の写真をみると、白く光る花崗岩絶壁の山麓が紅葉に覆われ、ふすま絵のように横方向に広がっている韓国随一の紅葉の名所と言ってよいと思う。

内蔵寺から見上げる内蔵山の岩壁



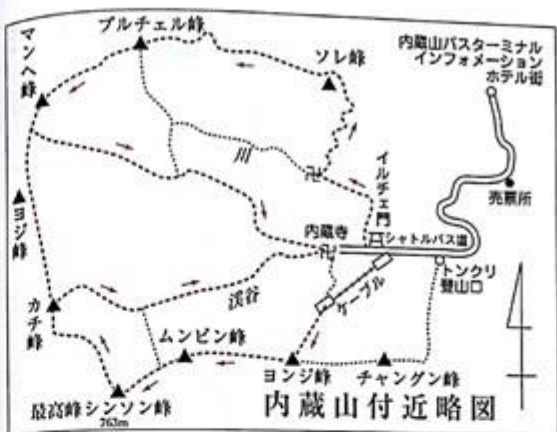
山容

馬蹄形をした山で、中央に古刹内蔵寺を抱え、寺を包み込むように、ぐるり周囲の峰々がまるで鶴が羽を広げたように取り囲んでいる。

全部で八つの峰で構成されているが、一番高い所が内蔵山シンソン峰で、標高763㍎と大した高さではない。し

かし、内蔵寺から見上げる白亜の大屏風の岩壁、上から見下ろすと峰峰に包み込まれた内蔵寺の塔頭、この風景は天下無比、これぞ国立公園の由縁たるを感じざるを得ない。

すべての峰を回峰するには峰から峰へのアップダウンが大きく、谷に架かっ



た鉄梯子、鎖を頼りに何度も上り下りするので、簡単な山ではない。健脚者でも当然丸1日かかることは言うまでもない。登山と言うよりは、宗教色の濃い日本で行う行場に近いと思う。

交通アクセス

(高速バス利用) インチョン空港より全州市まで行き、直行バスに乗り換えてジョンウプ市へ。

(鉄道利用) ソウル龍山駅より新幹線KTXでジョンウプ市へ。

ジョンウプ市から内蔵山までは頻繁にバスがある。

コース

私はノンビリと歩きたかったので、2日に分けて登った。

その日全州市外バスターミナルでバスを乗り継いで、ようやくたどり着いたのが昼前になっていた。

内蔵山に行く前に、ぜひとも有名な全州伝統家屋街を訪ねようと前々から思っていたので、悩まず市内のミニツ

日本で石焼ビビンバなどと呼ぶ、熱い石鍋でビビンバを焼いているもの。本場の味は？まさしく濃厚、ごま油がたっぷり効いていて、とても辛い。野菜が多いのも特徴。石ウスは平たく大きく目で、お焦げが多めになっている。

一言「うま〜い！」CASSPIーと相まって、幸せな夕食を楽しんだ。

次の日、山歩きのため内蔵寺観光センターからシャトルバスに15分程乗って、まず内蔵寺へ行く。山麓にあり、自然が豊かで素敵な寺である。

実はその朝、観光案内所に情報を仕入れに行くと、そこに仙台市からジョンウプに嫁いだという片平女史が働いておられ、話が弾み午前中をつぶしてしまった。片平さんは、韓国語をマスターするためにソウルに住み、結婚した相手がたまたまジョンウプの人であったそう。日本人が来るから観光案内所で働いているわけではない。日本人はほとんど来ないようで、日本語で喋るのは2年振りとか……。

さて、寺門前にある観光ケーブルカーで中腹駅まで登り、終点駅から最高峰シンソン峰に行く。終点駅には観光客用の内蔵山展望台があり、白亜の岩壁群が一望である。

山道は整備され、ヨンジ峰まで急角度に上がって行く。この峰からの展望はさらに良くなり、馬蹄形の七峰が一望できる。さらに登るとシンソン峰最高峰になり、紅葉の時はモミジの赤と白い岩壁のコントラストが一枚の屏風絵になるそう。

こちらからの登山道は人気のように、木道階段など整備し過ぎなぐらいで極めて安全になっている。子供連れの家族ハイカーが大勢スニーカーで登って来ている。頂上は狭く、10人ぐらいでいっぱい。それは賑やかで、「アイグー、キブニチョアー(ああ、気分良いなあ)」などと、大声であれだこれだと大盛り上がり。私は居場所が無くなら、早々に切り上げ、尾根道をカチ峰まで歩き、そこより下りることにした。この山の便利ところは、いつでも

アーに出かけた。全州市は李朝鮮建国者、イ・ソングの出生地である。屋根軒先が上に反り上がっている朝鮮式の建物が軒を連ね、路地は石畳でこぼこ、あちこちにうねりながらのびている。家屋はオンドル部屋になっており、オンドル暖房用の煙突があり、李朝鮮時代にタイムスリップした錯覚を覚えたぐらいである。

20年前に江原道安東市にある有名なハフェマウル(伝統家屋世界遺産)を訪れたことがあるが、同じぐらいにインバクトのある光景である。

この日内蔵山に入らないなら、一夜ぐらい伝統家屋で泊まってみたいと後る髪を引かれる思いであった。内蔵山山麓は一大観光地らしく、想像していたよりはるかに開けていて、民宿・モーター・食堂・土産物屋がたくさんあり、私が訪れた9月はオフシーズンで宿探しも楽だった。

到着早々、全州に来たのでイの一番に全州ビビンバ専門店に飛び込んだ。

アタッテ痛い靴の巾広げします

靴の耐用年数は約 3~5年です!!

アウトドアショップ 与三のヨシミ

JR天王寺駅 北出口を東へ徒歩 約5分 少少徒歩でスグ。

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/

TEL. 06-6772-7231 ●営業時間/AM10:50~PM8:00(日曜は7:00まで)

毎週木曜日定休

新ハイキング選書

- 第28巻** **バリエーションルートを楽しむ** 松浦隆康 著
A 5判288頁/定価1680円 花・巨樹・滝・眺望など魅力の100コース
好評の『静かなる尾根歩き』著者による第2弾。奥多摩・奥武蔵/高尾山・扇山付近/丹沢・箱根/道志・御坂/大菩薩付近など全100コースに略図付き。
- 第27巻** **房総のやまあるき** 内田栄一 著
A 5判261頁/定価1838円 あなたの知らない千葉県南部の58コース
「えっ！千葉県に山があるんですか？」そんなあなたに、とっておきの房総のやまあるきをご紹介します。標高ではうかがい知れない奥深い房総の山へのガイド。
- 第26巻** **静かなる尾根歩き** 松浦隆康 著
A 5判288頁/定価1680円 奥多摩から八ヶ岳まで日帰り100コース
今までむずかしいと思っていたコースへの道を開くガイド書。コースにグレード区分をつけ、最新の踏査にもとづき全て分かりやすい略図入りガイド。
- 第25巻** **東京近郊里山ハイキング** 新ハイキング・ベンクラブ 著
A 5判232頁/定価1680円 身近な自然を楽しむ東京都67コース
意外なほど豊かな自然が残っている東京近郊。北総・房総・武蔵野・多摩・湘南・三浦半島の里山紀行に加え、初詣と七福神めぐりを網羅した一冊。
- 第24巻** **山岳巡礼** 佐藤光雄 著
B 6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
春の穂高、夏の大雪山、秋の鍾岳北方稜線、冬の御嶽、ひとり拓く山の世界。本格的に山に取り組む人への良き案内書。
- 第23巻** **多摩100山** 守屋龍男 著
(改訂2版) B 6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び組みあげた50コース
多摩丘陵の低山から東京都の最高峰雲取山までを50コースにまとめて紹介。略図や写真も豊富に入ってわかりやすいガイド書。多摩246山の資料付き。
- 第4巻** **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
上製本/B 6判352頁/定価1690円 一等三角点研究の決定版
都道府県別に一等三角点を地図上に明示。一等三角点についての詳細な解説、高度順100座一覧表など、この1冊で、一等三角点のすべてがわかる。

●本誌添付の振込用紙で
ご注文されると、送料当社負担

新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110

あらゆる峰からくだれることである。まさにエスケープルートだらけ、予定を考えないで適当に歩けるのがよい。この日は名刹内蔵寺へも参拝した。新羅時代創建、とても有名なお寺だそう。お寺の覺と紅葉した岩壁群は、つとに有名で、インチョン空港のロビーや通路などに、韓国を代表する景色として紹介されている。

帰りは山門からホテル群のあるセンターまでシャトルバス専用道歩いた。川沿いの気持ちがいい道、街路樹は全てモミジ、秋には道も全てモミジで真っ紅になる。

その晩もまた全州ビビンバを食べた。翌日、早起きをして反時計回りに歩くことにした。昨日と反対回り。こちらの方は圧倒的に人が少なく、登山者向きのコースになっている。

イルチュ門から急登すると、ソレ峰に飛び出す。こちらからは、馬蹄形の外側の景色が展望でき、登山道も鉄梯子や深めの谷、激しいアップダウンな

ど、一般ハイカーにはお勧めしにくい難所が連続する。

仏出峰下には高麗時代に彫られた仏出洞窟石仏群があるが、朝鮮戦争時、北朝鮮軍が侵襲し、顔をそぎ落としていた。どの国へ行っても、内乱があると、この手の文化財が傷つけられる。とても痛々しい仏さんのお姿であった。さらに細い尾根をたどると新たな峰に出る。ここからのお勧めは、馬蹄形峰群の一番奥から鶴が羽を広げた鶴翼陣形風の岩峰を一望できるうえ、その中心部に鎮座する内蔵寺を展望できることである。箱庭的風景だが、その凝縮された風景がとても魅力的である。

エスケープルートをとって、溪流沿いに歩くと内蔵寺に出る。

お寺に無事山行終了のお礼報告、その夜はジョンウプ駅前宿をとり、最後の全州ビビンバを食べた。周りは畑だらけの田舎だが、内蔵山故に新幹線KTXの停車駅になっている。

今夜が最後の夜、駅前のベンチで韓国焼酎を呑み、ハングル文字ネオンを

見ていると、「いろいろな事があったな、明日は帰国せんとあかんのか」と寂しい感情がこみ上げてきた。

アドバイス

内蔵山観光センター付近の宿は、観光地お忍び旅用のモーター群などで、清貧な我々登山者向きではない。ジョンウプ駅前のモーター(一般者もまだ使える)がお勧めである。付近の食べ物屋も一般者向けで安い。

ジョンウプなどの地方都市はビジネスホテルが全く無くモーターしかない。これは全ての機能が、ソウルと釜山に集中しているからと思われる。

▲コースタイム▼

イルチュ門登山口(1時間20分)ソレ峰624m(1時間15分)仏出峰(50分)マンヘ峰(1時間)カチ峰(1時間)内蔵山シンソン峰763m(30分)ヨンジ峰(1時間40分)チャングン峰經由ユグンチ(40分)トククリ登山口

山のレポート

東チベットの波密

樹上葬の森

内田 嘉弘

2006年秋に東チベットに入った際に樹上葬を見てきた。ラサから川蔵公路を東へ約650キロの地点の波密にそれはあった。

10月17日、今回の計画では通交から易貢蔵布に入り、巴玉まで行くことにしていたが、易貢措の手前で落石があった、その改修工事で合流点の入口は遮断機が下ろされて入れず、また、今回の許可書ではナムチュバルワの大渡卡にも行けなかったから気分は鬱陶しかった。

とりあえず川蔵公路を走って波密ま

で行く。宿は漢民族風建物の雪域賓館で、ホテルの二階からは西の方向に端正な山姿の水石山(5309呎)が望めた。

波密のことは、案内書に「チベットのスイスと称され、美しい雪山が望める風光明媚な町」と紹介されているだけあって、セジョポモブドゥン(5684呎)、シンギカンラ(5688呎)、無名峰の5180呎と5885呎の鋭峰、5033呎の双耳峰の山々に囲まれている。

街はヤルン・ツァンボ河右岸の318号線沿いに商店や食堂が並ぶ中国各地で見られる新興街と同じスタイルのトラック・ステイション的な街であった。それに比べて左岸は昔のままの集落があって、その川下に梁通寺(ニンマ派)が丘の上に見える。

この街で「樹上葬がある」と聞いた。

10月18日、波密からヤルン・ツァンボ河に架かる大橋を渡り左へ折れ、桑旦の集落で右に折れ、山手への道に入

ると村外れで鍵が掛かったゲートがあった。何か書いてある。それを頼りにガイドが鍵を借りに行き、ゲートを上げて山道に行く。卓龍溝沿いに付けられた車一台がやっと通れる悪路を登って行く。

高度が3200呎の地点で、白い布をグルグル巻きつけた5呎位の円錐があり、その周りを円形に白いタルチョのようなものが並んでいる。これが樹上葬かと思われたが、どうも違うようだ。これを過ぎ林道の終点にチホルテンが八基並び、その周りにタルチョが並んでいる。見上げると白い峰のセジョポモブドゥンが望める。

樹上葬の場所はどこだろうとその付近を探していると、尼僧が3人現れて案内してくれると言う。10分程登るとお堂のような建物と掘立小屋があって、そこから煙が上がっていて管理人が1人いると言う。それを過ぎて、タルチョが木々に渡してある所を潜り抜けると、目の前に赤い毛布に包まれた物が木に括りつけてあった。

大きさは50センチ×30センチ程だから幼児の遺体のように思われる。一瞬、背筋がゾクッとする。周りを見渡すと木箱・竹籠・肩掛けカバン・寝型の白いポリ容器、あるいはドンゴロス等に遺体を入れたり包んだりして木々に括りつけてある。中には木の又の所に落ちないようにのせてあったりするから樹上葬なのだ。それらはすべて幼児か小さい子供のようで、その重たさに枝が折れて地面に転がっているものもある。また、苦むした小さな頭蓋骨が三層岩の上に見られた。この中に佇んでいると

霊気さえ感じる。

下山後、波密の役所で伺ったところ、「昔は2歳までの赤ちゃんのみが樹上葬されていたが、時代が移り12歳にな



樹上葬

り、現在では14歳までの子供が樹上葬されるようになった。子供は心が汚れていない。純潔であるから樹上葬にされるのだ」と言う。もし15歳で樹上葬されたとして、それが嘘だとわかった場合は、管理人が降ろして土葬にするとのことである。

この樹上葬地帯は、標高3200〜3300呎地帯で森林限界に近く、天に近い地点でもある。それから15分位登って森林限界を抜けると神山・セジョポモブドゥンが目の前に迫っていた。

樹上葬については、同行の中島徹夫氏がよく調べておられる。彼の所属する横浜山岳会報に次のような資料を載せておられる。

「中国西藏信息中心 チベット各地の埋葬様式より」(2001年10月15日付)では次のように説明されている。

「天葬、水葬が許されない八歳以下の子供に対してのみ行われるチベット民族の埋葬スタイルの一種で、主に青藏高原東南部の樹木の多い地

域と林芝地区で見られる。子供が亡くなると家庭では竹籠や木箱を作り、遺体をその中に納め、樹木へ運ぶ。森林には樹葬を行う特定の場所があり、遺体を納めた竹籠や木箱を樹の枝にかけるか、幹の根元に置く。こうすることで子供が天折するのを防げるという。」

2001年は8歳までの子供が樹上葬され、2006年に現地を調べた時は14歳だということだから、年齢が上がったと考えられる。

先程のチホルテン八基がある所から30呎ほどくだった所の左の広場に尼僧の宿舎がある。覗いて見るとそこでは木に白い布をかける作業をしていた。そこにはバラック建の五、六棟の建物から続々尼僧が出てきて家内と私を訝しげに眺めた。寺らしいものは見当たらず、この山中で彼女らは何をしているのだろうか。どのような修行、尼僧と樹上葬との関わりは……と頭の中を巡るが、下山することにした。

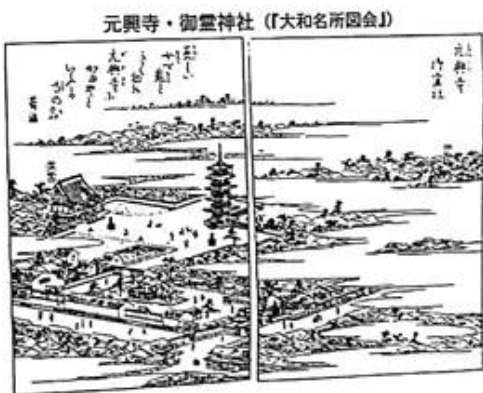
(平成18年10月18日)

奈良町に元興寺を訪ねて

松永恵一

元興寺
猿沢池の南、江戸の面影を伝える奈良町の一角に元興寺が残る。仏教を受け入れた蘇我馬子が飛鳥に建立した法興寺（飛鳥寺）は、平城遷都に伴い養老二年（718）興福寺の南に移され元興寺と改称された。南都七大寺の一つとして隆盛を誇ったが、平安時代後期以降衰退し、室町時代の宝徳三年（1451）大和の土一揆で伽藍が焼失した。残っていた五重塔、観音堂も江戸時代に焼失し、広大な寺域はいっしか民家に埋もれた。五重塔跡の礎石や「古都奈良の文化財」として世界文化遺産に登録された極楽坊本堂・禅室（国宝）などで往時がしのばれる。

極楽坊正門として東大寺西南院から移築した四脚門（重文）から境内に入る。優美な本堂が東を正面としてたずむ。元興寺に四棟あった僧坊の棟東室南階大坊の一部で、智光法師の住房という。寺勢が衰えていくなかで、法師が極楽浄土を感得して描かせた智光曼荼羅（阿彌陀浄土变相図・重文）を祀った本堂（極楽堂・曼荼羅堂）は、庶民信仰の霊場として栄えた。東西に長いひと続きの僧房は、鎌倉時代の寛元二年（1244）に創建時の建材を再利用し、本堂と禅室に改築された。僧房の東端部分を改造した本堂の内部は、板敷きの内陣の周囲を畳敷きの外陣がぐるりと囲み、智光曼荼羅



が祀られた内陣を念仏を唱えながら右廻りに歩く右繞に適した構造である。内陣の「角柱」には念仏講の寄進文が陰刻されている。

禅室は僧房の四房分を改築した端正で優美。飛鳥時代の屋根瓦、天平時代の資材を再利用して、鎌倉時代の大仏様建築様式で再建されている。

智光曼荼羅

智光法師は浄土教を研究し、「無量寿経論釈」を著した。「智光曼荼羅」は浄土三曼荼羅の一つで名高い。慶滋・保胤の、阿彌陀信仰によって極楽往生を遂げた人々の伝記集『日本往生極楽記』によると、智光と頼光は同じ坊に寄宿していた。頼光は物言うこともなく寝てばかり、智光は一心不乱に経を読み極楽往生を願った。頼光は極楽へ往生した。智光が怪しんで問うと、阿彌陀仏が浄土の荘厳を見せて諭した。智光が夢で見た浄土を描かせたのが、智光曼荼羅だという。

智光の住房に極楽浄土の絵があったことから、極楽坊の名が生じ、平安時代後半からは百日念仏講など、南都における阿彌陀浄土信仰の中心をなした。曼荼羅原本は宝徳三年の土一揆で焼失したが、写しが本堂内陣の厨子背面に奉安されていた。横に板を連ねて画面とし、漆下地に黄土を塗り、上に岩絵具を用いて阿彌陀如来を中心とした聖衆と極楽浄土を細密に描いている。

辻村泰圓師

荒廃激しく「おぼけでら」と揶揄された無住寺極楽院の修理を、昭和十八年に西大寺から辻村泰圓師が特任され住職となった。修理が進むと、鎌倉時代の念仏道場の遺構が残っているだけでなく、禅室の柱の寸法が天平尺に当てはまるとか、本堂の内陣が僧房の一室分に当たるとかがわかった。丸瓦を重ねて葺く行基葺きの手法を伝える西流れ屋根瓦も飛鳥から運んでいた。瓦は一枚ごとに微妙に色が違っていて美しい。年輪年代法で、天井裏の梁を支える巻斗の用材も、飛鳥時代初めであることが判明している。

塵芥と思っていた天井裏の膨大な中世庶民信仰資料（こけら経・印仏・板絵等）は、「貴族の仏教資料を持っているお寺は多いだろうが、古い庶民の仏教資料をこんなに沢山持っているのは、うちの寺だけやで。」と泰圓師は自慢した。元興寺仏教民俗資料研究所は、現在元興寺文化財研究所となり、文化財の総合的な研究をしている。

元興寺の五重塔（大塔）

町並の中に巨大な塔跡が残る。十七個の礎石が並ぶ。心礎は柱座があり出納を持ち、礎石は内柱座を有する。柱間は中央12尺、両脇間11尺、一辺天平尺で34尺（9・85尺）を測る。塔高は24丈（73尺）と伝えられる。昭和二年の発掘調査で玉類や神功開宝等の埋納品が出土し、昭和七年に元興寺塔跡として史蹟に指定された。

寛政三年（1791）に刊行された『大和名所図会』の「元興寺、御霊神社」には、五重塔が描かれている。土一揆によって金堂や禅定院が焼けた時も難を逃れ、大地震や落雷での破損時も、住職・寺僧の努力、多くの人達の勸進で修理された。奈良奉行の川路聖謨は「寧府紀事」に、「三重まで昇りみたり、奈良の市中眼下にみゆる」と記した。それから10年余り、安政六年（1859）2月28日夜、南都の町に威容を誇った塔の五重目へ、毘沙門町より出火で飛火炎上、灰燼に帰した。蠟燭が燃えるようであったという。



極楽坊・本堂(右)と禪室(左)

コース概観

猿沢池の南、約2.5四方の奈良町は、元興寺の旧寺域に広がる古い町家が軒を連ねる商家の町。奈良町は正式の町名ではなく、地域一帯を指す通称名。地域が一体となって、古い町家を残す町づくりに取り組み、落ち着いた風情を漂わせ、訪れた人に懐かしさを感じさせる。奈良町散策にと元興寺を訪ねてみた。

近鉄奈良駅下車。「行基菩薩像」が出迎える。東向商店街を南に進み、三条通りを左にとる。興福寺の三重塔の下に、「奈良公園を眺めかたせし鹿に申し渡す」と記された現在の高札が建つ。猿沢池のほとりを歩く。中秋の名月の夜の「采女祭」。花扇を乗せた龍頭・鶴首の管絃船を浮かべ、華麗な絵巻物の世界を繰り広げる。

猿沢池の東側の道をまっすぐ南へ進む。右に「ならまちセンター」がある。振り返ると興福寺の五重塔が見える。古都の道を楽しむ。広い道を横断すると右側に元興寺極楽坊の東門(正門)がある。飛鳥から移された元興寺は東大寺に次ぐ地位を占め、興福寺の南に方四町十六町の広大な寺地を有し大伽藍を誇り、三論宗と法相宗の学問的拠点として優秀な僧を排出した。僧坊では多くの学僧たちが修行を重ねていた。右の植え込みの傍らにある自然石の万葉歌碑。杉本健吉の書。白珠は人に知らえず知らずともよし知らずとも吾れし知らば知らずともよし

詞書に「十年、戊寅、元興寺の僧の自ら嘆く歌一首」とある。平安遷都後は、衰退の一途をたどるほかなく、江戸時代初期には雄姿は見られる影もなく、元興寺(塔跡)、極楽坊、小塔院に分かれて残るだけとなった。虫鳴くや七堂伽藍何もなし

正岡子規「寒山落木」
智光曼荼羅を祀り天平の僧坊の姿を伝える極楽坊は、極楽往生を願う庶民の信仰を集め、旧伽藍から独立した寺院となった。真言律宗に属している。本堂の天井裏から、東門と本堂間の地下から出土した多数の印仏、摺仏、板絵、塔婆、五輪塔、藏骨器などから、また石塔や石仏を集めた浮園田から庶民の極楽への願いを容易に理解できる。本堂の左に収蔵庫がある。五重塔の雛形とされる高さ5.52mの五重小塔(国宝)が伝わる。内部構造まで省略せずに忠実に造られていて、国分寺塔などの標準規格として作成されたものと考えられている。山頭尖尾の木札の物忌札が展示されている。上端に梵字

を書き、続いて右に九九八十一、左には逆さに二七九八と並書し急急如律令と墨書している。収蔵庫の横に財団法人元興寺文化財研究所がある。

小子房は極楽院の旧庫裏。奈良時代の僧坊東室南階大坊には北側に梁間の狭い小子坊が附属していた。西側の茶室泰楽軒は大和の名匠川崎幽玄の指物技術の粋を集めた作品として増築された。かつて智光法師が住んだ極楽坊や念仏道場の禅室は、改築されながら天平の面影を伝えてきた。初夏にはキキョウ、秋には萩が境内を彩る。2月3日の節分に行なわれる柴燈護摩会。裸足で渡る火渡りの行。「鬼は内、福は内」



の豆まき。8月23日・24日は地藏会万燈供養。智光曼荼羅の前に地藏菩薩を祀り、堂内の著名人の献灯揮毫行灯に点火され無病息災を祈願した後、境内浮園田にて万燈供養が行なわれる。24日は地藏盆まんぶく供養夢まつり「音と食の饗宴」。境内は奈良の料理人達の屋台料理で賑わう。

元興寺の北門を出て左へ。一筋目を左に折れる。古い町屋が残る家並が続く。上街道は古くは長谷寺詣、近世になると伊勢参宮で賑わった。奈良町の雰囲気は深う食事処「はり新」。炊き込みご飯と惣菜などが色鮮やかな「かみつみち弁当」は、散策の楽しみの一つ。奈良町の古い町家は間口の狭い切妻造、平入り、中二階建、格子、藪戸、虫籠窓、軒ひさしなどによって表情えが成り立っている。奈良の名産は奈良味噌をはじめ、酒・墨・武器・団扇・味噌・金剛草履・奈良漬など。軒から身代わり猿が吊されている。

突き当たりは民芸品の菊岡工芸。右に曲がる。道はカギ型に折れている。

菊岡工芸から西へたどり、一筋目を左に入ると庚申堂。すぐ南側に小塔院の小さな門がある。小塔院の門の斜め前に率川神社の小さい祠があり、その先で左に折れると御霊神社、北側に「史蹟元興寺塔跡」の碑が立つ。華厳宗に属す。元興寺塔跡土壇出土品(重要文化財)と、衣文の美しい貞観時代の木造薬師如来立像(国宝)は、奈良国立博物館に寄託されている。

御霊神社の前を東へ進むと、興福寺の五重塔の見える道に出る。道標に「東、十輪院一〇〇m、福智院四〇〇m。西、元興寺八〇〇m、御霊神社七〇〇m。北、興福寺七〇〇m、極楽坊三〇〇m」とある。

コース

近鉄奈良駅(20分)元興寺極楽坊

△地形図V2万5千11奈良

費用

近鉄難波駅→近鉄奈良駅 540円

(問い合わせ先)

元興寺極楽坊

0742(23)1377

子ノ泊山

トマリヤマ

西尾 寿一

「神武以来の敗れ続けてきた闇に沈んだ国である。熊野・隱国^{カクレクニ}とはこの闇に沈んだ国」と、熊野に育った作家中上健次を嘆かせた熊野の国は、紀州の一部とされながら全く異なる強烈な個性をもつ一國であった。

日本列島が縄文人で埋めつくされていた時代、稲作技術をもつ弥生人が列島の中央に割り込んできたとき、稲作に適さない半島や島に辛うじて縄文が残った。それが熊野だった。

権力というものは必ず富をねらう。神武が熊野をねらったのも富を得る手段としてであって、熊野そのものでは

ない。神武が熊野を通り過ぎて行っただけで、熊野は再び元の静けさに戻った。

だが華やかな都にあって人智の及ばぬ苦悩に見舞われるとき、人々は思いだしたように熊野の存在が気になってくる。それは弥生人のもつ組織的な行き詰まりの苦悩であり、解決困難な問題でもあった。

かつて何の魅力も価値も無いと判断し通り過ぎた縄文の代表熊野に再び光が射す一瞬があった。それが、上皇達の熊野詣であり、「小栗判官」であった。が、それも長くは続かなかつた。そして再び熊野は時代の中に沈んでいくことになる。

紀伊半島は稲作に適さず必然的に海と山での採集生活が基本であり、縄文文化の国である。そこへ中央から弥生人の文化のみが一方通行で熊野へ流されてくる。熊野はいつも受身を強いられるのだった。「隱国」とは弥生人が熊野を指した蔑視に近い物言いではあったが、実態に近く妙である。

しかし、熊野の縄文的エネルギーは、実は絶え間なく発信されていたのである。それは熊野三山の御師や比丘尼であり、近代以後でも、佐藤椿山・佐藤春夫・南方熊楠・中上健次といった奇才が中央に対して叛逆の狼煙を上げ続けている。

そして現在、近代文明の閉塞感から、再び熊野は見直さざるを得ない存在として浮上しようとしているかにみえる。

さて、表題の子ノ泊山（907㍺）である。山名探素ながら、長い熊野の歴史と無縁でいられないのである。

12年に一度廻ってくる子年にこの山に登る人が多いのは、他に適当な山が無いからで、今年も混雑することだろう。だが子は鼠とは何の関係もない。

「北方諸国には以前子丑寅卯……の十二支は無く、専ら鼠牛虎兎……の十二禽で年を記した。これが支那に伝わり十二支と合併したのじゃと見える」と、かの熊楠大先生はおっしゃる。先生はさらに「日本等の諸国また支那で

も十二禽と十二支を同じ名で呼び、もしくは別々に考え能わざる人間は、ややもすれば十二支を十二禽の精霊のごとく心得るより、鼠年の男は虎年の女に負けるというて妻を離別したり……」（十二支考）

熊楠先生の話は現在も何の変化もなく続いており、なかには極めて深刻な事態に至ったものさえ少なくない。

子ノ泊山登山に際し、鼠年の男女が喜々として動むくらいのは容認の範囲であるが、でき得るならばその程度で納めておいてほしい。

さて子ノ泊山は明らかに十二禽の鼠でなく、十二支の子であるから陰陽五行の方位を示している。子は北に相当するから、熊野三山のうち本宮をのぞく二山の北方位置に当たると。

例えば那智は、その中心は明らかに那智の滝であり、東の光ヶ峯（676㍺）から日が昇ってくる。光ヶ峯とはまさに太陽の昇る山の意である。おそらく神武東征以前から熊野の太陽に対する信仰は存在したものと考えられる。

『日本古代呪術』（吉野裕子著）には日本原始信仰と陰陽五行説との習合について詳しく述べられているが、注目に値する。

それによると、原始信仰（熊野における縄文時代の信仰かどうかは不明ながら）の主軸は東西にあって、東は父性（蛇）西は母性である。実際にも光ヶ峯から日が昇り、蛇については大蛇峰（687㍺）がある。細かく山名をあげる紙面はないが、西に西を配置するのは夜明けを告げる鶏声と考えられる。

吉野氏は古代日本人の世界像として次の三点をあげている。これは①東からくるもの、②常在せぬもの、③穴にこもるもの、などとした。これは明らかに太陽を意味しており、東から昇った太陽は常在せず西に向かってゆくが、最高地点で停止したかのように感じる時がある。それが穴（次）であって、吉野氏はこれを次のように説明している。

「東と西、西と東の間には「穴」があって、神も太陽も人も、この「穴」

にひととき、こもることなしに西方へ、あるいは東方に出ることはできない。『穴』は東と西の間に空間的に存在するものであると同時に、神・太陽・人の時間的な動きの中間にあって、『静』の時を提供するものである。太陽が一時こもる所とは何であり、どこなのか、それが問題の焦点であるが、結論はもう少し先とする。

日本の古代信仰が東を生命の生じる方位として常世を表すのに対し、西は日の沈む所で人の死につながる国であった。そして太陽が頂上に達した所、これが穴で中心であった。深い森林と山岳と海の世界、熊野はわが国有数の多雨地帯である。稲作不可のこの地で太陽を迎える心情は、他の地方の何倍にもなったに違いない。そして外来思想の来訪があり、それが陰陽五行であった。

古代信仰が横軸であるのに対し、五行思想は全方位であるが、特に縦軸が注目される。

五行説では、北が子で水と黒である。水は当然のこと那智の滝と上流域の滝群ということになる。

元からあった原始信仰の穴の部分を中心に五行説を重ね合わせることで謎が解けてくる。これを「中央の穴を北の坎宮に移動し重ね合わせることは大きな魅力であったに違いない。そうして中央の穴はいっしか北の坎宮に習合された」（日本古代呪術）となると坎宮にあるのは「太一」であり、北極星である。

北極星は不動であり、北斗七星が一昼夜に一回転する構図はまさに「太一神」と言え、さらにその居所が「坎宮」ということになる。

子ノ泊山とはまさにその方向に高く位置し、意識されてきた山といえる。

北極星を重要視する信仰は列島の太平洋側に多く分布する。それは軍事的な要請でもあった。東北では伊達氏のものがかいくつか存在し、勇猛な武将のあるべき姿を示し、熊野の場合は熊野水軍が考えられ、事実、熊野別当は源

名な火祭があるが、同時に「扇の祭」がある。解説によると扇祭が神武東征軍を表し、火祭のほうが生着民を表しているという。

5 日程の柱に扇をたくさん付け、テム状にしたものを那智の滝の前に何本も立てるが、この扇は太陽を表し（アマテラスか？）ているという。祭の発生源は明らかでないが、土着の信仰のなかに外来の陰陽五行思想を受け入れ、習合してゆく指向性があったのだらう。

熊野は謎の多い所である。文献の少ないなかで、あえて民俗学的方法に頼らざるを得なかったが、大きく外れてはいないと思う。

子ノ泊山の山名については様々な見解が述べられているが、その中に「当て山」について触れているものがある。当て山とは海上から自分の位置を知るために陸上の山や岩など目立つ物体を目印とするもので、漁民の生命線ともいえるものだ。

氏に加担し多数の軍船を動員し、壇の浦に参戦している。

平家の強い要請がありながら田辺にあって別当は、源平いずれに味方するか闘鶏で占ったという。田辺は五行説で西の西の方位となるのは単に偶然ではないはずだ。

さらに宮中で行われる大嘗祭にも関係が深いものがあるという。例えば、子は北方で時間は子の刻（午後11時～午前1時）で色は黒で水と穴（坎）となっていて、斎場は北の位置とし子の刻には一所にこもるのは子の作用で「かくれる・こもる」意であると解く。

これによっても大嘗祭にも陰陽五行説に応じた儀式であったことがわかる。子の北方とは先のかくれる・こもるの意と解くならば、「子ノ泊山」の意は十分理解できるのではないかと思う。

『古事類苑』という本に子の正月の行事を載せているのによると、「古へ正月子の日に、高きに登りて遠く四方を望み、以て陰陽の静氣を得るに原づく（中略）その第一の子を初子といひ、

一つの山だけでなく、複数の山や岩などの位置を変えて見るとき、ごく限られた一点を指定可能するという便利なものだが、これを子ノ泊山に求める場合もあり得ると思うが、近海の漁民や半島を廻り瀬戸内海へ向かう巨船にはまず第一には那智の滝だろう。この滝こそ、第一級の当て山ならぬ目当ての目標だったと思う。

他に神倉神社のゴトビキ岩や花の窟などがあげられよう。しかしそれらは二次的なものと考えたい。

日本有数の渓谷をもつ熊野は沢登りのメッカでもある。それにしても京都から熊野は遠い。

子ノ泊山だけでも2日は欲しい。随分昔、新宮の岳人玉岡氏に宿の手配を頼んだとき、登山を終えて宿にたどりついたとき、新宮名物のサンマ寿司が届けられていてえらく感動したことを覚えていた。

第二の子を弟子といふ……とあって、昔から子の正月には高い所（地方なら山・宮中なら戸外の垣にて宴が催される）こととなっていた。

子ノ泊山が熊野に住む人々によって子の正月に登られ、卯の方向（東方）に日の出を暈拝する行事があったのかは不明ながら、現代では行事としてでなく趣味的行為として実在することは確かである。

熊野の補陀浴渡海についても無視することはできない。実はこれにも五行説が深く関係しているようである。

観音浄土補陀洛への信仰は各地に散在し、渡海もされたが、那智は最も規模が大きく過去十九回にも及ぶ。那智山から観音浄土に向かって渡海する意は、子から牛へ至る行為で、こもるから再生へとつながる。つまり「生まれかわる」儀式である。しかも渡海が行われる月は11月（子の月）に決められていた。

熊野で現在も行われている祭礼に有



コースガイド①

湖西

(重山シリーズ44 高島市)

棚田と野外プレイ・ゾーン

畑集落とガリバー旅行村

一般コース(★★★)

長宗 清司

JR湖西線近江高島駅下車。駅前から江若交通バスに乗る。バスによっては「ガリバー旅行村」経由で終点の畑に着く。

畑バス停近くの立看板には、畑地区の地理・歴史・農業・棚田の概要が記されている。

これによると、この地に人が初めて住みついたのは、約二千数百年前の縄文時代、稲作が始まったことと推定され、現在の集落は室町時代に形成されたと考えられる。自然が織りなすこの地特有の農地を保全するため、昔ながらの手法により自然の地形に逆らわず

畦畔を作り上げ、崩壊を防ぎながら今日まで水田農業と共に、延々と耕作管理し、良質のおいしい棚田米を生産している。平成11年7月26日「日本棚田百選」として、滋賀県で唯一認定された。当地は、棚田面積十五段、棚田の枚数七〇枚で、平均勾配は六分の一(九・五度)と非常に急勾配の棚田である。

八幡神社前を過ぎると、駐車場があり、大阪など他府県ナンバーの車が多く駐車していた。明らかに都会人とわかる親子連れが棚田の中にウロウロしていた。棚田オーナーである。

銀杏の葉形をした集落の中央付近を、最上段部まで急勾配の道を上り切ると、そこにはなぜか廃車(普通車)がシンボライズに固定してあった。休憩後、少し下りた休耕田から見下ろした棚田の光景は見事だった。遠く岳山の山容が山奥の雰囲気と溶け合っている。通り抜ける各家には、谷からの水を樋を伝って引き込む水場があり、鯉が飼われている。

畑集落の棚田



棚田の雰囲気をも十分に満喫したのち、バス道に戻る格好で黒谷集落へくだる。ここで古くからある八淵滝へ右折する。やがてこの道は鴨川の左岸に出て、上流に向かって歩く。昼食はこのあたりの河原がよい。やがて川幅も狭くなり、一つ目の橋を渡ってすぐ左手の落ち葉が積もる地

道(幅2・5m程)に入る。ここはとうやら別荘用分譲地への新しい道らしく、きちんと区画整理がしてある。自動車が入らなくなると久しいのか、道幅は保たれて人が歩くのに支障はないが、何度も倒木が道を塞いでいた。

これだけ開けているのに人気が無いと、何となく薄気味悪い。捨てられた家屋が何軒もあった。突然前方にももの気配がして、何か走った。それは二頭の雄雌らしいシカが、茶色に鮮やかな白斑を見せて道

を横切った。それだけ自然に選んでいる地だった。

国土地理院発行の地形図に記されている道を何本か通過し、ぎりぎりまで上りつめ、最後に左折して、50段ほど歩いたら、うまい具合に「ガリバー青少年旅行村」の中央部への舗装路に出た。程なく「大人の国」の中心部「ガリバーハウス」前に到着した。「おとぎの国」をめぐる、吊橋の揺れに歓声をあげ、すっかり子供気分ではしゃいでいる。

バスはここまで入っているが、本数が少ないので帰路は、舗装路を遠くまで歩いて鹿ヶ瀬道バス停まで歩いた。

*時間、体力に余裕があれば、往復

1時間で行ける八淵滝まで足をのばすとよい。

*畑(棚田)・ガリバー青少年旅行村見学は各1〜2時間を要す。(平成19年6月10日歩く)

▲コースタイム▼

JR近江高島駅(バス31分)畑バス停(15分)黒谷集落(1時間)鴨川一つ目の橋(1時間)ガリバーハウス前(1時間10分)鹿ヶ瀬道バス停(バス22分)近江高島駅
△地形図V2万5千II北小松(問い合わせ先)

高島支所、産業振興課	☎0740 (36)	20112
江若交通バス	☎0740 (32)	1371
近江タクシー	☎0740 (22)	0106
高島観光協会	☎0740 (36)	8135
近江高島駅構内観光案内所	☎0740 (36)	1314



畑集落・ガリバー旅行村付近図

コースガイド

京都東山

年の瀬に歩く

稲荷山と東福寺

一般コース(★★★)

菫木 伸人

年の瀬も押しつまれば人も多くなく、12月25日、京都稲荷山に出かけた。

近鉄京都駅に10時21分着。10時30分発の市バス南5系統に乗り、稲荷大社前で下車。この路線は、毎時ほぼ一本の運行なので乗り継ぎに不安があったが、電車が定時に着いたのでよかった。バス停から大社に向かい、踏切を二度渡る。冬の平日、さすがに人は少ない。稲荷大社参道脇の料理屋では鯖鮓、稲荷鮓、きつねうどん等に混じって、これもご当地名物なのか、雀やうずらの串焼を売っている。土産物は狐の面・

土鈴・ぬいぐるみ、狐煎餅等々、狐のオンパレードである。

さて、稲荷大社本殿に参拝後、11時、いよいよ「お山」巡拝に臨む。千本鳥居、奥社、熊鷹社と進んで三ツ辻(100坪)へ。お休憩でペットボトルのお茶を買う(この先山頂まで何ヶ所も店、自販機があった)。立ち並ぶ朱塗りの鳥居と「お塚」の数に驚きながら歩を進めると、四ツ辻(165坪)。ここでは本コース唯一の展望が広がる。京都市街と西山連峰を眺めつつ、持参したお菓子とお茶で小休止。四ツ辻から北回りですらに30分、ちょうど正午に山頂一ノ峯に登り着いた(ちなみに三角点239・3坪は、さらに東の峰に位置している)。私も妻も商人ではないので、ここでも「家内安全」を祈って拍手を打ったが、果たして良かったのだろうか(稲荷神は元来農業神であり、稲穂をくわえた狐の像が、そのことを物語っている。後に様々な産業神に転じ今に至るといふ)。帰路は南回りで二ノ峯から三ノ峯を経て四ツ辻に戻り、再び京の街を眺め

稲荷山山頂 一ノ峯



た。三ツ辻からの下りは往路を避けて直進の道を選んだ。こちらの参拝路にも「お塚」が並び、白狐大神、茶枳尼天などの字が見られた。やがて灰青色の鷺が群れる八島ヶ池の畔を通り、12時45分、本殿脇に帰った。山中、植栽のホトトギスやシユウメイギクが咲き残るほか花は無かったが、数千の鳥居



と数万といわれる「お塚」には圧倒された。山登りというより「登拝」の言葉がまさかひびきたりだった。

駅に程近い店に入り、鯖鮓とわかめうどん(お揚げ入)のランチを食べた。鮓は一片が今まで見た中で一番大きかった。品書きにあった「鯖の姿鮓(一本)」は、どんな大ききだったのだからか……。

食後は本町通を北上。途中、妻が婦りの車中で食べようと言って、豆大福と焼餅を二個ずつ買った。さらに通りを進んでから山手に向かって坂を上り、東福寺に到着(寄り道しなければ、稲荷大社と東福寺は約20分)。

臨済宗本山は紅葉の名所だが、さすがに今は人影も少ない。国宝の三門を見上げていたら、若いカップルが東大寺の門みたいだと話していた。確かに壮大だ。方丈庭園、通天橋(重文)から、上流の通天橋を眺めた。谷を埋め尽くす冬枯れの木立が、錦に染まっ



(平成19年12月25日歩く)

△コースタイム▽

文中を参照のこと。但し、途中で眼力大神、足腰不動尊等、ちょっとお参りしたくなる所がたくさんあるので、信仰心篤い方は長めにみておいたほうがよい。立看板には一巡の目安が2時間と記されている。

△地形図▽2万5千Ⅱ京都東南部

信仰の道

愛宕参詣道(北倉峠道・出雲峠道)

一般コース(★★★)

柴田 昭彦

愛宕山の頂上に鎮座する愛宕神社は、近世、一般庶民の間では、火事を防ぐ火伏せの神として篤い信仰を集めてきた。「お伊勢七度、熊野へ三度、愛宕さんへは月参り」と謳われたように、崇敬者たちは愛宕講を組織し、当番を決めて代参月参りを行い、火除けのお札と櫓を受けて帰村したのであった。

江戸時代、水上・篠山方面から愛宕に参る者は、神前(亀岡市宮前町)、千原(千代川町)、馬路、北倉(千歳町)と進み、北倉峠から檜原(京都市右京区)を経由した。一方、園部・八木方面からは、小口・出雲(千歳町)、出雲

峠を経由して愛宕に参詣した。北倉峠道と出雲峠道は、それぞれの峠を越えてすぐに合流し、そこには「岳の地藏」が祀られている。また、中村(千歳町)から登って、途中で北倉峠道に合流する道もあった。今回、千代川駅から愛宕参詣道を東へたどり、郷土と学問の町・馬路を経て、北倉峠道で岳の地藏に達し、出雲峠道で出雲大神宮に至る、歴史の道を紹介することしよう。

JR京都駅から園部行ききの列車に乗り、千代川駅で降りる(亀岡駅前から、10時15分、13時15分発の、出雲神社前経由千代川駅行ききの亀岡市ふるさとバスを利用して、出雲大神宮から出発することもできる)。

千代川駅西口から右手に出て、北に向かい、広い道に出て、右へ踏切を渡る。桂川(大堰川・大川)に架かる月読橋の歩道橋は、平成3年の施工で、月の満ち欠けや星座のデザインが見られる。江戸・明治期には、月読橋の辺

りに、大川の舟渡し場が設けられていた。橋を渡り終えると道端に地藏立像があり、舟形光背に「右かめ山」「左河原尻」と道しるべが刻まれている。左折して土手の舗装道を北上する。途中で民家のある右の方へ道が下りている。右側ガード脇に文政八年(1825)の「右あたご道」の道標があり、その下を見ると、石造物の集積場所があり、文安元年(1444)の年紀をもつ、六角柱型の六地藏石幢が見られる(馬路町三ツ辻)。

ここから東に進む。二つ目の辻の右手に三ツ辻児童公園(トイレあり)がある。最近の耕地整理で付け替えられた古川に架かる馬路小橋(平成19年竣工)を越えると、馬路の集落に入る。左に享和二年(1802)の愛宕灯籠を見ると、すぐにミラーのある辻に出る。ここで右折して、南に進み、長林禅寺、導養寺、馬路生涯学習センターに立ち寄る。禅寺の東には弁天祠がある。祠の南

観音立像の台座正面に「延享甲子」(延享元年、1744)の年号、左側に「左あたご右かめやま」の道標を刻む。導養寺脇に大峰参りを果たしたことを

示す「大峰山三十三度供養塔」(昭和12年)がある。導養寺の南、鳥居の横に、明治期に北村龍象が地元青年の教化のために開いた私塾「馬路学校」を偲ぶ記念碑(大正15年)が立つ。祠には自然石が祀られている。前庭には樹高23mのムクノキが枝を広げている(亀岡の名木「平成8年」)。

元の辻まで戻り、東に進む。道が三角になった地点に、幹が傾いて内部が空洞になった樹高9mのケヤキの老木がある。幹周りは4mだが、空洞部分の幹の皮の厚さは15cm余りしかなく、その生命力に驚かされる。木の根元に「右あたご道」の道標が横たわる。そばに小さな祠があり、長宮(詠宮社)と呼ばれている。横に愛宕灯籠がある。南側の民家前には「左あたご道」の道標も見られる。

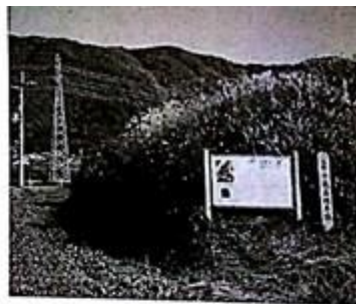
長宮から少し東に進むと、左手に天保十一年(1840)の愛宕灯籠がある。次の辻で右折して、かつて市が開かれた市場通りを南下すれば、広い道路に出る。右に出れば、北側の馬路バ

ス停の前が人見祖霊社(綱ノ宮)、左に出ると、南側に中川祖霊社である。中川祖霊社の横には西園寺公兼額の明治維新人見中川両姓唱義碑がある。山陰道鎮撫総督に任じられた西園寺公望の旗下に集まった中川謙二郎を代表者とする地元両姓の志士(江戸中期より人見氏と中川氏は郷土格)を顕彰して大正11年に建立された。建立者中川小十郎は謙二郎の甥で、立命館の初代総長であった。顕彰碑が並び、薬師堂旧址の記念碑、愛宕山神灯の石灯籠(寛政九年、1797)もある。

中川祖霊社の東の辻に、「左あたご道」の道標がある。ここで北上して突き当たりを右折、小川を渡って左折して北上する。左手に祠が並ぶ畑祖霊社(杜さん)がある。正面に征夷大将軍、左に春日大社を祀っている。

砂利道を北上して、元の愛宕道に出て右折する。府道を横切ると千歳車塚古墳が現れる。墳丘には樹木も無く一面芝草におおわれ、築造当初の姿を見ることが出来る貴重な前方後円墳であ





山影り、国の史跡に指定され、御影山と古墳の遺構は全長約82m、高さ約7・5mで、丹波最大で、近畿千歳車塚古墳の規模を誇る。出土した円筒埴輪から、六世紀前半の築造と考えられている(『新修亀岡市史資料編第一巻』)。

でも屈指の規模を誇る。出土した円筒埴輪から、六世紀前半の築造と考えられている(『新修亀岡市史資料編第一巻』)。

埴輪の周囲には、一段低い耕地が巡り、盾形周濠の痕跡をとどめている。被葬者は丹波の首長で、埴輪の産地から、継体天皇と親しい関係にあったと思われる。

付近からは、出雲大神宮の背後に御神体山である御影山(出雲山、城山)が三角の秀麗な姿を見せ、五、六世紀頃からと推定される古い信仰を思わせる。右に用水ポンプ小屋がある。左に舗装道が分かれる地点に、寛政二年(1790)の「右あたこ道」「左丹波

一の宮」の道標があり、「立石」と呼ばれている。左の神社参詣道をとれば、大神宮の下ノ社である黒太夫社を経て、出雲峠道に続く。

立石から直進の愛宕道をたどる。大神宮駐車場の横で右の旧道に入る。千歳街道に出ると、そこは出雲神社前バス停で、西側に北谷倉庫、東側に北谷区生涯学習センターがある。

「ふるさと千歳」(昭和62年)には「北谷」「北谷峠」「北谷はもと中村の内である」とある一方で、「千歳村元中区を廃し、新に中・北谷の両区を設置する件議決」(昭和十年三月七日)の記載が見える。「丹波史談」130号(平成元年8月)所収の山本寛三郎氏の論文に「北谷峠」とある。明治以来の地形図には一貫して「北谷」「北谷峠」とある一方で、地元では「北谷」「北谷峠」も用いられていることがわかる。亀岡市の郷土史家、永光尚氏によれば、「北谷が正しい。北谷と書いても通用」とのことであった。北谷は、元は中村に含まれ、その北の倉屋を意

味するが、書く場合には北谷も用いられたのである。

バス停から耕雲寺を示す案内板に従い、センターの横から車道をたどる。まっすぐに地道に入って登るのが北谷峠道であり、愛宕参詣道であった。この道は、70歳の伊能忠敬が馬路で止宿したあと、文化十一年(1814)2月24日の測量の際に通過した道でもあった。

センターの横を上がると、すぐ左手に、延享四年(1747)の愛宕灯籠と「右あたこ道」の道標がある。道なりに北谷谷の左側の道をたどる。右に諏訪池が現れ、道は左手をジグザグに上る。砂防堰堤を右に見て、左側の道を進むと、右の谷に諏訪大明神の祠がある。石柱に天明六年(1786)の年号を刻む。祠の右手にも尾根に向かう山道があるが、左手に引き返して北谷峠道を登って行こう。

足下には石が散乱していて歩きにくい。落ち葉の積もった古道は心地が良い。何度も曲折を繰り返しながら無

理なく高度を上げて行く道には、参詣道の風格が感じられる。

やがて、切り通しになった峠らしい場所に出る。先はゆるやかな下りになっている。内田嘉弘「京都丹波の山(上)」は、金久昌業「北山の峠(上)」に従って、ここが北谷峠であることを否定しているが、明治42年測図の2万5千分1地形図「亀岡」には、この標高391・3mの地点に北谷峠と明記され、以後の地形図も同様で、「新修亀岡市史資料編第五巻」でも、北谷峠の位置は同じである。

北谷峠からくたてて行くと、倒木もあって歩きにくい。が、ほどなく、小広い平地に出る。

ここは、出雲峠道との合流場所であ

り、石籠(石室)の中に「岳の地蔵」と呼ばれる地蔵立像が安置されている。石籠の柱には「右ハそのべ」「左ハたかそとわ」と刻まれている。

愛宕参りからの帰りの際、右の出雲峠道を行けば園部へ、左の北谷峠道を行けば高卒塔婆を経て篠山に出ることを示す道標で、地蔵は疫病・悪霊の侵入を防ぎ、旅人の安全を守る道祖神(塞の神)の性格も持っていた。

千代川駅の北北西、山陰街道と愛宕道が交わる地点の西側(千代川町千原)に建てた北条時頼(十三世紀)ゆかりの高卒塔婆は、高さ13m(当初21m)。下端幅2m、上で次第に細くなる)もあり、村の象徴として、朽ちることに更新されてきた。千原村は、たかそとば村とも呼ばれた。明治6年に小松寺境内に移され、低くとも代を重ねて維持されている。

戦前まで、岳の地蔵の辺りで、千日詣りや村々の講詣りの日には露店が三・四軒出て、参詣人で賑わったというが、昔語りとなった。

道しるべに従い、出雲峠道をたどろう。出雲峠は深い切り通し地点である。すぐに、ジグザグの下り道になる。麓の分岐で左をとり、小峠川を横切ってそのまま進む。次の分岐で、左手の「山の神」の前の平らな道を行くと、出雲大神宮の境内、上ノ社の南側に出る。

本殿(中ノ社)手前の樹高15mの御神木・招雲樹と舟岩、春日社の北50mの横穴式石室、本殿背後の磐座(手引岩、神を導く岩)、井戸脇の御神石・夫婦岩を見て、バス停に向かう。(平成19年11月24日・12月1日歩く)

▲コースタイム▼
JR千代川駅(50分) 導養寺(40分)
千歳車塚古墳(20分) 出雲神社前バス停(北谷峠道、1時間) 岳の地蔵(出雲峠道、50分) 出雲大神宮(5分) 出雲神社前バス停

△地形図▼2万5千1:1亀岡



岳の地蔵

ここは、出雲峠道との合流場所であ

り、石籠(石室)の中に「岳の地蔵」と呼ばれる地蔵立像が安置されている。石籠の柱には「右ハそのべ」「左ハたかそとわ」と刻まれている。

愛宕参りからの帰りの際、右の出雲峠道を行けば園部へ、左の北谷峠道を行けば高卒塔婆を経て篠山に出ることを示す道標で、地蔵は疫病・悪霊の侵入を防ぎ、旅人の安全を守る道祖神(塞の神)の性格も持っていた。

千代川駅の北北西、山陰街道と愛宕道が交わる地点の西側(千代川町千原)に建てた北条時頼(十三世紀)ゆかりの高卒塔婆は、高さ13m(当初21m)。下端幅2m、上で次第に細くなる)もあり、村の象徴として、朽ちることに更新されてきた。千原村は、たかそとば村とも呼ばれた。明治6年に小松寺境内に移され、低くとも代を重ねて維持されている。

戦前まで、岳の地蔵の辺りで、千日詣りや村々の講詣りの日には露店が三・四軒出て、参詣人で賑わったというが、昔語りとなった。

▲コースタイム▼
JR千代川駅(50分) 導養寺(40分)
千歳車塚古墳(20分) 出雲神社前バス停(北谷峠道、1時間) 岳の地蔵(出雲峠道、50分) 出雲大神宮(5分) 出雲神社前バス停

△地形図▼2万5千1:1亀岡

コースガイド図

若狭

若狭町上中、天徳寺の後方

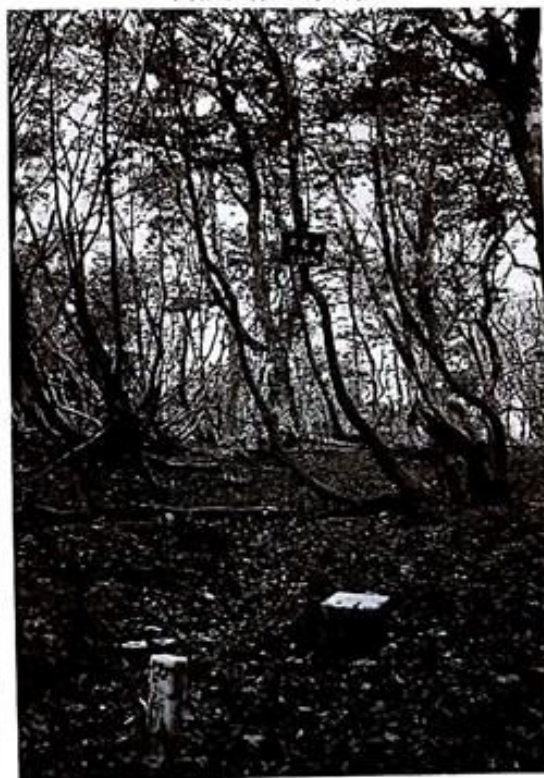
千石山

中級コース(★★★)

磯部 純

国道27号線を倉見峠から南下して来ると、国道303号線に交わる手前から、正面にどっしりと座った山が見えてくる。この山が千石山である。千石山へ登るには、確たる登山道は無く、これまで、天徳寺から奥へのびる林道を利用して、東の道無き斜面を登って尾根にのり、千石山へ至るルートが多く使われていた。一方、地形図を見ると、千石山北尾根をくだった300m程の所から北西へと尾根がのびている。例会では歩けなかったが、後日、高島さんの発案で、有志といっしょにこの尾根から千石山へ登った。天徳山林道

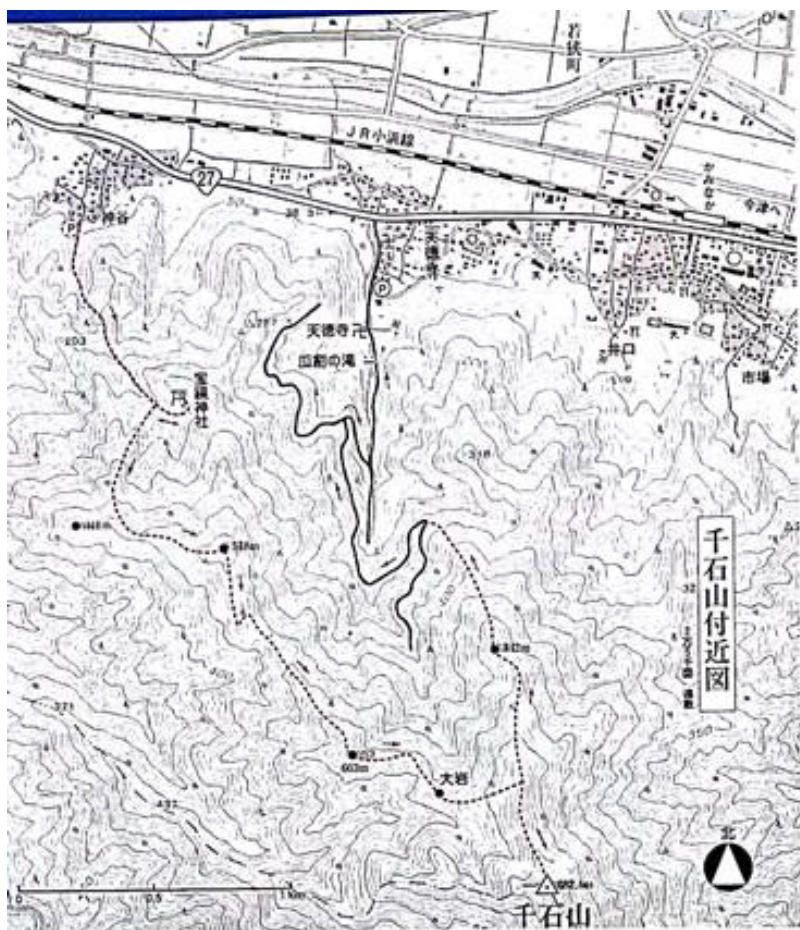
千石山山頂と二等三角点



からのピストン往復に比べて、よりおもしろく千石山へ登れたので、神谷集落から千石山へ尾根を登り、天徳寺へくだる回遊ルートを紹介する。

出発点は天徳寺の駐車場。京阪神から行く場合、車で行くのが便利だが、JR近江今津駅から上中町へバスが出ているので、それを利用してよい。

天徳寺を基点に、いったん北の国道へ出て、西の神谷集落へ向かい、集落南の谷入口へ移動する。歩けば30分程の距離、車なら10分もかからないだろう。そこには「寶鏡神社」と書かれた額が掲げられた鳥居が立ち、車三台程置ける広場がある。ここが千石山への登山口となる。



宝鏡神社の参道である谷脇の道を登る。谷入口には「権現の滝」の標識が

あるが、滝らしいものは見当たらず、50mも登ると谷が段差になっている箇

所があったので、おそらくそれが権現の滝なのだろう。その上の岩盤を伝って流れるような谷川に沿って登って行くと、やがて、道は谷を離れてジグザグに左手の斜面を登るようになり、その上が日本庭園を思わす小広場。地面には苔が敷きつめられ、広場の傍らには二本の松と一本の杉の木が立っている。そばの岩の上には、前だれを巻いた六体の地藏尊に見立てた石が座っていて、神社の参道に相応しい場所だといえる。

そこから尾根を登って行くと、右手に古い道跡のある尾根がある。千石山へはこの道跡を登るのだが、時間がからないので、宝鏡神社へお詣りして行こう。尾根先端から左手へくだると平坦な谷に下り、前方に谷分岐を見て、左手の斜面をジグザグに登ると、ケヤキの大木や名の知れぬ巨木が目につきます。何か重々しい気分になる場所です。坂道の先に鳥居があり、その奥に社が建っている。ここが宝鏡神社の本殿である。宝鏡神社の祭神は不詳とのこと



千石山北尾根にて

だが、祭壇には鏡が祀られ、地元では権現さんと崇め、牛馬の守り神として、今でも神事を行っている。先程の古い道跡があった尾根まで引き返し、尾根にある深く刻み込まれた道跡を登って行く。今は使用されていないのか、枯れ葉や朽ち果てた小木が、所狭しと落ちていて、雑木林の急勾配

の尾根を道なりにジグザグに登って行く。やがて標高441mの東150m程の尾根にのる。南方の展望が開け、目の前に平坦な山容の駒ヶ岳から小栗へ続く尾根が横たわり、駒ヶ岳の右に百里ヶ岳の頭が見えてくる。

道跡はここまで、尾根にのると道跡は消えてしまう。左杉林、右手雑木の境界尾根を東へ登って行く。15分もゆるく登ると尾根は左に捲き、標高518mのピークに着く。ここから方向を南へ変えて、比較的ゆるい尾根をくだって行く。300mもくだると尾根が切れるので、その手前の尾根にのり換えなければならぬ。ちょうどこの谷伏の場所は、二重山稜の様相をしており、ヌタ場もあって情緒ある疎林が広がっている。北の尾根にのると、待っていたように道跡が現れる。

左側は下やぶが刈られた植林斜面の尾根で、道はこのためのものなのだ。次第に勾配がキツクなり、檜の植林尾根を登りつめると、標高603mのピーク。山頂は狭く林に囲まれて

いるが、東南方向だけが開けていて、間近に千石山を見る。

このピークから尾根を東へくだる。左はやぶの多い雑木の林だが、右手は檜の若い植林斜面。尾根のすぐ下の檜林の境界に仕事道が走っていて、その道をたどって尾根をくだるに従い、林の間から次のピーク上に鎮座する大岩が次第に大きくなっていく。尾根の先端から方向を南へ変えて鞍部までくだると、目の前は駆け落ちそうな急斜面。この上に大岩が座っているが、この岩を捲く道は無く、この斜面を登るしかない。

急斜面を登り切ると大岩の上に出る。岩の上は平坦で、10人も坐れば一杯になりそう。そばには枯れた松の木が立っている。北西には、標高603mのピークが見え、東方のすぐ目の前には千石山がそびえている。少人数の山行であれば、この岩の上での昼食がよいだろう。

大岩の東の割れ目から尾根へ下りる。傾斜が急なので、滑らないように気を

つけないければならない。尾根へ下り、やぶ尾根を東へ歩くとすぐ、鞍部に下りる。鞍部から登りにかかると、檜の林のなかに道跡が現れ、あまりやぶに煩わされることなく、20分程の登りで主尾根へ登り着く。着いた地点は、千石山から雑木の尾根を北へ下り、斜面が急になる手前の、西に檜の林がある地点である。ここから南にのびる平坦な尾根には、永禄年間(1558~70)信長の時代、上中膳部山の城主であった松宮玄蕃頭光政の弟松宮右近守の城があったといわれているが、その痕跡はどこにも残っていない。尾根を南へ、ブナの若木の生えているちよっとした鞍部から、ゆるやかに登ると千石山山頂。平坦な山頂の疎林のなかに二等三角点、点名「日笠山」が立っている。山頂は雑木の疎林で、南へわずかくだった鞍部は、休息するにはもってこいの場所だといえる。

下山路は、山頂から北へのびる尾根をくだる。先程の主尾根へ登り着いた地点まで戻り、左の杉林に沿って北へ

くだって行くと杉林が切れ、鞍部へ下りる。この北30m程のピークが標高542mである。高鳥氏の例会では、この鞍部から左の杉の急斜面をくだって林道の終点へ下りたが、そのまま標高542mを踏んで、北へのびる尾根をくだる。ピーク付近は木片や枝が散乱しているが、少しくだと道跡が現れる。その道跡は標高316mの小ピークへ向かう尾根ではなく、一つ西の尾根で、地形図で見ると急勾配のしっかりした尾根である。

尾根は所どころ帯状に伐採されているが、道跡もあり、点々と赤テープが下がっている。道跡と赤テープに導かれて、比較的平坦な広場までくだると、テープは無くなって道跡も消える。尾根の西側を探すと、左下の小尾根へ向かう道跡らしきものがあるので、それをくだるとシダが一面に繁っている斜面に出る。その斜面の東の林に沿ってくだって行くと、下の林道へ斜めに下りる道がある。他の場所では、林道の山側は崖なので下りられず、この地点

を間違えないこと。

林道を30分程で天徳寺境内へと着く。天徳寺の駐車場へは5分程の距離。時間に余裕のある人は、百名水に数えられている瓜割の滝、村上天皇の勅願寺で高野山真言宗の寺である天徳寺。弘法大師が四国八十八ヶ所を模して、佐渡の石工に刻ませた石仏を見て欲しいと思う。(平成19年10月16日歩く)

▲コースタイム▼

天徳寺駐車場(車10分) 神谷鳥居(40分) 宝鏡神社(45分) 標高441m 東の尾根(15分) 標高518m(40分) 標高603m(25分) 大岩(30分) 北尾根(15分) 千石山(25分) 標高542m(40分) 林道へアピン箇所(30分) 天徳寺駐車場
▲地形図▼2万5千=速敷

せせらび

山に関する最新の情報をお寄せください。
1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、
自分の会員番号・氏名をお書きください。都合よ
り掲載できないことがあります。

題字 小林玻璃三

本誌100号を記念して、祝
意を七言絶句に詠んだ。

百回茲祝九如章
喜如欣欣運昌
山氣蓬蓬五色
益祈清福且軒昂
(註)百回、茲に祝う、九如
の章。喜如、欣々と、誌運昌
ならん。山氣蓬蓬と、雲五色。
なんぞ清福且つ軒昂なることを
祈らざらん。

(注)〇九如……祝頌の詞。
『詩経』の小雅、天保篇の詩に
「山の如く、阜の如く、岡の如

かさぎの鳴き声を欣々と喜ん
で聞くのは、本誌の気運が昌ん
なることの前兆だからである。
一方、山に入ると、蓬々と気が
立ち昇り、五色の雲に変現する
のも喜ばしいことだ。後は編集
長の御幸福と且つ意気軒昂なる
ことを、どうして祈らないであ
ろうか。(京都市 小山誠次)

近江八幡市牧町に水釜岡山
城跡(尾山187・8層三等三
角点)がある。昭和21年にこの
内湖が干拓工事により陸になっ
たが、昔は琵琶湖に浮かぶ浮城
であった。

土着の豪族九里氏の城、第十
一代將軍足利義澄が前の將軍義
植に解官された折、築城して間
もない永正五年に義澄を迎えて
これを守護した。同八年には義
晴が生まれたが同年8月義澄が
急逝する。その後同十一年から
十七年に佐々木六角定頼の奇襲
を受けて落城した。

本城跡は頭山(147・8
層)と呼ばれ、琵琶湖に突き出
た頂上部に本丸跡がある。尾山・

頭山共石積を全く使用しない典
型的な中世の形を整えて、空堀
や土塁が数段に渡ってめぐらさ
れている。南側の山麓には数十
基の古墳が存在するといわれて
いる。

湖岸道路の横から階段を登る
と貯水場があり、大パノラマが
展開する。その横から斜めに登
ると山頂部の尾根で、竹林の返
かを進むと切畑がある。登り返
して先端まで行くとうっそうと
茂る樹林のなかに尾山三角点
がある。右下に平地があり、その
中央部から頭山へと尾根が続く。
これをくぐって平坦な尾根の
先端から左斜めに下りると台地
があり、右端に古墳がある。こ
の斜面にはシェランが見られ、
右の竹林を行くと道路の上で石
組の遺構がある。道路の向い側
に岡山城跡の碑が建っている。
その横から竹林を登ると林道に
出る。

林道を登り、終点から右に下
りると昭和天皇の御即位記念の
大石碑が建っている。右の一段
高くなった頭山は約220平方

計の平坦地で、居館跡だがやが
に覆われ遺構は確認できない。
引き返えて琵琶湖岸に下り
ると、先端が「万葉集」に出で
くる藤崎神社である。そして崖
下には妙得電神の洞窟がある。

浮城と古代のロマンを想いな
がらゆっくり散策してください。
(近江八幡市 若野 明)

休日を利用して山仲間と北海
道・東北以外の山々を夢中で登っ
た7年間であった。しかし、去
年の6月に妻が歩行困難になり、
要介護3の介護と主夫業に専念
の毎日、山歩きも行けなくなっ
た。

以前はガイドブックも自分の
目的の山だけのコーナーを読ん
でいたが、今はガイドブック・
登山地図も細かな記事もよくわ
かり新しい発見をしたようで、
自身の感情も豊かになったと思
う。

前向きの体験も大切だが、立
ち止まって振り返るのも山歩き
の基本だとわかった。こんな楽

しみ方があるのかと、反省しつ
つ今後の山行に役立てたいと思っ
ている。

訪問リハビリに二人三脚で頑
張っている。
(大和高田市 森 訓洋)

1月中旬、陽だまり山行にて
南勢の道方山(若山)に登る。
県22号線・能見坂トンネル南口
から道標・コース共に整備され
ていて1時間30分で頂上に着く。
日陰に雪が残り、雪湿じりの
強い寒風を、ウパメガシ・椿・
アセビなどの常緑低木が防風林
となりさえぎってくれる。50
8層峰と山頂には無線塔が立ち、
周囲が伐採されて熊野灘、度会
アルプス等の展望が広い。

ただ残念なことは北面の林
道が延長中、ほぼ登山道に平
行して山頂近くまで達していた。
海岸に出て観音閣地展望台か
ら眺めると、高山の左に道方山、
710層峰、橋谷山(釈迦ヶ岳)、
探石場で山頂の形が変わった
見山(?)へと、屏風のように
峰々が連なっていた。

昨年6月、JR東海が主催す
るハイキングに参加した。太多
線可見駅集合。駅前にて受付を
済ませ、東の方角に、三々五々
歩き始める。第一目標の「歴史
と文化の森」は、緑深い樹叢の
なか、神社あり古墳ありの環境。
整備されて可見市ご自慢の森と
なっている。

(名古屋市 酒井勝彦)

その先の頂に、三等三角点の石
標を見つける。標高175・2
計、点名は羽崎。展望はほぼ良
好。近くに観光協会の「明智城
址記」が建つ。この地は、明智
氏居城(中世の典型的山塞)の
遺跡だとある。大手口道を瀬田
にくだる。のどかに広がる田園
風景。今しも、田植を終えて後
片付けする農家のご夫婦に、少
し話しかけてみる。米作りから
郷土史まで。美濃にはもう一つ
明智城がある、恵那市の明智に。
ついつい話が弾む。引き続き、
光蓮寺、東栄寺、太元神社、天
龍寺の順に参拝。セッコクの香

りほのか、しばし酔う間も、次々
と後続の参加者が追い越して行
き……。

やっと、本日のハイライ
ト「花フェスタ記念公園」に到着。
東洋一という園内はとて広い。
バラまつりを開催中。約6万株、
世界のバラが咲き誇る。実に華
麗。初めての可見市だったが、
自然も豊か人情も厚い。印象好
く満足顔で帰途につく。

数日後、本誌95号が到着。85
ページに、カタクリの群生地可
見市にあり、と。今年も花の季
節には、ぜひぜひ再訪したいも
のだ。(伊賀市 高田栄久)

正月、古い録音だが「新春紀
行スペシャル富士百景」(毎日
放送)を観た。富士山を中心と
して、開閉岳(蘆原富士)から
利尻山(利尻富士)まで、日本
列島の「富士」と呼ばれる10山
の新春風景が紹介されている。
登頂済みの6山は懐かしく、未
踏の4山は強い関心をもって観
た。

に登っている。当時のことだから新幹線などなく、大阪を夜行列車で発ち、富士宮市へ到着して浅間神社に参詣した後、バスで行った二合目から登山を開始した。睡眠不足のうえに四合目から雨降りが重なって大変だった。六合目で大休止するも、七合目から一歩一歩の進み、八合目では寒気も厳しく呼吸に困難も感じられ、九合目では一歩の進みに2、3分の休み。杖に頼り脚に鞭打ち、ようやく頂上へ到着した。

翌日は4時に起床し、雲海のかなたに御来光を拝した後、お鉢めぐりを始めている。壮大な影富士を眺め、最高峰の剣ヶ峯にも立ち、頂上浅間神社へ再拝した。部分的ながら中道めぐりも実現して吉田口へくだったのである。

さらに4年後の新婚旅行では箱根を訪ね、大観山富士見峠や箱根湖畔、そして駒ヶ岳頂上にも立って早春の富士山を展望している。仕事の関係でも、富士・吉原方面へはよく出かけたので、

春夏秋冬の富士山を眺めて楽しむことができた。私が「ふるさと富士」に魅かれるのは当然の帰結だろう。

「ふるさと富士」に関し、これまでに登ったのは、山と溪谷社の「ふるさと富士百名山」は半分にも満たないが、「ふるさと富士登山ガイド(関西周辺)」では、51山中、40山を占めている。

全国に「ふるさと富士」は140山以上存在すると言われており、昨年はその中の7山に登ったのだが、ロープウェイで上った榛名山(榛名富士1399m)は別として最高峰は由良ヶ岳(丹後富士640m)であり、高齢の身には厳しい登山だった。今年登る山で「ふるさと富士」は幾山を占めることだろう。

私は毎年海外旅行に出かけるのだが、行く先で富士型の山を見つければ嬉しくなり、一生懸命に眺めたりしている。

例えばトルコ旅行では、有名なカッパドキア観光後にコンヤへ向かう途中、バスの車内から

ずっと眺めたハサン山(3217m)では、バスが平野部を走るようになった時、完全に富士山型になった瞬間を確信してシャッターを押した。私には国内外を問わず、こうして「富士」の山に登ったり眺めたりして楽しんでいる。

07年12月2日、忘年山行で寒山に行った。里の紅葉がきれいだった。獅子打ちも入っていたが、成果は無かったようだ。運転する4人は、飲んだので会場で泊まった。

9日、岐阜市の一等三角点如来ヶ岳・眉山・百々ヶ峰の3山を回って来た。いずれも「統岐阜百名山」の山だ。

16日、岩野さん例会の忘年会に参加。私は初めての西山のみへ行って来た。

23日、近江の里山へ行き(雪野山と鏡山)、昔の標石、原三角点を正月に来られない4人と見てきた。

26日、五倍にある昔の標石と、

対になる標石があると聞き、見に行った。五倍峠の北側に、南側とは同じ標石を確認した。「明治九年四月 測点地理寮」の文字あり。

08年正月、天理へ初参りの後、再度近江の鏡山・雪野山で原三角点を見てきた。12月23日とはコースを変えて登った。

1月4日、金華山で三つ目の宮三角点を見つけ、山頂の二等三角点にも初めて触って来た。もう一つ鏡岩付近にも宮三角点はあると思われる。

5日、伊勢神宮と鼓ヶ岳の村田さんの例会に行った。

6日、南宮山を縦走、南宮神社へも参拝した。

13日の午後、金華山東の鷹巣山に岩戸公園から登って東に下り、また登り返して戻る。御料局の境界杭の№が1から295だと確認できた。

14日、養老の飯森山から桜番所、三角点の飯森、三角点の鎌知土から鉄塔巡視路を戻った。20日、愛知・静岡県境の富樫山と東隣の浅間山に行った。こ

れで愛知の一等も終了した。帰りに豊川稲荷に参ったが、10人中7人が初めてだった。

27日、岐阜県の一等屏風山と愛知の一等尾張本宮山を歩いた。屏風山は二度目だがコースを変えて歩き、恵那山・中央アルプスが見え、御嶽山もよく見えた。(海津市 山田明男)

山行短歌

- 12月5日 高尾陣馬山
白無垢の富士の娘を恋すれば
天翔ける白馬のモニュメント
- 12月5日 高尾景信山
樹海に似る高尾都市に君は住み
陽に飢えて化石となり眠る
- 12月5日 高尾高尾山
日が照れば高尾軍吹かぬ季節に
万葉の花が降りそそぐよう
- 12月20日 北摂五月山
元気でいたいね長生きしたいね
希望を言い合い今年が暮れる
- 12月26日 備前大狗山
旗振り岩に海潮の音とどろき
めぐりくる春に僕は立ち直る
- 1月8日 備前幸山・福山
幸福とは山行き行きて我が胸に

風の凱歌の吹きわたるとき
1月10日 近江比叡山
内孫のさすかりし君を言過ぎて

大比叡の空晴れ渡るかな
1月14日 備前神ノ上山
ジャングルム越え驚の果岩へ

冬の和気アルプスを突っ走れ
1月18日 備中鬼ノ城山
わが胸の内なる鬼を退治しに

モモタロウ出で来よ今すぐに
1月27日 大和外鎌山
鏡王女墓たずねれば野の風は

ゆくえしれずの彼の日へ運ぶ
(吹田市 木村太郎)

●スイスの山旅へ同行者を探しています。

二十代にスイスのオートルートに行き、ベルトールの小屋からのマッターホルンの眺めが忘れられず、もう一度行ってみたいとずっと思っていました。昨年からはプランを立て、今夏行く予定が、同行者が、家族の病気で行けなくなり、ごいっしょしてくださる方を探しています。プランは「マッターホルンを巡る山旅」(7月16日〜27日・

12日間)で、マッターホルンを西・北・南・東から眺めます。

現地1日目、アローラ村からベルトールのコルに登り、マッターホルンの西側を。2日目、

水河を歩いてテートブランシュに登り、北壁を。3日目、ツェルマットに下りる道から代表的なスタイルを眺め。4日目、4000m以上ライトホルンから東壁を。イタリア側のチェルビニア

アにくだつて南から眺めます。下山後ジュネーブに戻りますが、帰路にアオスタ(ローマ時代からの古い町)、サンベルナル峠(イタリア・スイスの国境)を巡り、イタリア田舎旅行気分を味わいます。

1日目 関西空港発
2日目 関西空港発
(ホテル泊)

3日目 アローラへ(ホテル泊)
4日目 ベルトール小屋へ(泊)

5日目 テートブランシュ・ジュネーブ
6日目 ツェルマットへ(ホテル泊)

7日目 クラインマッターホルン

ン・ライトホルン・テスタググジャ・チェルビニア(ホテル泊)
8日目 アオスタ・サンベルナル峠・マルティニ(バスで)・ジュネーブへ(ホテル泊)

9・10日目 予備日
11日目 ジュネーブ発
12日目 関空着

3名参加の場合で概算56000円。4名参加となれば、少し安くなるかと思えます。現地では、友人の知り合いのシャモニーガイドを頼んでいます。体力的には北アルプスの一般的なコースを通常の時間で歩ければ問題ないようです。アイゼンでの水河歩きがありますが、難しいレベルではないようです。

関心を持たれた方はどうぞご連絡ください。もう少し詳しく説明したいと思えます。

〒583-0885
羽曳野市南黒我ノ荘7の4の11

若永 滋子

山行例会の計画・報告

- ① ここでは、5・6月度の計画概要、1・2月に実施した例会報告・コースタイム・参加者のお名前を掲載しています。
- ② 山行計画に参加ご希望の方は、必ず往復はがきに記入し、申込み宛へ例会当日の一週間前までにご投函ください。
- ③ 山行例会に参加の際は、費用欄の交通・宿泊代等の実費のほか、本部の「山行運営費」400円「傷害保険・救援対策費」100円の合計500円を、集合時に係へお支払いください。
- ④ 配布した「ハイキング手帳」をお持ちの方は、必ず携行して参加ください。
- ⑤ 貸切バス使用や宿泊を伴う例会に申し込まれた方には、直前の場合、キャンセル料をいただくことがあります。
- ⑥ 各例会への申し込み状況、定員制での空き人数は、ホームページで随時確認できますので、検索してみてください。

〈新ハイキング関西ホームページ〉

URL:<http://www5f.biglobe.ne.jp/~hanatabi/shinhai>

(「新ハイキング関西」「ハイキング関西」でも検索できます)

●新ハイキングのホームページ <http://shinhai.net> にもリンクしています。

当クラブの山行例会は、旅行社が企画するツアーの登山ではありません。係(◎リーダー、○サブリーダー)は、皆手弁当で、かかる費用も同じ負担を支払って催行しています。けっしてツアー専門のプロガイドではありませんので、その旨ご承知ください。

また、弁当や装備品なども各自でご用意のうえご参加ください。

SHCサービスチェーン

<p>三浦山(雄略山) 登山人口・野尻登山人口・三浦山への近道・中津山登山人口・中央路上野尻から三浦山へ入山する。入山時、野尻から三浦山へ入山する。入山時、野尻から三浦山へ入山する。入山時、野尻から三浦山へ入山する。</p> <p>電話 三浦山とてつと庄 〒409-0114 山梨県上野原市西原5067 0555418812248</p>	<p>「山梨県代山」 雄ヶ岳登山口 「山梨県代山」 雄ヶ岳登山口 「山梨県代山」 雄ヶ岳登山口 「山梨県代山」 雄ヶ岳登山口 「山梨県代山」 雄ヶ岳登山口</p> <p>電話 四尾運水 水明荘 〒409-0300 山梨県西八代郡市三浦町山家333-8 TEL:0555-418812248 http://www17.data.d/sunseashower/</p>	<p>現地電話 090-2222-12303 連絡先 〒199-0204 神奈川県藤野町小淵1542 雄ヶ岳山荘委員会 代表 杉本嘉昭 電話 04260187140011</p> <p>雄ヶ岳山荘 1泊2食付 6000円</p>	<p>静岡県西原郡・安原川上流 「雄ヶ岳」(大淵) (雄ヶ岳) (大淵) (雄ヶ岳) (大淵)</p> <p>梅ヶ島温泉 おもいで宿 湯の島館 〒421-2201 静岡県西原郡梅ヶ島町安原1-1 TEL:0555-418812248 http://www3.tokai.or.jp/yunoshima/</p>
<p>大月駅からバス上真木下車 徒歩25分 山の上で湯の一軒宿 くつろぎ味の宿 国民旅館 「JUNON」の宿 新ハイキング宿泊料割引</p> <p>電話 401-0006 山梨県大月市飯岡町67 055412215411</p>	<p>趣味の名山風呂 富士急都市駅からバス 道志温泉 日野出屋旅館</p> <p>電話 40210209 山梨県南都留郡道志村7176 055415212641</p>	<p>休憩飲食入浴も歓迎 10名以上マイクロバスで送迎 箱根仙石原温泉 福島館</p> <p>電話 25010631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139 046018419041</p>	<p>国民旅館 大山館 〒409-0301 山梨県西八代郡大月市22 0555-512531 F 0555-512531</p>
<p>自然に抱かれた山間の湯 雁ヶ峰登山口 金山温泉 山口館</p> <p>雁ヶ峰山頂から眺める富士山は 500円札の裏絵で有名です</p> <p>電話 401-0006 山梨県大月市飯岡町山1422 055412213398</p>	<p>八ヶ岳から南アルプスへ渡る風の 通り路 登山ハイキング、散策に ハケ岳南麓・小淵沢高原</p> <p>電話 40810044 山梨県南都留郡小淵沢町10122 TEL:0551-3612000 0551-3612000</p>	<p>富士山の見える伊豆の宿。天倉山・洞 湯アルプス等の情報を提供します。 箱根からバス15分。中伊豆温泉病院 下車。すべし。1泊2食付5000円</p> <p>電話 41012502 静岡県伊豆市上白岩1043 TEL:055818314512</p>	<p>日光・足尾の登山にタクシースタイル をお勧め。早朝6時から送迎します。シャ ボタクシーあり。荷物のお預かり・宅 配便にてお送りいたします。</p> <p>三英自動車株式会社(日光) 日光市石原町422番地 0288-541130 足尾営業所 0288-9313283</p>
<p>塩山駅からバス40分 山登(やまど)旅館 1泊2食付 6500円 宿泊 3000円</p> <p>電話 40410205 山梨県山梨市三富徳和799 055313912155</p>	<p>360度の展望台 塔ノ岳山頂にある 丹次最古の小屋 尊仙山荘 尊仙小屋</p> <p>電話 0901220910013 〒259-1316 山梨県南都留郡市代町新町1-40 自宅 04631881113</p>	<p>獲れたての海の幸をどうぞ 高瀬山・三浦歩道の基地に 海のレジャーも楽しみたい 電話 41013615 静岡県賀茂郡松崎町雪見4300の1 055814510218</p> <p>樽元温泉民宿 太郎</p>	<p>山梨県内・富士五湖周辺など 団体でのハイキングや観光に ぜひ当社バスをご利用ください</p> <p>富士中央交通株式会社 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 222 電話 0555-7212077 FAX 0555-7212079</p>

山行計画
(5・6月)
新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は、会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

- 傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)
- ・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円
 - ・入院保険金 日額 5000円
 - ・通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー・使用の山行。③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行。④宿泊場所内の事故。⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)
期日
住所 〒
氏名
会員番号
(会員でない方は会員外と記入)
血液型
電話番号・FAX番号
生年月日
緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要がある場合があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にいたします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないためです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。お断りが無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)の当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準により各自で判断してください(保から連絡はしません)。雨降り山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようお願いいたします。

5月		行先		定員	リレー	リレー
31(出)	丹波・松尾山	鈴鹿・伊ネヶ嶽子・深谷山・鏡子ヶ嶽	*	岩野	0	0
25(回)	鈴鹿・三國岳	鈴鹿・御在所岳・上水島谷左岸尾根	*	岩野	0	0
24(出)	奈良・サイクリング・大和三山	北摂・黒柄岳・明神ヶ岳	30	塚元	0	0
22(休)	湖西・三國山・赤坂山	但馬・三川山	24	木村		
21(休)	比叡・裳立山	紀泉・横尾山・三國山	26	西上		
18(回)	鈴鹿・リョウシ	奥美濃・貝月山	20	鷺見		
18(回)	参詣道奥駆道・五番関・阿弥陀ヶ森	越前・文殊山・みつまた山	26	森脇		
18(回)	大和・香醇山	紀北・矢野岳	24	村田		
17(出)	木曾・城山	白山西方・大嵐山	*10	山田		
17(出)	湖西・大御影山	京都北山・竜ヶ岳・愛宕山・ツツジ黒根	24	仲谷		
16(休)	湖北・青岸寺・太尾山城郭跡	若狭・庄部谷山	*	高島		
15(休)	台高・入道ヶ塚・ナメラ山	若狭・庄部谷山	26	西上		
14(休)	湖西・大御影山	若狭・庄部谷山	24	西上		
13(休)	比良・打見山・烏谷山・摺鉢山	若狭・庄部谷山	24	西上		
12(休)	大和・香醇山	若狭・庄部谷山	24	西上		
11(回)	参詣道奥駆道・阿弥陀ヶ森	若狭・庄部谷山	24	西上		
10(出)	木曾・城山	若狭・庄部谷山	24	西上		
10(出)	比良・打見山・烏谷山・摺鉢山	若狭・庄部谷山	24	西上		
8(休)	奥美濃・貝月山	若狭・庄部谷山	24	西上		
7(休)	越前・文殊山・みつまた山	若狭・庄部谷山	24	西上		
3(休)	但馬・三川山	若狭・庄部谷山	24	西上		
3(休)	北摂・黒柄岳・明神ヶ岳	若狭・庄部谷山	24	西上		

*リレーコース

6月		行先		定員	リレー	リレー
1(回)	湖東・鏡山	鈴鹿・イブネヶ嶽子・深谷山・鏡子ヶ嶽	*	岩野	0	0
4(休)	湖西・能登野越・三十三間山	湖西・能登野越・三十三間山	24	狩野		
7(出)	奥美濃・岩岳	奥美濃・岩岳	20	鷺見		
7(出)	白山北方・人形山・大笠山	白山北方・人形山・大笠山	*10	山田		
7(出)	湖西・駒ヶ岳・池原山	湖西・駒ヶ岳・池原山	22	森脇		
8(回)	伊賀・サイクリング・尾ヶ岳	伊賀・サイクリング・尾ヶ岳	22	山口		
8(回)	比良・白滝谷・蓬萊山	比良・白滝谷・蓬萊山	24	仲谷		
8(回)	北摂・歌垣山・妙見山	北摂・歌垣山・妙見山	24	仲谷		
10(休)	大峰・観音峰	大峰・観音峰	24	木村		
11(休)	台高・高見峠・大又	台高・高見峠・大又	26	西上		
12(休)	鈴鹿・油日岳・那須ヶ原山・高畑山	鈴鹿・油日岳・那須ヶ原山・高畑山	*	岩野	0	0
15(回)	播但・七種山・七種嶺	播但・七種山・七種嶺	40	村田		
15(回)	紀泉・ボンテン山・城ヶ峰	紀泉・ボンテン山・城ヶ峰	26	西上		
19(休)	南信・霧訪山	南信・霧訪山	20	鷺見		
21(出)	北神戸・丹生山	北神戸・丹生山	20	鷺見		
21(出)	紀泉・一徳坊山	紀泉・一徳坊山	20	鷺見		
22(回)	真面・六徳山	真面・六徳山	20	鷺見		
27(休)	湖北・池原山	湖北・池原山	20	鷺見		
28(出)	鈴鹿・霧ヶ岳・四方草山・三子山	鈴鹿・霧ヶ岳・四方草山・三子山	*	岩野		
29(回)	北摂・三草山・堂床山	北摂・三草山・堂床山	40	村田		

*各計画の概要は92ページ以降に紹介している。

鈴鹿を歩く285
御在所岳・上水島谷左岸尾根
(健脚向き)

5月3日(祝) 日帰り **マイカー**

集合 武平峠西口広場8時30分

コース 広場→交谷→一ぶく峠→沢谷→上水島谷→左岸尾根→御在所岳→武平峠(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 ◎谷野 明 ○山田 三

申込み ○後藤 康幸

〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

愛知川からダイレクトに御在所岳に突き上げる上水島谷左岸尾根にアタックします。本流のトチの大木と尾根のブナ林を堪能する。

雨天中止

5月3日(祝) 日帰り

集合 JR高槻駅北口バスのり

コース 約8時10分
高槻駅(バス) 樺田校前
昇尾峠→明神ヶ岳→万寿寺→中畑(解散)

費用 約2000円(大阪から)

地形図 2万5千→法貴

係 ◎塚元一彦 ○中村 登

申込み 〒53610008

大阪市城東区関目4の14の9の901 塚元一彦まで

新ハイキング関西支部と合同

地形図が正しく読めると山の楽しさは二倍、安全は三倍になります。シルバード型コンパスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

5月7日(祝) 日帰り **貸切バス**

集合 JR新大阪駅一階正面出口7時30分

コース 新大阪駅(バス) 三川権現→シャクナゲコース→三川山 奥の院コース→三川権現(バス) 新大阪駅(解散)

申込み 〒51010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

5月3日(祝) 日帰り

集合 JR高槻駅北口バスのり

コース 約10日 京都駅(バス) 二上登山口→室堂→文殊山→奥の院→二上登山口(バス) 丸間温泉「たけくらべ」(祝)

費用 約22000円(バス・宿泊代等)

地形図 2万5千→鯖江・熊谷

係 ◎森田 直哉

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

5月10日(出) 1泊2日

集合 (10日) JR京都駅八条口団体バスのり7時20分

コース (10日) 京都駅(バス) 二上登山口→室堂→文殊山→奥の院→二上登山口(バス) 丸間温泉「たけくらべ」(祝)

費用 約22000円(バス・宿泊代等)

地形図 2万5千→鯖江・熊谷

係 ◎森田 直哉

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

5月11日(祝) 日帰り **貸切バス**

集合 近鉄上本町駅8時10分

コース 上本町駅(バス) 双子橋登山口→雙の川遊歩道→村道終点→尾根→矢香岳→田尻城跡(往路)→双子橋(バス) 中津温泉(入浴・バス) 大阪駅(解散18時30分)

費用 約35000円(バス・入浴代等)

地形図 2万5千→川原河

係 ◎村田 智俊 ○安斎 止勝

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

5月11日(祝) 日帰り

集合 JR関ヶ原駅7時15分

コース 関ヶ原駅(車) 百合谷駐車場→大嵐山(往路)→百合谷(車) 関ヶ原駅(解散)

費用 約35000円(車代・交通費)

地形図 2万5千→白峰

係 ◎山田 明男

申込み 〒50310535

海津市南瀬町松山624の19

山田明男まで

5月より白山山系の山へ、ミズパショウの群生地を訪ねます。

雨天中止

5月13日(祝) 日帰り

集合 清滝バス停9時00分

コース 清滝→首無地蔵→竜ヶ岳→愛宕山→ツツジ尾根(一般向き)

費用 約4000円(バス代)

地形図 2万5千→神鍋山・香住

係 ◎木村 太郎

申込み 〒56510854

吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで

大峰山や三徳山と並ぶ日本三大権現の三川権現から、ブナ原生林が残りシャクナゲが開く、但馬最北部の山へ登る。雨天中止

5月8日(祝) 日帰り **貸切バス**

集合 近鉄富田駅北出口9時00分

コース 富田駅(バス) 桜の辻→熊鷹寺→十五丁石地蔵→千本杉峠→三國山→七越峠→鍋谷峠(バス) 富田駅(解散15時)

費用 約27000円(バス代)

地形図 2万5千→岩湧山・内畑

係 ◎西上 利和 ○前川 和佳子

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

5月8日(祝) 日帰り

集合 近鉄富田駅北出口9時00分

コース 富田駅(バス) 桜の辻→熊鷹寺→十五丁石地蔵→千本杉峠→三國山→七越峠→鍋谷峠(バス) 富田駅(解散15時)

費用 約27000円(バス代)

地形図 2万5千→岩湧山・内畑

係 ◎西上 利和 ○前川 和佳子

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

5月13日(祝) 日帰り

集合 清滝バス停9時00分

コース 清滝→首無地蔵→竜ヶ岳→愛宕山→ツツジ尾根(一般向き)

費用 約4000円(バス代)

地形図 2万5千→神鍋山・香住

係 ◎木村 太郎

申込み 〒56510854

吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで

大峰山や三徳山と並ぶ日本三大権現の三川権現から、ブナ原生林が残りシャクナゲが開く、但馬最北部の山へ登る。雨天中止

5月8日(祝) 日帰り

集合 近鉄富田駅北出口9時00分

コース 富田駅(バス) 桜の辻→熊鷹寺→十五丁石地蔵→千本杉峠→三國山→七越峠→鍋谷峠(バス) 富田駅(解散15時)

費用 約27000円(バス代)

地形図 2万5千→岩湧山・内畑

係 ◎西上 利和 ○前川 和佳子

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

5月10日(出) 日帰り **貸切バス**

集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス) 長者の里→小自月山→貝月山→貝月山→東尾根分岐→貝月スキ→場日坂ゲレンデ(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代)

地形図 2万5千→横山・美東

係 ◎警見 守康

申込み 〒50410828

各務原市蘇原村雨町1の19の5 警見守康まで

* 定員20名(申込状況により減員あり)

長者の里から清滝な谷をつめ、東尾根をくだります。花崗岩の山ながら、花の豊かな貝月山です。

雨天決行

費用 約4000円(バス代)

地形図 2万5千→神鍋山・香住

係 ◎木村 太郎

申込み 〒56510854

吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで

大峰山や三徳山と並ぶ日本三大権現の三川権現から、ブナ原生林が残りシャクナゲが開く、但馬最北部の山へ登る。雨天中止

5月8日(祝) 日帰り

集合 近鉄富田駅北出口9時00分

コース 富田駅(バス) 桜の辻→熊鷹寺→十五丁石地蔵→千本杉峠→三國山→七越峠→鍋谷峠(バス) 富田駅(解散15時)

費用 約27000円(バス代)

地形図 2万5千→岩湧山・内畑

係 ◎西上 利和 ○前川 和佳子

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

雑木林の自然が残る、旧の西園巡礼道を新緑と旧蹟を楽しみながら歩く。雨天中止

5月10日(出) 日帰り **貸切バス**

集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス) 長者の里→小自月山→貝月山→貝月山→東尾根分岐→貝月スキ→場日坂ゲレンデ(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代)

地形図 2万5千→横山・美東

係 ◎警見 守康

申込み 〒50410828

各務原市蘇原村雨町1の19の5 警見守康まで

* 定員20名(申込状況により減員あり)

長者の里から清滝な谷をつめ、東尾根をくだります。花崗岩の山ながら、花の豊かな貝月山です。

雨天決行

5月11日(祝) 日帰り

集合 JR関ヶ原駅7時15分

コース 関ヶ原駅(車) 百合谷駐車場→大嵐山(往路)→百合谷(車) 関ヶ原駅(解散)

費用 約35000円(車代・交通費)

地形図 2万5千→白峰

係 ◎山田 明男

申込み 〒50310535

海津市南瀬町松山624の19

山田明男まで

5月より白山山系の山へ、ミズパショウの群生地を訪ねます。

雨天中止

5月13日(祝) 日帰り

集合 清滝バス停9時00分

コース 清滝→首無地蔵→竜ヶ岳→愛宕山→ツツジ尾根(一般向き)

費用 約4000円(バス代)

地形図 2万5千→神鍋山・香住

係 ◎木村 太郎

申込み 〒56510854

吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで

大峰山や三徳山と並ぶ日本三大権現の三川権現から、ブナ原生林が残りシャクナゲが開く、但馬最北部の山へ登る。雨天中止

5月10日(出) 日帰り

集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス) 長者の里→小自月山→貝月山→貝月山→東尾根分岐→貝月スキ→場日坂ゲレンデ(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代)

地形図 2万5千→横山・美東

係 ◎警見 守康

申込み 〒50410828

各務原市蘇原村雨町1の19の5 警見守康まで

* 定員20名(申込状況により減員あり)

長者の里から清滝な谷をつめ、東尾根をくだります。花崗岩の山ながら、花の豊かな貝月山です。

雨天決行

越前・文殊山とみつまた山
(中級向き)

5月10日(出) 1泊2日

集合 (10日) JR京都駅八条口団体バスのり7時20分

コース (10日) 京都駅(バス) 二上登山口→室堂→文殊山→奥の院→二上登山口(バス) 丸間温泉「たけくらべ」(祝)

費用 約22000円(バス・宿泊代等)

地形図 2万5千→鯖江・熊谷

係 ◎森田 直哉

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

5月11日(祝) 日帰り

集合 近鉄上本町駅8時10分

コース 上本町駅(バス) 双子橋登山口→雙の川遊歩道→村道終点→尾根→矢香岳→田尻城跡(往路)→双子橋(バス) 中津温泉(入浴・バス) 大阪駅(解散18時30分)

費用 約35000円(バス・入浴代等)

地形図 2万5千→川原河

係 ◎村田 智俊 ○安斎 止勝

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

展望の山44
白山西方・大嵐山(一般向き)

5月11日(祝) 日帰り

集合 JR関ヶ原駅7時15分

コース 関ヶ原駅(車) 百合谷駐車場→大嵐山(往路)→百合谷(車) 関ヶ原駅(解散)

費用 約35000円(車代・交通費)

地形図 2万5千→白峰

係 ◎山田 明男

申込み 〒50310535

海津市南瀬町松山624の19

山田明男まで

5月より白山山系の山へ、ミズパショウの群生地を訪ねます。

雨天中止

5月13日(祝) 日帰り

集合 清滝バス停9時00分

コース 清滝→首無地蔵→竜ヶ岳→愛宕山→ツツジ尾根(一般向き)

費用 約4000円(バス代)

地形図 2万5千→神鍋山・香住

係 ◎木村 太郎

申込み 〒56510854

吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで

大峰山や三徳山と並ぶ日本三大権現の三川権現から、ブナ原生林が残りシャクナゲが開く、但馬最北部の山へ登る。雨天中止

JR保津駅(解散16時頃)

費用 交通費各自

地図 昭文社「京都北山」

係 ◎仲谷 利司 ○沖 伸

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

電ヶ岳の登りは少なきついでが、斜面に咲くシャクナゲを見に行きます。愛宕山頂のサクランボ見頃、モチツツジも残っていると思えます。

雨天中止

5月14日(祝) 日帰り

集合 美浜町球場9時00分

コース 浅ヶ瀬登山口→第四鉄塔→庄瀬谷山(往路)→登山口(解散)

費用 交通費各自

地形図 2万5千→三方・駄口

係 ◎高島 伸浩

申込み 〒61010121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

若狭の秘境、新緑のブナ林が期待。雨天決行

台高・入道ヶ塚からナメラ山
(やや健脚向き)

5月15日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原駅南口中央口
8時05分

コース 橿原神宮前駅(バス) 青
田発着所トガ尾根池
杉山入道ヶ塚池杉山
イナメラ山太良羅谷
(バス) 橿原神宮前駅
(解散18時)

費用 約3400円(バス代)
地形図 2万5千七七日市
係 西上利和○前川和佳子
申込み 61010121

5月16日(日) 日帰り
集合 JR米原駅東口9時00分
コース 米原駅―青岸寺―森入岩

金羅里山ハイキング5
湖北・青岸寺から太尾山城郭跡
(初級向き)

5月17日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス) ヒラダス
ト今津―近江坂・バイバ
ス分岐―滝谷山分岐―河
内林道出合―大御山―
河内林道出合―ヒラダス
ト今津(バス) 京都駅
(解散19時頃)

5月18日(日) 日帰り
集合 近鉄大和上市駅8時30分
コース 大和上市駅(タクシー)
五番関トンネル―五番関
女人結界―洞辻茶屋―山
上ヶ岳―地蔵岳―阿弥陀
ヶ森女人結界―伯母谷観

近鉄橿原駅北口2番バス
のりば10時10分
コース 橿原駅(バス) 吐山南口
―吐山スズラン自生地―
香醇峠―香醇山―貝ヶ平
山―鳥見山―鳥見山公園
―橿原駅(解散)

費用 約3500円(バス代)
地形図 2万5千七七日市
係 木村太郎
申込み 56510854

紀伊山地の参詣道を歩く18
大峰奥駈道②
五番関から山上ヶ岳・阿弥陀
ヶ森
(中級向き)

5月18日(日) 日帰り
集合 近鉄大和上市駅8時30分
コース 大和上市駅(タクシー)
五番関トンネル―五番関
女人結界―洞辻茶屋―山
上ヶ岳―地蔵岳―阿弥陀
ヶ森女人結界―伯母谷観

大尾山北城郭跡―湯谷
神社分岐―南城郭跡―高
瀬橋跡三角点―田中山
道―横野峠―近江鉄道馬
居本駅(解散15時頃)

費用 2万5千七七日市
地形図 交通費各自
申込み 61010121

5月17日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス) ヒラダス
ト今津―近江坂・バイバ
ス分岐―滝谷山分岐―河
内林道出合―大御山―
河内林道出合―ヒラダス
ト今津(バス) 京都駅
(解散19時頃)

5月18日(日) 日帰り
集合 河内親鳳八手前寺院広場
8時30分
コース 広場(車) 橿原谷白谷橋
広場―リョウシ岩峰―滝
谷出合―行者谷 奥の権
現―寺院広場(解散)

費用 交通費各自
地形図 昭文社「京都北山」
係 昭文社「御在所・雲畑・
伊吹」
申込み 61010121

山上ヶ岳を通過する女人結界区
域の奥駈道を歩く。雨天中止
*男性に限る

5月18日(日) 日帰り
集合 近鉄大和上市駅8時30分
コース 大和上市駅(タクシー)
五番関トンネル―五番関
女人結界―洞辻茶屋―山
上ヶ岳―地蔵岳―阿弥陀
ヶ森女人結界―伯母谷観

費用 交通費各自
地形図 昭文社「御在所・雲畑・
伊吹」
申込み 61010121

5月21日(日) 日帰り
集合 京阪本駅大津市観光案
内所前9時15分
コース 坂本駅―日吉大社―日吉
東照宮―笠立山東尾根―
蓬萊峯―笠立山―笠立山―
紀貫之墓(往復)―ケイ
ブル延暦寺―無動寺
(弁天堂)―東海自然歩
道―四ツ谷川林道―穴太
―唐崎駅(解散16時頃)

5月17日(日) 日帰り
集合 JR岐阜駅7時00分
コース 岐阜駅(バス) 木曾町営
駐車場―紅葉ヶ丘―福島
城址―城山―権現滝―町
営駐車場(バス) 岐阜駅
(解散)

5月18日(日) 日帰り
集合 JR志賀駅9時00分
コース 志賀駅(バス) びわ湖バ
レイ前(ロープウェイ)
打見山―木戸峠―比良岳
―萬川越―鳥谷山―櫻山
山―牛コバ―坊村(バス)
堅田駅(解散16時30分頃)
*歩行約5時間

5月22日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス) マキノ白
谷―黒河越―三國山―赤
坂山―マキノスキー場
(バス) 京都駅(解散18
時頃)

5月18日(日) 日帰り
集合 JR志賀駅9時00分
コース 志賀駅(バス) びわ湖バ
レイ前(ロープウェイ)
打見山―木戸峠―比良岳
―萬川越―鳥谷山―櫻山
山―牛コバ―坊村(バス)
堅田駅(解散16時30分頃)
*歩行約5時間

平日ふれあいハイク69
湖西・三國山から赤坂山
(一般向き)

環境整備協力券3000円
2万5千七七日市 熊川・海津
係 狩野東彦
申込み 61010121

5月17日(日) 日帰り
集合 JR岐阜駅7時00分
コース 岐阜駅(バス) 木曾町営
駐車場―紅葉ヶ丘―福島
城址―城山―権現滝―町
営駐車場(バス) 岐阜駅
(解散)

5月18日(日) 日帰り
集合 JR志賀駅9時00分
コース 志賀駅(バス) びわ湖バ
レイ前(ロープウェイ)
打見山―木戸峠―比良岳
―萬川越―鳥谷山―櫻山
山―牛コバ―坊村(バス)
堅田駅(解散16時30分頃)
*歩行約5時間

5月22日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
コース 京都駅(バス) マキノ白
谷―黒河越―三國山―赤
坂山―マキノスキー場
(バス) 京都駅(解散18
時頃)

5月18日(日) 日帰り
集合 JR米原駅東口9時00分
コース 米原駅―青岸寺―森入岩

5月24日(日) 日帰り
集合 近鉄桜井駅北出口9時30
分
コース 桜井駅(サイクリング・

サイクリング&登山⑧
レンタサイクルで大和三山
(一般向き)

5月21日(日) 日帰り
集合 京阪本駅大津市観光案
内所前9時15分
コース 坂本駅―日吉大社―日吉
東照宮―笠立山東尾根―
蓬萊峯―笠立山―笠立山―
紀貫之墓(往復)―ケイ
ブル延暦寺―無動寺
(弁天堂)―東海自然歩
道―四ツ谷川林道―穴太
―唐崎駅(解散16時頃)

5月24日(日) 日帰り
集合 近鉄桜井駅北出口9時30
分
コース 桜井駅(サイクリング・

サイクリング&登山⑧
レンタサイクルで大和三山
(一般向き)

く真成山公園) 登山口

(杖藜) 一耳成山 登山口(サイクリング) 藤原宮跡) 登山口(杖藜) 一香久山 登山口(サイクリング) 秋傍御陵前駅) 登山口(サイクリング) 福原神宮) 近鉄原神宮園(解放)

費用 交通費各目(自転車レンタル料1200円*自転車は保険対象外)

地形図 2万5千 桜井・秋傍山 係 ◎山口説明

申込み 〒518-0755 名取市緑が丘中144 山口説明まで

5月25日(日) 日帰り 貸切バス 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分

コース 京都駅(バス) 鞍掛トンネル 鞍掛峠 焼尾山 三因岳 三角点 阿蘇谷 出合 鳴川谷 林道 登山口(バス) 京都駅(解放16時30分頃)

費用 約3000円(バス代) 地図 昭文社「御在所・霊山・伊吹」

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

5月31日(日) 日帰り 集合 JR南矢代駅9時40分

コース 南矢代駅 古羽山 松尾山 住吉市 古市駅(解放)

費用 交通費各目 地形図 2万5千 藤山 係 ◎阪上義次

申込み 〒574-0017 大東市津の辺町9-15 阪上義次まで 雨天中止

鈴鹿を歩く287

イブネ・銚子・深谷山・銚子ヶ口 (健脚向き) 6月1日(日) 日帰り マイカー 集合 国道421号線 打葉尾神 崎橋広場8時00分

費用 交通費各目 地形図 昭文社「御在所・霊山・伊吹」

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

6月4日(日) 日帰り 集合 JR野洲駅南口8時55分

コース 北山ちよつと歩き1000 湖東・鏡山(一般向き)

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

コース 野洲駅(バス) 編譯博物館 館前 辻タム 城山 古城山 彦坂峠 鏡山 奥鳴谷広場 野外活動センター 公園西ゲート(バス) 野洲駅(解放16時頃)

費用 交通費各目 地形図 2万5千 野洲 係 ◎金谷 昭 守

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

週末ハイイク82 湖西・能登野越から三十三間山(一般向き) 6月7日(日) 日帰り 貸切バス 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時30分

コース 京都駅(バス) 能登野林道入口 林道終点 能登野越 三十三間山 風神 夫婦松 登山口 倉見 登山口 駐車場(バス) 京

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

都駅(解放18時30分頃) 費用 約3000円(バス代) 地形図 2万5千 三万・熊川 係 ◎狩野東彦

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

6月7日(日) 日帰り 貸切バス 集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス) 樽見東飯屋 岩布 東飯屋(往復) 大垣駅(解放)

費用 約4000円(大垣駅からバス代)

地形図 2万5千 谷合 係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828 各務原市藤原村雨町1の19の5 鷺見守康まで

自然観察山行250 奥美濃・岩岳(一般向き) 6月7日(日) 日帰り 貸切バス 集合 JR大垣駅9時00分

紀伊山地の参詣道を歩く19 大峰奥駈道 阿弥陀ヶ森から七曜岳 七曜岳から弁天の森(中級向き) 6月7日(日) 8日(日) 1泊2日 集合 7日 近鉄大和上市駅 9時00分

コース 7日 大和上市駅(タクシ) 大迫 大谷分岐 伯母谷 阿弥陀ヶ森 大普賢岳 阿弥陀ヶ森 七曜岳 無双洞 和伝ヒコシテ(泊)

8日 ヒュッテ 七曜岳 行者湯 一ノタワ 弁天の森 行者湯 トンネル西口(タクシ) 下市口(解放17時頃)

費用 約14000円(宿泊・タクシ代等)

地形図 昭文社「大峰山脈」 係 ◎村田智俊

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

伯母谷を見、阿弥陀ヶ森から七曜岳、そして弁天の森までの

奥駈道を2日間かけて歩きます。雨天決行

展望の山45 白山北方・人形山と大笠山(健脚向き) 6月7日(日) 8日(日) 1泊2日 集合 7日 JR西岐阜駅6時50分

コース 7日 西岐阜駅(車) 中根草登山口 人形山(往路・車) 五箇山民宿(泊)

8日 宿(車) 桂湖キャンプ場 大笠山(往路・車) 西岐阜駅(解放)

費用 約16000円(車・宿泊代等)

地形図 2万5千 中宮温泉・上梨 係 ◎山田明男

申込み 〒503-0535 海津市南郷町松山624の19 山田明男まで

富山・岐阜県境の人形山 石川・富山県境の大笠山(一等岳) 挑戦します。大笠山からは、笈ヶ岳

が東から眺められる。雨天決行

近江の山シリーズ 湖西・駒ヶ岳から池原山(一般向き) 6月8日(日) 日帰り 貸切バス 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分

コース 京都駅(バス) 木地山登山口 樽見東谷 出合 稜線 森林公園分岐 駒ヶ岳 池原山 P744 池原山 足谷口(バス) 京都駅(解放18時頃)

費用 約3000円(バス代)

地形図 2万5千 古屋 係 ◎森脇貞義

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

昨年雨で中止した駒ヶ岳から池原山を再行します。雨天中止

サイクリングと登山 伊賀・尼ヶ岳(一般向き) 6月8日(日) 日帰り

雨天中止

集合 近鉄青山町駅8時30分
コース 青山町駅(サイクリング・阿保(上高尾)・上車)ニヶ岳登山口(鉄橋)ニヶ岳(富士見峰)ニヶ岳登山口(サイクリング)上車(上高尾)阿保(上高尾)青山町駅(解散)

費用 交通費各自(自転車は保険対象外)自転車レンタル料300円(レンタル者のみ)
地図 昭文社『大台ヶ原・高尾・俱利伽羅山』(2万5千)俱利伽羅山

係 山口敬明
申込み 〒518-10755
名張市緑が丘中144
山口敬明まで

登山口までサイクリングを楽しむ、天空へのびる階段をたどって伊賀の最高峰、ニヶ岳(別名・伊賀富士)に登ります。*自転車の貸し出しは申し込み順に3名まで雨天中止

6月8日(日) 日帰り
比良を歩く67
白滝谷から蓬萊山(中級向き)

集合 JR堅田駅タクシーのりば8時40分
コース 堅田駅(タクシー)坊村牛ノ谷白滝谷一夫編滝一社谷一滝平一蓬萊山一打見山一クロトノハゲ一天狗杉一志賀駅(解散)

費用 約1900円(京都から)
地形図 昭文社『比良山系』(2万5千)比良山
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

火曜ハイク44
北摂・歌壇山から妙見山(一般向き)
6月10日(火) 日帰り
集合 能勢電鉄妙見口駅9時45分

コース 妙見口駅(バス)歌壇山登山口一歌壇山一堀切峠一木流寺一妙見山一山上駅(ケーブル)妙見口駅

6月10日(火) 日帰り
比良を歩く67
白滝谷から蓬萊山(中級向き)

(解散17時頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社『北摂・京都西山』

係 仲谷社司 ○沖 伸
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

歌壇山は整備されて憩いの場になっています。ササユリを期待していますが、妙見山まで頑張りたい。最後は妙見山への登りです。雨天中止

6月11日(水) 日帰り 貸切バス
集合 JR新大阪駅一階正面出口7時30分
コース 新大阪駅(バス)観音峰登山口一観音峰一観音峰一三ツ塚一法力峠一洞川温泉(入浴・バス)新大阪駅(解散)

6月11日(水) 日帰り
フアミリーハイク121
大峰・観音峰(一般向き)

申込み 〒565-10854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで
*定員24名

台高・高見峰から大又(やや健脚向き)
6月12日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

コース 橿原神宮前駅(バス)高見峰一雲ヶ瀬山一ハンシ山一伊勢江山一高見山一水無山一明神平一太又林道(バス)橿原神宮前駅(解散18時)

費用 約2800円(バス代)
地形図 昭文社『高見山・大豆生』
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

高見山の裾野から新緑の台高北部縦走路を南下します。雨天中止

98

鈴鹿を歩く288
油日岳・那須ヶ原山・高畑山(健脚向き)

6月15日(日) 日帰り
集合 鈴鹿峠トンネル西口側燈籠広場8時00分
コース 燈籠広場(車)油日岳登山口一油日岳一三國山一那須ヶ原山一三頭山一坂下峠一油日岳一高畑山一鈴鹿峠(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社『御在所・富田・伊吹』
係 岩野 明 ○山田景三
申込み 〒61010121
新ハイキング関西まで

大パノラマと変化に富んだ南鈴鹿の山々。ササユリなど、夏の花々を楽しみながら歩く。雨天中止

6月15日(日) 日帰り 貸切バス
集合 JR新大阪駅一階正面出口8時00分
播但・七種山から七種池(中級向き)

コース 新大阪駅(バス)山門一七種池一七種山一七種池一鉄塔一七種池(バス)
大坂駅(解散18時30分)

費用 約3000円(バス代)
地形図 昭文社『前之庄』
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

七種池から岩峰とやせ尾根の七種山塊を歩く。雨天中止

6月19日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄富田林駅北出口9時00分
コース 富田林駅(バス)堀河ダム(青少年村)一ボンデム(青少年村)一ボンデム山一立方谷分岐一城ヶ峰一カマ尾根 笹峠一堀河ダム(バス)富田林駅(解散17時)

費用 約2900円(バス代)
地形図 昭文社『西上利和』
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

6月21日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅7時00分
コース 新大阪駅(バス)矢野神社一登山口一送電塔一霧訪山一登山口一神社(バス)岐阜駅(解散)

費用 約6500円(岐阜駅からバス代等)
地形図 昭文社『北小野』
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村南町1の19の5 鷺見守康まで

アルプスの大展望と花の山を訪ねます。雨天代行

6月22日(月) 日帰り
集合 南海河内長野駅6番バスのりは10時05分
コース 河内長野駅(バス)南ヶ丘一中山谷一ノ坂峠一徳坊山一大サエ谷一勝光寺一南花台4(バス)河内長野駅(解散)

6月21日(日) 日帰り
集合 神戸電鉄箕谷駅9時00分
コース 箕谷駅(バス)丹生神社一丹生山一シビレ山一香吐ダム一蘆原(バス)箕谷駅(解散)

費用 交通費各自
地形図 昭文社『淡河』
申込み 〒57410017
大東市津の辺町9-15
阪上義次まで

6月22日(月) 日帰り
集合 南海河内長野駅6番バスのりは10時05分
コース 河内長野駅(バス)南ヶ丘一中山谷一ノ坂峠一徳坊山一大サエ谷一勝光寺一南花台4(バス)河内長野駅(解散)

フアミリーハイク122
紀泉・一徳坊山(初級向き)

費用 約5500円(バス代)
地形図 昭文社『富田林・岩湧山』

99

歩き遍路の独り言

— あなたも歩ける四国遍路みち 1200キロ —

A5判・176頁 定価1200円(税込)

後藤 典重 著

私は「歩き遍路」を十八年五月に終えて、歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめました。歩かなければわからない四国の素晴らしさ、地元の人々との関わりを通じた体験・体得を多くの方々にお伝えできればと思います、出版しました。

四国には、人との会話、心のふれあいなど、今忘れられている心暖まる貴重な何かが残っており、豊かな心の旅になりました。

歩き遍路の独り言



- 第1回 おへんろを知る歩行の苦惱旅 (第1～23番)
- 第2回 土佐人の心に触れた喜びの旅 (第24～36番)
- 第3回 猛暑を体験し、克服した努力の旅 (第37～40番)
- 第4回 紅葉を楽しみ、歩行行を見直す旅 (第41～59番)
- 第5回 早春に芽吹きを求めた触れ合い旅 (第60～83番)
- 第6回 新緑と花の美しい結願・感激の旅 (第84～88番と高野山)

その他、歩くための参考になる四国遍路の歴史・コースタイム(距離・時間・歩数等)・宿泊先一覧(住所・電話)など必要な資料を掲載。

「遍路とは」「お接待とは」何か?と疑問に思う方、また四国遍路に興味のある方、そして「歩き遍路」を実行したい方は、是非お読みください。四国遍路を発心されるよう念願しています。

●本誌の振替でのご注文は送料当社負担

新ハイキング関西

〒610-0121 城陽市寺田大群10-10 Tel./Fax 0774-53-2754

湖北の山
池原山(一般向き)

6月27日(日) 日帰り
集合 阪急箕面駅9時30分
コース 箕面駅→桜広場→ハート
広場→六個山→石澄ノ滝
→東畑(バス)→池田駅
費用 交通費各自
地形図 2万5千→広根・伊丹
係 ◎村田智俊
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

所どころ急坂もあるが、新緑の樹下をのんびり歩き、六個山で憩い、石澄ノ滝を見ます。雨天中止

金環里山ハイキング6
箕面・六個山(一般向き)

6月28日(日) 日帰り
集合 高島市朽木支庁9時00分
コース 朽木支庁→熊ノ畑→池原
山→P682→中小屋
(解散)
費用 交通費各自
地形図 2万5千→古屋
係 ◎高島伸浩
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

6月29日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば?時40分
コース 京都駅(バス)美濃谷→オノ神峠→三草山→オノ神峠→林道開発記念碑→林道終点→丸山→コルー堂床山→コルー仁頂寺(バス)京都駅(解散18時30分)
費用 約3000円(バス代)
地形図 2万5千→妙見山・木津
係 ◎村田智俊 ◎安倉止勝
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

鈴鹿を歩く289
霧ヶ岳・四方草山・三子山
(健脚向き)

6月29日(日) 日帰り
集合 鈴鹿峠燈籠広場8時00分
コース 広場(車)安楽越→霧ヶ岳→四方草山→三子山→鈴鹿峠(車)安楽越(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・霧仙・伊吹」
係 ◎岩野 明 ◎山田景三
申込み 〒61010121
◎後藤康幸

オノ神峠の東西に連なる三草山と堂床山の2山を歩く。
小雨決行

北摂・三草山から堂床山
(一般向き)

6月29日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば?時40分
コース 京都駅(バス)美濃谷→オノ神峠→三草山→オノ神峠→林道開発記念碑→林道終点→丸山→コルー堂床山→コルー仁頂寺(バス)京都駅(解散18時30分)
費用 約3000円(バス代)
地形図 2万5千→妙見山・木津
係 ◎村田智俊 ◎安倉止勝
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

会員募集

●山想同人・峰
会創立25年を迎えました。例会山行は毎週実施。例会総数は1800回を超えています。主として関西の山ですが、九州や北海道の山にも毎年出かけられています。会員数は50数人。
入会金 1000円
年会費 4500円
(問い合わせ)
〒55910033
住之江区南港中2-2-44-923
高橋一郎まで

大阪低山跋涉会

(大阪府佐野連加盟)
主に近畿周辺の山々を日帰りです楽しんでるグループで、今年で28年目になります。歴史ウォークや山麓ハイキングなどの軽ハイキング・初級・中級登山や時には道も無い藪山にも登ります。例会は日曜祝日だけでなく平日山行も開催しています。40・70歳位までの山と自然が好きなお方ならどなたでも大歓迎。資料請求は葉書で左記へ。
〒53610006
大阪市城東区野江2の5の19
慶佐次盛一まで

山行報告 (1・2月号) 新ハイキングクラブ編

恒例のいも煮会 西播・御旗山 1月4日(日) 晴れ

(集合) JR総持駅9・30 阿保橋一宮神社・八幡神社10・45 黒田家廟所・平教会場11・10 12・40 (解散) 解散後、表座敷コース。仁寿山から姫路駅コース。仁寿山から小宮山を経て養老駅コースへと名々向かった。

(参加者) 岩城豊子 宮西和子 栗橋有子 岩本真幸 小林博子 金谷 昭 小田朝子 小山 輝 楠原良彦 長沢佑美 中島 隆 松本忠雄 石田賢二 後藤賢代子 岩田育子 本家流子 田中三恵子 馬福忠男 兼田幸子 野末あや子 小林優子 村井寿和 中川節子 ○大和 敏 ◎須藤岡 組 (計25名)

伊勢神宮初詣と鼓ヶ岳 1月5日(日) 晴れ

(集合) JR伊勢市駅9・40 15 50 外宮10・00 20 15 外宮の里登山口11・05 15 山の神11・20 15 磯原尾根分岐11・50 太公望12・00 鼓ヶ岳12・10 (昼食) 12・50 五本松神社13・10 宇高橋13・20 (内宮参拝) 14・30 おかげ横丁14・45 15 20 近鉄五十鈴川駅15・45 (解散)

初詣にふさわしい日和に恵まれ、人込みのなかに正月気分を外宮から山に入ると一変、静寂な里山。伊勢湾を見下ろしての昼食中、地元らしい目撃をもらい、下山道を案内してもらった。下山後、人出で賑わう内宮に参拝し、おかげ横丁をぶらついて帰路についた。

(参加者) 水谷信子 宮崎ちへ子 荒木光雄 小池一郎 松上英代子 朽名生石 徳田陽子 久保田玲子 宮野智子 宮野純子 六戸喜久江 多賀久子 石川 敏 伊東ナナ子 石井照雄 岡崎知子 荻野美紀恵 金森節子 山田明男 山田妙子 吉村 昭 佐々木三千代 ○安倉正勝 ◎村田智俊 (計28名)

押立山(鈴鹿を歩く) 1月6日(日) 晴れ

(集合) 関東307号線マーガレットステーション8・20 (車) 北古屋(置き車) 山比古湖水8・40 三叉9・35 押立山南尾根11・00 押立山11・40 (昼食) 12・40 中央林道13・15 北古屋14・35 (解散)

雲ひとつない冬晴れ。登りの林道は10・20時の残雪が残る。押立山の南尾根からは伊吹・雲仙と鈴鹿北部の雪山が展開。押立山の日溜りで輪になって昼食。下山は真下に湖東平野と琵琶湖を見て東の鞍部から中央林道に下り、北古屋へと歩いた。新春の押立山は暖かい日だまり登山となった。

(参加者) 飯部 苑 奥野太一郎 栗本敏夫 永戸鉄治 関木美恵子 細野秋也 白木良弘 白木やす子 武村千鶴 一芝義雄 一芝美知子 呉比呂美 大西啓郎 石田真由美 有兼 登 櫻田勝利 吉村 昭 高杉 博 稲津謙治 ○後藤康幸 ◎岩野 明 (計21名)

静岡・越前岳と連磨山 (富士見山行) 1月7日(月) 9日(水) 2泊3日

(7日) 雨 (JR車中集合・電車) 富士駅(空車) 十里木宿17・30 (泊) (8日) 晴れ 宿5・30 登山口6・00 馬ノ背6・55 (朝飯) 7・15 越前岳8・20 55 富士見台9・10 20 富士見峠10・10 15 1山神社10・40 55 愛鷹登山口バス停11・10 35 (バス) JR三島12・20 (朝食・三島大社参拝) 14・30 (電車) 修善寺温泉宿15・50 (泊) (9日) 晴れ 宿7・15 (タクシー) 船原峠登山口7・40 御旗山8・55 連磨山9・45 10 10 戸田峠10・55 10 金山山11・10 20 1戸田峠11・40 (タクシー) 修善寺温泉12・00 (入浴) 12・45 修善寺駅13・20 (昼食) 13・50 (電車) 三島駅14・30 (車中解散) 南側14時の至近距離からの紅葉が、宝水火口をアクセントにくっきりと目前に見え、大感動した。

(参加者) 上山正二 大國加代子 山根弘美 山下裕康 山下美穂子 栗橋崇吉 宮崎由美子 ○福江房樹 ◎田中 明 (計9名)

全篇 馬駐ヶ場北尾根から赤ソレ山 1月8日(水) 晴れ

(集合) 近鉄榊原駅8・10 高見道トンネル東口8・50 (車) 木柅林道馬駐ヶ場広場9・35 馬駐ヶ場北尾根取付10・10 馬駐ヶ場12・25 馬駐ヶ場辻付近12・45 (昼食) 13・55 赤ソレ山14・15 木柅林道地蔵谷出合15・35 鳴滝手前広場15・50 (マイカー解散・車) 近鉄榊原駅16・45 (解散)

木柅林道へ入っても雪は全く無く、鳴滝手前の広場で置車。林道終点の先で馬駐ヶ場北尾根末端に取り付け、西風が強い。馬駐ヶ場へ出ると一面銀世界だが期待の霧水は無く、わずかに雨の雨に恵まれる。強風を避け、馬駐ヶ場辻南側の風下で本日の主眼、野村会。下りは赤ソレ山北尾根を歩いたり、地蔵谷へ出るが、左岸出合付近は昨年同様で荒れ放題。ズリ落ちそうな放置杉材にヒヤヒヤしながら地蔵谷出合へ下山。今日一番ヤバかったのは、参加者日一番ヤバかったのは、参加者の井、ここ当然、地蔵谷へ入るには、出合コルジューは右岸側(北東尾根側)を控くほうがいいかもしれない。

京都東山・種荷山から栗田口 (北山ちよっと歩き) 1月9日(木) 晴れ

(集合) JR福知山駅9・00 種荷山一の峰9・35 種荷山二の峰10・05 12 津田橋10・55 清水寺11・48 (昼食) 12・50 清水山三角点13・20 京大花山天文台13・45 14・10 将軍塚14・30 45 栗田神社15・15 (解散)

小春日和に恵まれ、東山の有名な社寺の初詣を兼ねて日溜まりハイタケを楽しんだ。種荷山から遺石越にかけて手入れたの行き強い雄木林道と竹林の歩行は大変持ちよかった。コース外にあまり歩かれていない京大花山天文台に許可をとり、天文台一等三角点と京都彫形基壇観測点を見学した。

(参加者) 大和 敏 松上英代子 矢谷豊子 内田昭彦 沖 紀子 栗橋有子 武並邦邦 宮崎正 夏山登子 木間賢子 岩佐 修

近江・比叡山 (ファミリーハイカー115) 1月10日(金) 晴れ

(集合) JR比叡山坂本駅10・10 15 15 本坂本登山口10・35 40 15 花巻宮11・10 15 15 魚塔11・50 55 阿弥陀堂休憩所12・15 (昼食) 13・00 大比叡山頂13・20 15 30 ケーブル延暦寺駅14・05 15 15 15 15 比叡山高松クラウン前登山口16・00 05 (解散)

冬暖かく雪が無い比叡山。本坂本コースを登り降りハイタケを楽しんだ。蟻ヶ滝コースを下り産菜峠へ戻るが、壊れた階段の急傾斜を慎重に通過した。

(参加者) 大和 敏 森美喜美子 志水明美 岡崎知子 武部美美子 君塚節子 渡部和美 伊東ナナ子 ○山形 明 ◎賢良守康 (計12名)

美濃・樽現山 (自然観察山行242) 1月19日(日) 晴れ

(集合) JR岐阜駅9・15 (バス) 関市千本桜公園駐車場10・10 15 寺尾コース 鉢塔広場11・10 20 樽現山11・50 (昼食) 12・40 小知野コース 林道出合14・20 小知野温泉14・45 (入浴) 15・45 (バス) 岐阜駅16・30 (解散)

比較的確やかな日中で、御旗・白山・伊吹山、そして美濃の山々の雪崩が美しかった。関市の樽現山は標高(516.6)の割に登りがいいのである(山1.6)。

レンタサイクルで大和山三山
(サイクリング&登山⑤)
1月12日(日) ◎山口朝明
*雨天のため中止しました。

湖西・湖北武奈ヶ嶽
(近江の山シリーズ⑦)
1月13日(日) 雪
(集合) J R京福駅7・20・27
(バス) 角川登山口9・15・30・
赤岩尾11・05(昼食) 11・45・湖
北武奈ヶ嶽12・35・50・杉山登山
口14・46・55・京都駅17・03(解
散)

いつも雪の多い山でスノーシュー
や輪カンが楽しいが、雪が少なかつ
た。山頂では、雪が降っていて展
望はなかった。杉山登山口まで一
気に下りた。
(参加者) 中川節子 久馬麻登河
川田洋子 高橋静治 野末あや子
宮野哲郎 宮野篤子 加納由起子
金藤節子 栗橋康吉 森 美香子
萩野陽子 稲津謙治 池田美重子
三野 旭 蓮井洋子 船本裕子
鈴木吉和 岩本彩子 山内玄次
夏山春子 多田 徳 後藤康幸
高木忠夫 ○村井寿和
◎森脇貞哉 (計26名)

1月14日(日) くもり時々晴れ
(集合) 京阪出町柳駅7・50(バ
ス) 花背高原前9・15・30・寺山
峠10・10・雲取峠10・40・雲取山
11・00(谷立立命館大ワンゲル
会取山から产生へ)
(京都北山歩き127)

播磨アルプス縦走
1月13日(日) くもり
(集合) J R宝殿駅8・45・58
(バス) 大池下9・14・成井登山
口9・30・40・小高御位10・00・
高御位山10・30・45・分岐11・20
一岩場11・45(昼食) 12・45・桶
原山14・00・天狗岩14・40・深志
野15・10・J R徳着駅15・35(解
散)
雨上がりは視界も良く、小豆島
から四国の山々まで見渡せた。し
かし、北部は雲に覆われ雪のよう
であった。展望の良い横線を縦走
し、楽しみながら無事下山した。
(参加者) 上田裕子 狩野東彦
柳川常雄 小池一郎 馬籠忠男
首藤哲子 西 茂子 市井ユリエ
木村 豊 堀尻香織 小谷和子
堀内預智 岩鶴健司 岩田育士
多賀久子 下郡正年 岐田二郎
◎岡田 昇 ◎古賀慶二(計19名)
雲取山から产生へ

小屋11・30(昼食) 12・10(一ノ
谷道合流) 12・25(林道終点) 12・35
一产生分岐) 13・00(505旧花背峠
14・00(10天狗杉) 14・25(30一
花背峠) 14・45(15・20(バス) 出
町柳駅) 16・40(解散)
歩き始めはアイゼンを装着した
が、寺山峠でも雪は少なく滑らな
いので外して歩く。10時の積雪は
歩きやすく予定通り雲取山に到着
山頂は風があり寒いので立命館大
小屋へ下りて昼食にした。サラサ
ラの雪の林道も歩きやすく、予定
通り产生に出て旧花背峠から天狗
杉を越って帰った。
(参加者) 川戸せつ 桜庭 栄
木村頼恵 大林 進 松上美代子
向井克巳 竹内正子 北村つねみ
岡坂陽子 岡崎知子 善塚勝一郎
渡辺いく 加藤浩一 都築由美子
岡本和子 細野欽也 渡部和美
勝田治美 傍田昌子 木下朝子
妹尾一正 岩本彩子 ○大東 哲
◎村田智俊 (計24名)

湖西の山
比較・大比敵
1月19日(日) 晴れ
(集合) 大津市観光駐車場9・00
一飯家不動堂9・50(元三六師堂
小屋11・30(昼食) 12・10(一ノ
谷道合流) 12・25(林道終点) 12・35
一产生分岐) 13・00(505旧花背峠
14・00(10天狗杉) 14・25(30一
花背峠) 14・45(15・20(バス) 出
町柳駅) 16・40(解散)
歩き始めはアイゼンを装着した
が、寺山峠でも雪は少なく滑らな
いので外して歩く。10時の積雪は
歩きやすく予定通り雲取山に到着
山頂は風があり寒いので立命館大
小屋へ下りて昼食にした。サラサ
ラの雪の林道も歩きやすく、予定
通り产生に出て旧花背峠から天狗
杉を越って帰った。
(参加者) 川戸せつ 桜庭 栄
木村頼恵 大林 進 松上美代子
向井克巳 竹内正子 北村つねみ
岡坂陽子 岡崎知子 善塚勝一郎
渡辺いく 加藤浩一 都築由美子
岡本和子 細野欽也 渡部和美
勝田治美 傍田昌子 木下朝子
妹尾一正 岩本彩子 ○大東 哲
◎村田智俊 (計24名)

樹水の綿向山
(鈴鹿を歩く278)
1月20日(日) くもり
(集合) 藤王ダム広場8・25(車
庫前) 8・35(文三ハゲ) 10・00(尾
根) 10・20(綿向山) 11・00(北峰東
雪原) 11・30(昼食) 12・30(綿向
山) 13・00(フナの木平) 13・20(熊
野峠) 14・00(熊野15・35(解散)
暖冬で樹水は無い。文三ハゲか
らの急登で尾根は凍結し雪が積つ

ていて苦労したが、山頂からの眺
望はすばらしく、北峰東の雪原で
焚火を囲んでゆっくり昼食。粉雪
のなかをフナの木平、熊野峠、滝
山谷へと一気に下りた。今年もま
た山の仲間と綿向山を楽しく歩く
ことができた。
(参加者) 小林 桂 櫻田勝利
稲津謙治 木下朝子 菅笠登路
岩本彩子 高杉 博 奥野太一郎
栗本敏夫 北村 稔 佐古田文子
宮野哲郎 細野欽也 網本美恵子
永戸鉄治 一芝義雄 一芝美知子
小林 修 栗岡克子 栗岡 康
大西節郎 ○後藤康幸
◎山田愛三 ◎岩野 明(計26名)

愛知の一等はこの山で終わり次は
三重。浜名湖は見え見えだが富士
山は曇っていて良くない。豊川稲荷
は7人が初めてだった。
(参加者) 石井照雄 伊藤美恵子
養見重見 馬場桂子 生藤重美子
小林一世 栗橋康吉 栗橋君子
山田妙子 ◎山田明男(計10名)

今泉 熱 妹尾一正 野末あや子
岩本彩子 木下朝子 小川富士雄
角江朝子 中尾博子 合村あやの
狩野東彦 萩野陽子 佐々木幸子
須藤節子 吉野葵子 村田は江
中川光郎 ○青木一雄
◎小松志信 ○村井寿和
◎俵谷礼司 (計28名)

大峰・大樹山から三本峠
1月24日(日) 雪時々晴れ
(集合) 近鉄橿原駅前8・05
(バス) 小谷林道ゲート前9・
55(登山口) 10・40(尾根) 11・30(一
大樹山) 12・10(昼食) 12・50(分
岐) 13・35(小谷林道ゲート前) 17・
00(バス) 橿原駅前駅19・00
(解散)
大樹山からの粉雪舞う緩歩は
は時間がかかりすぎるようなので
三本峠への登頂はあきらめた。下
りにとった林道も途中で崩壊して
いて踏破できず、登って来た道を
引き返した。
(参加者) 志水朝美 大園加代子
渡部和美 木村 豊 野末あや子
緒方由子 栗岡克子 伊東ナナ子
小栗大直 岡崎知子 岩村春子
大和 紘 上田久子 上田裕子
狩野東彦 竹田駿英 松上美代子

鈴鹿・松山尾根から鎌ヶ岳
1月25日(日) 夜26日(日)
◎田中賢治
*係の都合で中止しました。

三河・富嶽山(尾張の山40)
1月20日(日) くもり
(集合) 名古屋地下鉄上野駅6・
50(車) 陣座峠登山口8・30(富
嶽山) 9・10(登山口) 10・00(車)
道の駅奥三河10・30(観音橋登
山口) 10・45(上浅間山) 11・45(十
浅間山) 12・10(昼食) 12・40(上
吉田) 13・40(道の駅) 13・50(伏見
14・20(車) 豊川稲荷) 14・55(稲
荷参拝) 15・40(車) 上社駅17・
10(解散)
静岡・愛知県境の2山を歩き、

三頭山・地蔵山から愛宕山
(愛宕山シリーズ16)
1月22日(日) くもり
(集合) J R八木駅8・36(バス
) どんどん橋9・02(20) 星峠9・
35(40) 三つ辻10・10(15) 三頭
山11・05(15) 岩見峠11・50(昼
食) 12・30(地蔵山) 13・50(14・
05(地蔵の辻) 14・55(15・00(一
輪寺) 梨の木林道) 16・20(25
一清滝) 16・55(解散)
2日間も続いた寒波も京都南部
は影響がなかったようだ。最大
で40センチと今年も積雪量は少な
いが、三頭山と地蔵山の急坂を登
り終えて「ヤッター」と皆元氣。
絵に長い雪道を歩きながら
(参加者) 金谷 昭 久馬麻登河
大林 進 木村 豊 片岡志貴子
岩佐 修 金藤節子 水貞貞砂子

大峰・大樹山から三本峠
1月24日(日) 雪時々晴れ
(集合) 近鉄橿原駅前8・05
(バス) 小谷林道ゲート前9・
55(登山口) 10・40(尾根) 11・30(一
大樹山) 12・10(昼食) 12・50(分
岐) 13・35(小谷林道ゲート前) 17・
00(バス) 橿原駅前駅19・00
(解散)
大樹山からの粉雪舞う緩歩は
は時間がかかりすぎるようなので
三本峠への登頂はあきらめた。下
りにとった林道も途中で崩壊して
いて踏破できず、登って来た道を
引き返した。
(参加者) 志水朝美 大園加代子
渡部和美 木村 豊 野末あや子
緒方由子 栗岡克子 伊東ナナ子
小栗大直 岡崎知子 岩村春子
大和 紘 上田久子 上田裕子
狩野東彦 竹田駿英 松上美代子

美濃・鍋倉山
(自然観察山行243)
2月2日(日) くもり
(集合) J R大垣駅9・00(バス
) 長者の里10・05(20) 林道登山口
10・30(尾根) 合流分岐) 10・30(一
5(11・00(美濃分岐) 11・30(一
鍋倉山) 12・35(遊歩小原) 12・45
(昼食) 13・45(鍋倉山) 14・00(一
美濃分岐) 14・35(日坂分岐) 15・
15(林道登山口) 15・30(長者の里
15・35(40(バス) 池田温泉) 16・
30(入浴) 17・15(バス) 大垣駅
17・40(解散)
鍋倉山には適度に積雪があり、

美濃・鍋倉山
(自然観察山行243)
2月2日(日) くもり
(集合) J R大垣駅9・00(バス
) 長者の里10・05(20) 林道登山口
10・30(尾根) 合流分岐) 10・30(一
5(11・00(美濃分岐) 11・30(一
鍋倉山) 12・35(遊歩小原) 12・45
(昼食) 13・45(鍋倉山) 14・00(一
美濃分岐) 14・35(日坂分岐) 15・
15(林道登山口) 15・30(長者の里
15・35(40(バス) 池田温泉) 16・
30(入浴) 17・15(バス) 大垣駅
17・40(解散)
鍋倉山には適度に積雪があり、

御嶽・乗鞍・白山・北ア・中ア、奥美濃の山々の雪景を満喫する。ブナなどの温帯落葉樹林を観察し、アニマルトラッキングを楽しんだ。(参加者)石井照雄 荻野美紀恵 伊藤直 緒方由子 北村つねみ 栗橋良吉 栗橋君子 中澤岡司博 小林桂 西田俊治 武藤由美子 牧和夫 三井敏一 森 美香子 山形 明 渡辺洋治 ○狩野東彦 ◎鷺見守康 (計18名)

宇陀・伊勢佐山から井定岳
2月2日出 くもり
(集合) 近鉄橋原駅9・50〜55 (バス) 比布10・05〜15 高山右近10・45 沢城跡(出の巻)11・25〜35 猿蓑展望地12・00(集合) 12・30 伊勢佐山12・35〜40 林道の峠12・50 井定岳14・00〜15 船尾民家15・00 橋原駅15・20(解散)
「ダリヨとジェスト道」を沢城跡へ登り、尾根道から展望を楽しんで猿蓑で昼食、三峰山など高見山道を進く眺めた。伊勢佐山から井定岳は倒木が多く苦労したが、最後の急登もわずかで空気の良い山頂に着いてキッとした。初級と案内したが、けっこう手強いこ

スだった。(参加者) 鮫田一郎 内田昭彦 植木敏子 篠崎敬子 武井輝邦 古山幸男 木田潤子 伊東ナオ子 徳田暢子 君塚健子 藤原由美子 本家洗子 夏山登子 武部美美子 朽名生石 兼田幸子 小林博子 水島律子 塚本忠次 佐野信江 渡辺和代 岡崎知子 青木一雄 舟岡 武 水谷暢子 ○藤原良彦 ◎村田智俊 (計27名)

六甲・ロックガーデン
2月3日 晴 ◎古賀隆一
・係の都合で中止しました。
青竜山・本堂山・松尾寺山
(鈴鹿を歩く279)
2月3日 晴 雪
(集合) 国造307号線マールゲレットステーション8・30(車) 正業寺8・50 城跡9・20 上ろうおとせ9・40 本堂山10・00 正業寺10・45(車) 胡宮神社11・00 青竜山11・45 胡宮神社12・10(昼食) 13・00(車) 宇留川ダムサイト13・20 松尾寺山14・15 15 15(解散)
雪で湖東平野は白一色。本堂山はストックで枝の雪を落としながら

らの登山となった。三山共、湖東平野と登り寺山など大パノラマが展開し、松尾寺山ではサルの大群が道路側の金網を登るのを見た。林道が山頂直下までのびていて気楽に楽しめる山だ。今回はストックだけの空身登山でのんびりと楽しく歩けた。
(参加者) 木下朝子 三下伸夫 今井武司 芝義雄 一芝美知子 高橋良治 谷 守 奥野太一郎 岩本彰子 北村 稔 佐古田文字 榎田勝利 小林 修 稲津謙治 ○後藤康幸 ○山田景二 ◎若野 明 (計17名)

晴羽山・大文字山から若王子山
(火曜ハイク40)
2月5日 晴れ
(集合) JR山科駅9・30〜35 登山口9・50〜10・05 晴羽山10・20〜10・50 10・50 小金峰分岐11・25 山中11・50(昼食) 12・30 南社12・45 大文字山三角点13・00〜15 若王子山14・20〜30 南神寺14・45〜15・00(解散)
この尾根を安末尾根と言う。晴羽神社の背後に位置する300m前後の山並で、晴羽山・梅山などの山頂はすべて雑木林のなかで

かりにくい歩きやすい。展望はないものの静かに気持ちがいい。凹凸の少ない山道を歩き、山中で昼食にする。展望のすばらしい大文字山を注視し、若王子山に上って解散した。
(参加者) 大林 進 谷合 昭 木村 豊 今泉 勲 野末あや子 良方 木下朝子 宮路ちへ子 本家洗子 若林文夫 宮野穂子 夏山登子 栗橋君子 堀内積智 清 紀嘉 小林 桂 武部美美子 佐野信江 永富律子 久馬麻登河 中村英雄 渡部和美 久保田裕子 塚本忠次 後藤康幸 庁 すみ子 磯部 純 本間 隆 本間 繁子 岩本彰子 和田直樹 森美美美子 舟岡 武 川上久堅 船本裕巳子 山岸勝雄 岩城敬子 笹井百合子 園田翠章 金森節子 大園加代子 谷 守 加藤浩一 小川富士雄 高木忠夫 中谷幸子 加納由紀子 小谷和子 兼田幸子 ○青木一雄 ○小松忠信 ○村井寿和 ◎併合社司 (計53名)

美濃・高沢山から大仏山
(自然観察山行244)
2月9日出 雪
(集合) JR岐阜駅9・15(レン

タカノ) 高沢観音駐車場10・30 高沢山10・55 大仏山11・30 45 1 日電車寺12・25 東原12・45(昼食) 13・15 高沢観音駐車場13・25(車) 岐阜駅15・00(解散)
高沢観音駐車場に着いたときにはすでに雪が降り始めていた。大仏山から戻ったら日電車寺は雪景色。昼食休憩中に降雪は本格的となり、展望はあちこちで遮断。入浴も反省会もとりやめた。
(参加者) 佐々木三三代 徳田暢子 若林文夫 荻野美紀恵 武藤由美子 ○山形 明 ◎鷺見守康 (計7名)

(10日 晴れ) 宿8・00(バス) 佐向谷登山口10・00〜15 電車の辻10・40 表参道合点11・00 崎の堂展望台11・10 20 山頂展望台11・25(昼食) 12・00 電神社12・05 八幡社12・20 三屋山分岐12・30 電屋の角13・10 三屋山13・50 14・10 西岡の角14・30 電車の辻14・55 佐向谷登山口15・20 40(バス) 大阪駅18・30(解散)
初日、和歌山南部でも大雪になったので子ノ泊山へ先に登った。子年の人はメンバーに2人。翌日は一転春の陽気となり、三屋山への岩場ロープもみんなクリアして楽しんで歩けた。
(参加者) 小谷和子 久馬麻登河 宮野節郎 宮野穂子 村末あや子 多賀久子 岡崎知子 野田はる江 白鳥忠子 若井寿和 伊東ナオ子 上田裕子 須藤君子 宮崎由美子 小池一郎 大東 哲 山岸勝雄 高木忠夫 ○狩野東彦 ○比佐裕美 ◎村田智俊 (計16名)

(集合) JR京都駅7・20〜30 (バス) マキノ高原9・05〜20 登山口9・30 12 12の木平10・28 42 赤坂山12・00(昼食) 13・00 12 12の木平13・30 50 登山口14・20 15 00(バス) 京都駅17・45(解散)
マキノ高原では雪が少なかったが、登山口まで来るとかなりあり、赤坂山の頂上付近は雪庇が張っていた。風が強いので少し下りた所で昼食。展望を楽しみながら往路を下した。
(参加者) 松村暢子 川戸せつ 若槻健司 三野 旭 加納由紀子 荻野穂子 稲津謙治 栗橋崇吉 栗橋君子 金森節子 武部美美子 小林 桂 高橋良治 船本裕巳子 堀江勇盛 和田暢子 岩本彰子 夏山登子 山根弘美 米見真砂子 山形 明 村井寿和 武藤由美子 三井敏一 ◎森脇直哉 (計25名)

京都市北山
愛宕山から電ヶ岳
2月13日 晴 くもり時々雪
(集合) JR保津駅8・15 中尾根大岩9・50 西コース 水尾分岐小嵐10・50 愛宕山11・35(昼食) 12・15 芦見谷電登山口

伊賀・尾ヶ岳
(サイクリング&登山⑥)
2月9日出 ◎山口敏明
・雨天のため中止しました。

湘西・赤坂山
2月10日出 くもり
(近江の山シリーズ⑧)

京都市北山
愛宕山から電ヶ岳
2月13日 晴 くもり時々雪
(集合) JR保津駅8・15 中尾根大岩9・50 西コース 水尾分岐小嵐10・50 愛宕山11・35(昼食) 12・15 芦見谷電登山口

南山城・鷲峰山
2月15日 晴 くもり時々晴れ
(集合) 京阪宇治駅8・43(バス) JR宇治駅8・53(バス) 雑中前

南紀
電神山・三屋山と子ノ泊山
2月9日出 くもり 泊2日
2月9日出 くもり 泊2日
(9日 雨のち雪) (集合) 近鉄上本町駅8・30 15 (バス) 藤光新登山口14・30 35 子ノ泊山15・40 50 (往路) 登山口16・50 (バス) 熊野川温泉「さつき」18・10(泊)

湘西・赤坂山
2月10日出 くもり
(近江の山シリーズ⑧)

京都市北山
愛宕山から電ヶ岳
2月13日 晴 くもり時々雪
(集合) JR保津駅8・15 中尾根大岩9・50 西コース 水尾分岐小嵐10・50 愛宕山11・35(昼食) 12・15 芦見谷電登山口

南山城・鷲峰山
2月15日 晴 くもり時々晴れ
(集合) 京阪宇治駅8・43(バス) JR宇治駅8・53(バス) 雑中前

9・20〜40―大湯寺手前中10・
10―大道寺川堤10・20〜30―地福
谷休所11・05〜15―大道寺コー
ス(合流東岸休所12・00(昼食)
12・40―金胎寺13・00〜20―鷲峰
山(最高峰)空疎の峰13・30〜35
1―等三角点と天淵点14・00〜10
―茶室明神社15・25〜35―工業団
地口バス停16・10〜20(解散)・16・
26新発田辺行き、16・40発宇治行
きにて各自帰路)

正規の大道寺コースが工事中で
地福谷コースに変更になっている。
迂回地の福谷林道には積雪もあつ
て時間がかかり、山頂手前の東屋
の休憩ベンチで昼食をとった。山
頂は20℃程の大雪で思わぬ雪山歩
きとなり、一等点と天淵点を見て
くだった。

(参加者)大林 進 島田 廣
今泉 勲 夏山春子 宮路ちへ子
前田栄三 巻田 晃 久保田珍子
水富勝子 岡田孝子 中上紀代子
山岸律雄 岩城豊子 都築由美子
加藤浩一 小谷和子 笹井百恵子
岡 義子 井上登美 井上由紀晴
君塚佛子 妹尾一正 舟岡 武
本間 隆 本間夢子 佐々木幸子
中谷幸子 磯部 純 ○川上久登
◎村田智俊 (計30名)

(重) 芹川ダム公園9・05―栗橋
9・30―杉坂峠手前12・00(昼食)
12・40 栗橋14・20―公園15・00
(解散)

大雪で風穴から先が入れず雲仙
山は中止。芹川ダム公園まで引き
返し、杉坂峠まで林道を登るこ
とにした。栗橋が30℃程度で登るに
つれ、付近になり、カンジキ隊
を前にふわふわの雪をラッセル。
深い杉林ではどどどと雷鳴を上げ
て木に積った雪がみんなを直撃。
下りはヘアピンをカット、ヒップ
スキーで下りる人もいた。しっか
り積った深い樹林の林道歩きは最
高で、木格の冬山を楽しんだ。

(参加者)小林 桂 多田 徳
木下朝子 永戸鉄造 奥野太一郎
櫻田勝利 一芝雅雄 久美知子
福津謙治 北村 稔 北村つねみ
小林 修 森村 守 佐古田文子
大西節郎 岩本彰子 炭田明美
◎山田豊三 ◎岩野 明 (計19名)

紀東・岩峰山から和泉城山
2月21日(雨) 晴れ
(集合) 近鉄宮田林駅9・00〜05
(バス) 明神谷登山口10・30―岩
峰山10・55―大石ノ峰13・30(昼
食) 14・00―和泉城山一等三角

湖西の山
比良・漣山

2月16日(出) くもり時々雪
(集合) JR北小松駅9・00〜08
―鶴川登山口9・40―カンジキタ
イム10・30―休所11・30―鶴川峠
分岐広場下12・35(昼食) 13・15
―鶴川を渡り登山道合流点14・55
―北小松駅16・40(解散)
鶴川北尾根を往復。積雪60cmの
雪景色と雪上トレックを十分楽し
んだ。

(参加者) 杉本英一 光川 三美子
山形 明 岡近正男 船本裕巳子
木下朝子 岩本彰子 武藤由美子
三井純一 神野孝允 竹越富美江
金森節子 加藤誠計 網本美恵子
狩野東彦 谷 守 松村穂子
小林 修 石原君子 栗岡孝子
◎高島伸浩 (計21名)

江越園境・上谷山
2月16日(出) 17日(回) ◎田中賢治
* 係の都合で中止しました。

紀東・三圃山から経塚山
2月17日(回) くもりのち雪
(集合) JR新大阪駅8・30(バ
ス) 父鬼・宮ノ谷林道10・40〜50
―谷道から尾根へ11・20―岩場手

点14・40―お地蔵さん登山道―溪
谷歩道15・45―牛滝山バス停16・
00(バス) 宮田林駅17・00(解散)
先週降ったと思う残雪が山頂に
向かうほど多くなり、予想外の雪
山山行になったが、さほど遅れる
こともなく快適に着いた。
(参加者) 渡部和美 奥田則夫
栗橋君子 志水明美 野末あや子
竹田勝美 上田久子 大和 純
飯田一郎 大林 進 船本裕巳子
古山幸男 榎 照子 池田 茂
長沢佑美 原 孝子 片岡志美子
岡崎知子 竹村英樹 都築由美子
下郎正年 大東 哲 伊東ナナ子
辻垣知子 ○前川和雄 (計26名)
◎西上利和

紀東・楳石山

(ファミリーハイキング)
2月24日(回) くもり
(集合) 南海作駅10・10―南海
宮園10・45―50―田山川木橋11・
10〜15―小島の森11・45〜50―楳
石山12・15(昼食) 12・40―大福
山12・55〜13・00―楳石山13・15
―20―第一休所14・05〜13―ヒル
ンヒル坂南14・40〜50―国民年金
健康センター前15・00〜10(バス)
稲作駅15・20(解散)

前11・40―林道の尾根12・00―三
圃山12・30(昼食) 13・10―七越
峠13・30〜35―経塚山14・00―鶴
谷峰14・30―父鬼15・30〜40(バ
ス) 車内解散 風の湯16・25(バ
ス) 河内長野駅16・40
大岩谷林道上部が工事中のため
宮ノ谷林道から千本杉峠を目指し
たがテープにつられ、滑りやすい
岩場の支尾根を登った。何とか緩
線の林道に出合ってホッとした。
三圃山で降雪が激しくなり、鶴谷
峠へバスが来ていない。路面凍結
で上れなかったとか。積雪の車道
を1時間かけて父鬼へくだった。
牛滝温泉へ行く時間も無く、河内
長野へ出て希望者のみ「風の湯」
へ入浴。ほとんどの人は河内長野
駅より帰路について。

(参加者) 植木敏子 大園加代子
渡部和美 多賀久子 村田はる江
岡崎知子 白富忠子 野末あや子
三野 旭 岩崎健司 伊東ナナ子
飯田 二郎 三井純一 濱本美和恵
荒木光雄 桜庭 栄 武部美恵子
若林文夫 柳川常雄 山高多恵子
下郎正年 小池 一郎 安田文美江
佐藤和子 林 信男 小坂さゆり
木村梢恵 橋原良彦 岡本正明
宮野哲郎 宮野穂子 高木中実

気持ちのよい自然林の田山川溪
谷をつめて楳石山へ登る。時々雪
がちらつく寒さのために、昼食を
早く切り上げ、大福山まで足をの
ばして温まった。
(参加者) 岩崎健司 小田朝子
岩田孝子 本家洗子 伊東ナナ子
林 信男 岡本和子 都築由美子
渡辺いく 中辻勝子 宮村信夫
川上久登 和田穂子 水富律子
青木一雄 本間朝恵 村と穂子
兼田孝子 長沢佑美 成川みさお
渡部和美 山根弘美 武部美恵子
井上穂子 竹田善英 中谷幸子
岡崎知子 佐々木トシ子
◎巻田 晃 ◎木村太郎 (計26名)

京滋

逢坂山から長等山・千石岩
2月27日(回) 晴れのちくもり一時
小雪
(集合) 京阪追分駅9・00―摂取
院9・05―18―追分山東南尾根末
端鉄塔9・38〜42―菱形基岩崩落点
9・57―逢坂山10・08〜13―小園
越10・31〜36―坊越11・05―四つ
辻11・38(昼食) 12・22―長等山
12・30―ゴルフ谷出合13・00―千
石岩13・15〜30―早尾神社14・00

○福岡 章 ◎村田智俊(計34名)

蛇谷ヶ峰から富坂尾根
(比良を歩く63)
2月17日(回) ◎桑 康夫
* 雨天のため中止しました。

台高・三峰山(展望の山4)

2月17日(回) くもり時々雪
(集合) JR桑名駅6・35(車)
飯部北奥林道・ゆりわれ登山口8・
40―ゆりわれ11・10(昼食) 11・
25―登山口12・10(車) 飯高道の
駅(休憩) 13・00(車) 桑名駅15・
00(解散)
南からは我々を含め20人程が登っ
ていたが、山頂は数十人がいて奈
良からの人達だった。霧水はあま
り無かったが、雪が付いている樹
水のようにだった。
(参加者) 森見重見 伊藤重美子
小林二世 鳥居信吾 生越重美子
小山 稔 長坂佐知子
◎山田明男 (計8名)

樹水の雲仙山西南尾根
2月17日(回) 雪
(集合) 甲頭倉入口広場8・40

(解散)

意外に天候良く、春近き里山の
雑木林の歩行を味わった。以前歩
けた長等山から千石岩への尾根道
はゴルフ場境界フェンスにより閉
鎖。早尾神社への尾根道途中より閉
鎖。ゴルフ谷を下り、千石岩に登り返
した。千石岩での道幅はきかなか
たが、霧霧湖が眺望でき、奇岩の
上り下りとゴルフ谷の下りを楽し
んだ。

(参加者) 飯田 二郎 沖 紀子
矢谷穂子 木村 豊 野末あや子
呉山三三 本家洗子 若林文夫
栗橋君子 小林 桂 木下朝子
加藤浩一 宮崎紀正 小川富士雄
塚本忠次 川上久登 佐々木幸子
金森節子 井上聡美 井上由紀晴
萩野暢子 青木一雄 原 みとえ
松本忠雄 岩本彰子 松上美代子
今村克美 栗田孝子 友田美保子
富田孝子 栗田孝子 村田はる江
森 和久 岩城豊子 和田直樹
長沢佑美 山根弘美 小川明美
本間 隆 本間朝恵 小川明美
岡田里子 武田高司 中谷幸子
竹田善英 小林穂子 中上紀代子
夏山登子 舟岡 武 加納由紀子
小松吉信 清 紀嘉 後藤純子
村井寿和 大角吉三 中川節子

発行所 ○磯部 純
 ○谷 守 ◎谷 昭 (計別名)

北河内
 ほした園地からくろんと園地
 (金剛山ハイキング2)

2月20日 晴れ

(集合) 京阪私市駅 9:00 ~ 20:00
 ビトンの小屋 10:00 ~ 星のプラン
 コ10・201やまびこ広場 10:40 ~
 まつかぜの路(こもれびの路) 警
 船社 10:10 北河内(八丁) 12:
 00 (昼食) 12:40 泉境尾根巡視
 路(くろんと池展望台 13:50 ~ く
 ろんと池 14:05 ~ 201 さわたり
 の路(八ツ橋 14:45 ~ こだちの路
 1 最高点(△319・3) 15:00
 やまこえの路(水舞台 15:25 ~ す
 いれん池管理棟 15:40 ~ 50 月輪
 流 16:10 私市駅 16:30 (解散)
 快晴の日だまりハイク。ほした
 園地を巡り、警船社から八丁岩
 に登り、尾根道をくろんと池にた
 どった。くろんと園地は八ツ橋か
 ら最高点 展望台 水舞台と通つ
 てすいれん池から私市駅へ戻った。
 ややロングだったが、起伏も少な
 く車山気分が府民の森の恩恵もたつ
 た。

(参加者) 木内純文 久保田瑠子
 水富律子 松本忠雄 笹井百合子
 東村由美 兼田幸子 佐々木孝子
 松井英乃 中村英雄 野里マツ代
 中川光郎 今泉 勲 飯田トシエ
 田中 勝 ◎村田智俊 (計16名)

新ハイキング関西 山行係(リーダー) 紹介(平成20年5月現・五十音順)
 氏名 例会名 住所 電話(FAX共)

稲垣逸夫(三重の山)	鈴鹿市	05993(71)	0246
若野 明(鈴鹿を歩く)	近江八幡市	0748(33)	7215
金谷 昭(北山ちよと歩き)	京都市	075(581)	7947
狩野東彦(週末ハイク)	向日市	075(933)	1458
木村太郎(ファミリーハイク)	吹田市	06(6834)	5488
古賀慶二(兵庫・中国周辺の山)	加古川市	0794(26)	1890
阪上義次(神戸北部の山)	大東市	072(878)	6818
須藤岡輝(兵庫周辺の山)	姫路市	079(273)	3037
鷺見守康(自然観察山行)	各務原市	0583(83)	3978
高島伸浩(若狭・湖北の山他)	敦賀市	0770(23)	2443
田中 明(花巡り山行他)	長岡京市	075(954)	5758
塚元一彦(地蔵めぐり山行)	大阪市	06(6933)	4125
寺井恒夫(平日ふれあいハイク)	京都市	075(811)	5231
仲谷礼司(火曜ハイク)	長岡京市	075(952)	1577
西上和(奈良周辺の山)	河内長野市	0721(63)	7196
	FAX	0721(63)	5988
秦 康夫(比良を歩く)	京都市	075(491)	2373
村田智俊(金剛山ハイク 京都北山他)	城陽市	0774(53)	2754
森脇貞義(近江の山シリーズ他)	高島市	0740(22)	5088
山口敏明(サイクリング&登山)	名張市	0595(64)	0107
山田明男(鞍馬百山・展望の山)	海津市	0584(56)	1466

入会案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。
 「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、関東を中心に57年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で17年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。
 会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。
 会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。
 係(リーダー)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が例会に参加される時は、山行運営費として400円を支出していただきます。
 四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これ

から始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんへ入会いただきます。
 入会金 500円(ワッペン共)
 年会費 3300円(送料共)
 入会の申し込み(随時)は、この雑誌に抑入の振替用紙をご利用ください。第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。
 なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きます。
 お友達のご住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料で送ります。
 ○山行係(リーダー)募集
 係は2ヶ月に1回程度の山行例会を計画・実施していただきます。
 無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「リーダー必携」をご参考にお送りします。

○新入会員(定期購読者) 紹介
 新しいお仲間のみなさんです。
 会員番号5345番から5362番まで(敬称略)
 【愛知】 苑田正子 鈴木美代子
 【岐阜】 馬場桂子 杉野茂樹
 【滋賀】 紀田信生
 【京都】 大角吉三 木村加寿子
 福水友子 竹内虹子
 川端圭子 入江 勲
 【大阪】 原田宗治 森 ミサ子
 田中 勝 中川鉄也
 平居裕子
 中辻勝子 小阪佳代子 (18名)
 【奈良】
 書店でお求めになりたい方へ
 前もって毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃(隔月刊)の発売